

平成20年度項目別評価表
業務実績 添付資料

(独) 沖縄科学技術研究基盤整備機構

平成20年度評価表 添付資料一覧

添付#	名称	頁
#1-1	研究ユニット一覧(H20)	1
#1-2	研究ユニット所属人数	2
#1-3	平成20年度 共同研究契約・受委託研究契約	3
#2	主任研究者 採用手順のガイドライン	4
#3-1	月別コンピューター使用時間	5
#3-2	月別コンピューター使用回数	5
#4-1	G8「環境とエネルギー問題」ワークショップ(チラシ)	6
#4-2	G8「環境とエネルギー問題」ワークショップ(要旨)	7
#5-1	冬期コース「生物複雑系の進化」プログラム	9
#5-2	「生物複雑系の進化」コース2008参加者数	10
#6	2008年出版リスト	11
#7-1	年次報告書・ニュースレター配布先	15
#7-2	普及活動	16
#8	特許出願リスト	18
#11-1a	ワークショップ開催実績(H20年度)	19
#11-1b	セミナー開催実績(H20年度)	20
#11-1c	国際ワークショップ 対前年度	24
#11-2	ワークショップアンケート	25
#12-1	新大学院大学の青写真	39
#12-2	平成20年度大学院大学設置準備グループの活動概要	42
#12-3	大学・大学院等に関する調査	43
#12-4	大学院大学開学に関する追加資料	44
#13	学長人選について	46
#15-1	キャンパス整備状況	47
#15-2	ラボゾーン施設整備状況	47
#16	ファカルティ宿舎利用状況	48
#18	移転業務 行程計画表(素案)(2010年)	50
#19-1	平成20年度 職員研修リスト	52

添付#	名称	頁
#19-2	新入職員オリエンテーションプログラム	53
#20-1	組織図(080401/090401/090801)	54
#20-2	監事監査実施状況	57
#20-3	国民からの意見募集について	58
#20-4a	理事長室&エグゼクティブオフィス所掌業務	58
#20-4b	組織規程(抄)(理事長室及びエグゼクティブオフィス)	59
#20-5	調達課を人事・財務部の下に置く理由	61
#20-6	競争的資金の獲得業務体制	62
#21-1	平成20年度における随意契約見直し計画のフォローアップ	63
#21-2	平成20年度における調達について(一覧表)	64
#21-3	随契見直し計画の達成状況について	76
#21-4	総務省政策評価・独立行政法人評価委員会の指摘内容を踏まえた対応について(契約の適正化に係るもの)	77
#21-5	新旧対照表(契約事務取扱規則)	78
#21-6	第1回 調達に関する第三者委員会 議事要旨	79
#21-7	第2回 調達に関する第三者委員会 審議概要	81
#21-8	契約の合規性等に係るチェックプロセスについて	87
#22-1	シーサイドハウス施設について	88
#22-2	主要な固定資産の状況	88
#24	企業からの寄附金について	91
#25-1	給与水準の比較指標について参考となる事項	92
#25-2	福利厚生費について(H20年度)	93
#25-3	諸手当について(H20年度)	94
#26	OIST研究ユニット評価手順	95
#28	施設整備費補助金等の繰越額が多いものの業務進捗に支障はない理由について	96
#33-1	H20度 事務職員の採用活動	97
#33-2	H20度 定年制職員数月別データ&採用活動	98

<添付資料 #1-1 >

研究ユニット一覧 FY2008

(平成21年3月31日)

	主任研究者	国籍	ユニット名
1	銅谷 賢治	日本	神経計算ユニット
2	柳田 充弘	日本	G0細胞ユニット
3	遠藤 昌吾	日本	記憶と学習の分子神経生物学ユニット
4	外村 彰	日本	電子線ホログラフィーユニット
5	シドニー・ブレナー	イギリス	分子遺伝学ユニット
6	丸山 一郎	日本	情報処理生物学ユニット
7	内藤 隆之	日本	分子神経科学ユニット
8	ロバート・シンクレア	オーストラリア	数理生物学ユニット
9	政井 一郎	日本	神経発生ユニット
10	クラウス・シュティエフェル	オーストリア	理論・実験神経生物学ユニット
11	ジェフ・ウィッケンス	ニュージーランド	神経生物学研究ユニット
12	ゲイル・トリップ	ニュージーランド	発達神経生物学ユニット
13	ゴードン・アーバスノット	イギリス	行動の脳機構ユニット
14	エリック・デ・シュッター	ベルギー	計算脳科学ユニット
15	ファデル・サマテ	フランス	細胞膜通過輸送研究ユニット
16	高橋 智幸	日本	細胞分子シナプス機能ユニット
17	メリー・アン・プライス	アメリカ	発生分化シグナル研究ユニット
18	佐藤 矩行	日本	マリンゲノミックスユニット
19	ジョナサン・ミラー	アメリカ	物理生物学ユニット

<添付資料#1-2> 研究ユニット所属人数

ユニット名	発足年月	区分	2005.9.1	2006.3.31	2007.3.31	2008.3.31	2009.3.31					
1 銅谷ユニット	2004.4	1	8	1	8	1	6	2	7	1		
		2	1	1	1	1	1	1	0			
		3	13	2	15	2	16	2	16	2	15	3
2 柳田ユニット	2004.4	1	7		7		6		6			
		2	5	1	5	1	5	1	6		8	3
		3	14	1	14	1	14	1	15	2	17	3
3 遠藤ユニット	2004.10	1	2		3	1	3	1	5	3	3	2
		2	4		4		4		4		3	
		3	8		8	1	9	1	11	3	9	2
4 外村ユニット	2005.4	1	2		2		3		4	1	5	
		2										
		3	2		2		3		7	1	9	
5 ブレナユニット	2005.12	1			1	1	1	1	1	1	1	
		2					2		4	1	2	
		3			1	1	3	1	5	1	3	1
6 丸山ユニット	2005.11	1			3		8	2	8		7	4
		2			2		3		3	2	4	1
		3			5		14	2	13	2	13	5
7 内藤ユニット	2005.11	1			2	1	5	1	5	1	4	1
		2			1		3		3		3	
		3			3	1	8	1	9	1	8	1
8 シンクレアユニット	2006.7	1					1	1	2	2	3	2
		2										
		3					1	1	3	2	4	2
9 政井ユニット	2006.1	1					4		5		5	
		2					2		2		3	
		3					6		8		9	
10 シュタイフェルユニット	2006.11	1					1	1	2	2	3	3
		2					2	2	1	1		
		3					3	3	4	3	4	3
11 ウィッケンユニット	2007.1	1					3	2	5	4	7	3
		2							1		2	2
		3					5	2	9	4	11	6

ユニット名	発足年月	区分	2005.9.1	2006.3.31	2007.3.31	2008.3.31	2009.3.31					
12 トリッフユニット	2007.1	1			1	1	3	3	3	1		
		2					3		2			
		3				1	1	7	3	6	1	
13 アバース/ットユニット	2007.1	1			2	2	2	2	3	3		
		2										
		3			2	2	2	2	4	3		
14 デッシュターユニット	2007.4	1					2	2	6	6		
		2					4	4	4	4		
		3					7	6	11	10		
15 サマテユニット	2007.4	1					4	2	5	4		
		2					2	2	2	1		
		3					6	4	8	5		
16 高橋ユニット	2007.4	1					4		7			
		2					1		1			
		3					6		9			
17 フライユニット	2007.5	1					4	2	6	4		
		2					1	1	1			
		3					6	3	8	4		
18 佐藤ユニット	2008.4	1							4			
		2							3			
		3							8			
19 ミラーユニット	2008.4	1							3	3		
		2										
		3							4	3		
Grand total		1	19	1	26	4	46	13	68	28	88	38
		2	10	2	13	2	22	4	36	11	38	11
		3	37	3	48	6	85	17	134	39	160	52

1: 代表研究者、グループリーダー、研究員の人数 赤字は内数としての外国人数 (2及び3も同様)
 2: 技術員の人数
 3: 各ユニットにおける人員総数

<添付資料#1-3>

平成20年度 共同研究契約

	ユニット名	相手方
1	共通 (遠藤/柳田/丸山/政井)	琉球大学
2	遠藤	信州大学
3		理化学研究所 伊藤研究室
4	銅谷	(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)
5		ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン
6		本田技術研究所
7	柳田	京都大学大学院
8	丸山	新潟大学医学部
9		琉球大学
10	サマテ	大阪大学大学院生命機能研究科
11	内藤	クオピオ大学 (フィンランド)
12		慶應義塾大学
13	アーバスノット	オタワ大学 (カナダ)
14		オタゴ大学 (ニュージーランド)
15	外村	TDK株式会社
16	トリップ	リオ・デ・ジャネイロ州立大学 (ブラジル)

平成20年度 受委託研究契約

	ユニット名	相手方
1	銅谷	日本電気株式会社
2	ブレナー	特定非営利活動法人システム・バイオロジー研究機構

<添付資料#2>

主任研究者 採用手順のガイドライン

手順	概要
1 募集	職務内容の記述を準備 (*) 公式な募集通知
2 応募者の選考	推薦人への照会 (*) 応募者を電話面接により選考
3 応募者の面接	応募者を機構へ招聘 面接の実施 (*) 研究計画書のプレゼンテーション
4 応募者の評価	研究計画書の質及び独創性の評価 (*) 応募者のプレゼンテーション及びコミュニケーションスキルの評価 主任研究者候補者として理事長に推薦 (*) 運営委員会の承認後に理事長により内定
5 内定通知	選出された応募者に通達 内定通知の発行

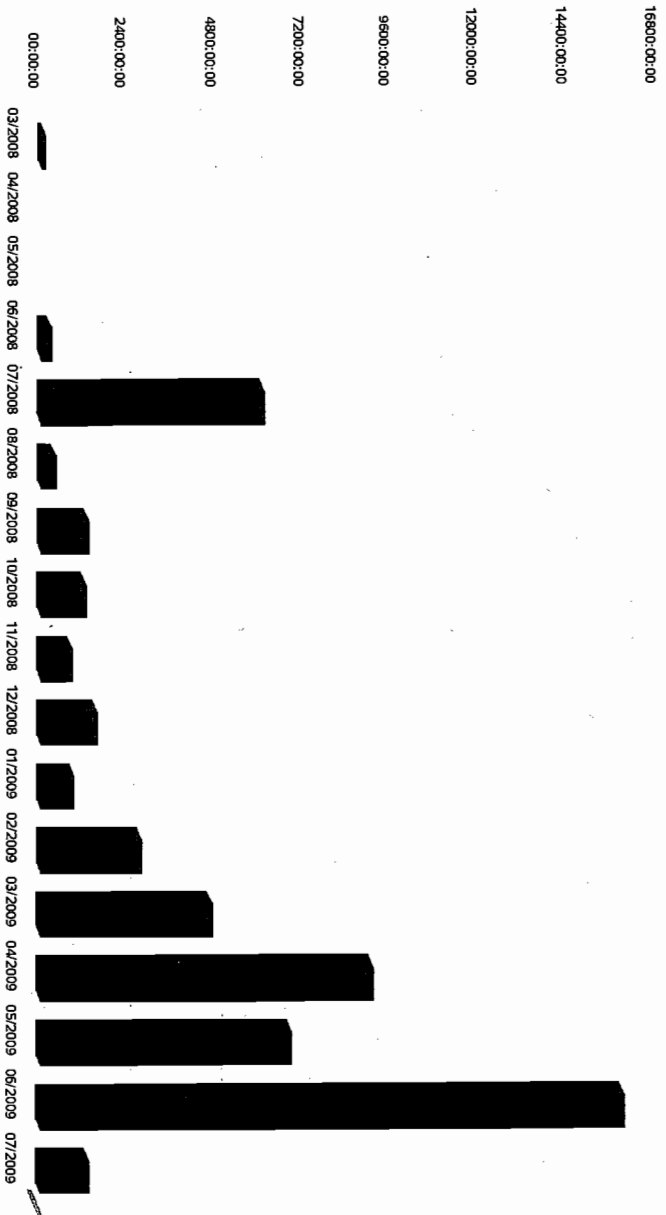
(*) 選考委員会が担当

審査委員会の構成員としては、理事長、理事、採用を予定しているPIポジションの研究分野に近い分野に携わるPI、及び外部の著名な研究者が考えられる。

<添付資料#3-1>

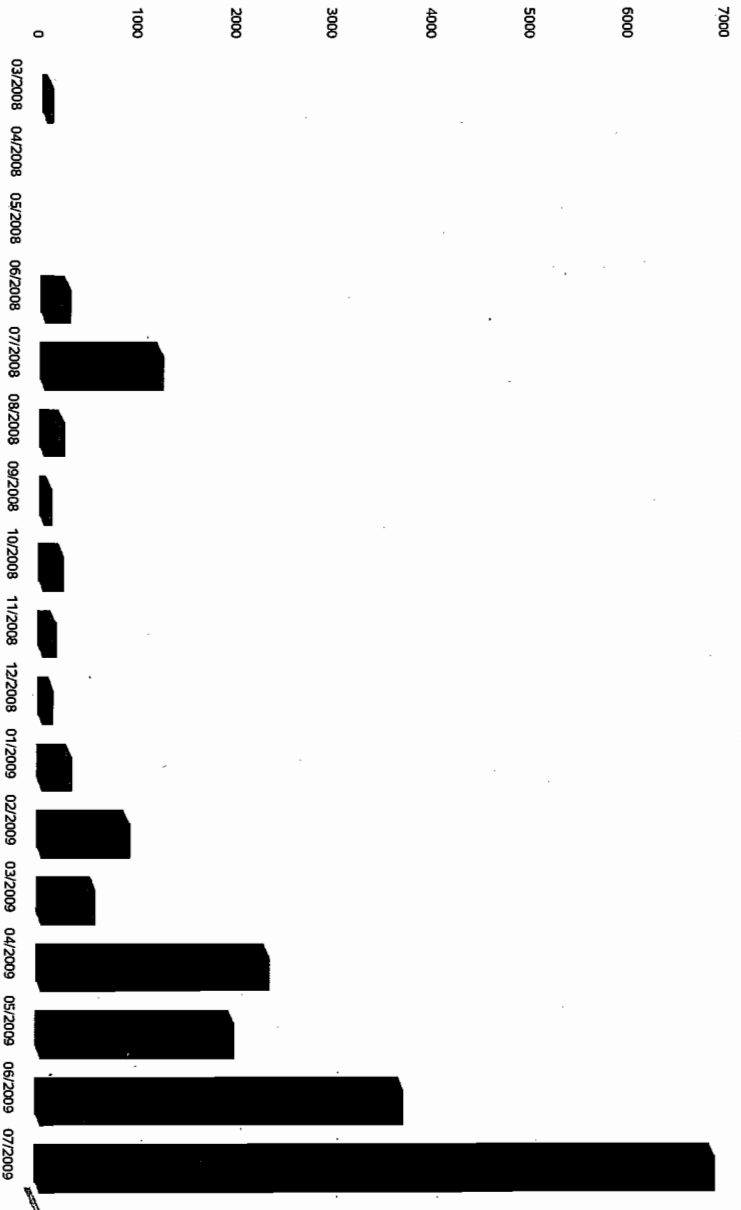
月別コンピューター使用時間

Computational hours per month (through 12 July)



<添付資料#3-2>

月別コンピューター使用回数 Jobs per month



<添付資料#4-1>



G8科学技術大臣会合 「環境とエネルギー問題」 ワークショップ in 沖縄

3人のノーベル賞受賞者による参加決定!

北海道洞爺湖サミットに先立ち、地球規模の課題の解決に向けた科学技術協力の強化などについて話し合うため、主要国(G8)史上初めてとなる科学技術大臣会合が6月15日に沖縄で開催されます。会合のプレイベントとして開催される本ワークショップでは、「環境とエネルギー問題」をテーマに、ノーベル賞受賞者を含むゲストスピーカーによる講演などを通して、いまなぜ科学技術が必要なのか、地域間・国際協力の可能性について考えます。

参加者



有馬 朗人 博士
(日本科学技術振興財団会長・元文部科学大臣
沖縄科学技術研究基盤整備機構運営委員会共同議長)
「安全な原子力を使わざるを得ない。
そして税金を払ってでも新エネルギーを」



李 遠哲 博士
(台湾中央研究院名誉会長・1986年ノーベル化学賞受賞
沖縄科学技術研究基盤整備機構運営委員会委員)
「アジア太平洋諸国の自覚と協力」



スティープン・チュー 博士
(ローレンスバークレー国立研究所所長・1997年ノーベル物理学賞受賞
沖縄科学技術研究基盤整備機構運営委員会委員)
「エネルギー問題と解決のために私たちができること」

開催者



シドニー・ブレナー 博士
(沖縄科学技術研究基盤整備機構理事
2002年ノーベル生理学・医学賞受賞)



北野 宏明 博士
(ソニーコンピュータサイエンス研究所取締役副所長
沖縄科学技術研究基盤整備機構スペシャルアドバイザー)
「気象変動とエネルギー問題に対する生物学的アプローチ」

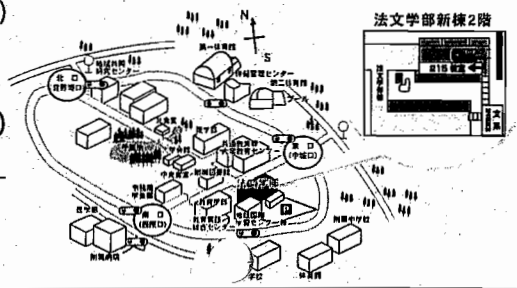
プログラム

9:00~ 9:10.....開催者挨拶

9:10~14:00.....各参加者による講演
(12:00~13:00...昼休憩)

14:00~15:00.....パネルディスカッション

- 開催日時: **平成20年6月14日(土)**
9:00~15:00
- 開催場所: 琉球大学法文学部 新棟 215教室
- 受講対象者: 高校生(100名)・大学生(100名)・一般(50名)
- 参加料: **無料**
- 通 訳: 日英同時通訳あり
- 申込期間: 平成20年5月19日(月)~5月30日(金)
※但し、定員に達し次第締め切ります。



問い合わせ及び申込み先
琉球大学 学術国際部 研究協力課 地域連携推進室
電話:098-896-8019,8031 FAX:098-896-8185
月~金 8:30~17:15 (土・日・祝祭日及び12:15~13:00は除く)

G8科学技術大臣会合
「環境とエネルギー問題」ワークショップ in 沖縄

要旨

主要国（G8）史上初めてとなる科学技術大臣会合が6月15日に沖縄で開催されるのに先立ち、会合のプレイベントのひとつとして「環境とエネルギー問題」をテーマとしたワークショップが6月14日に琉球大学で開催されました。ワークショップでは、4人のゲストスピーカーによる講演がおこなわれたほか、沖縄科学技術研究基盤整備機構の理事長、シドニー・ブレナー博士も参加して質疑応答がおこなわれました。以下は、講演と質疑応答の要旨です。なお、本ワークショップは沖縄科学技術研究基盤整備機構、琉球大学、台湾中央研究院、米国ローレンスバークレー国立研究所が主催、後援は沖縄県です。

有馬朗人博士

財団法人日本科学技術振興財団会長、元文部科学大臣
独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構運営委員会共同議長
講演タイトル：「安全な原子力を使わざるを得ない。
そして税金を払ってでも新エネルギーを」

新たな代替エネルギーは、より効率的で環境負荷が少ないものでなければなりません。統合された石炭ガス化サイクルと二酸化炭素回収・蓄積技術は重要となってくるでしょう。太陽光発電と風力発電も代替エネルギーとして活用できますが、年間を通じて一定した電力供給が困難であり、安価で効率的な蓄電池の開発が必須となります。新たなクリーンエネルギーも期待されますが、その貢献度は限られたものにならざるを得ません。

代替エネルギーがより安価に、そして安定的に利用できるようになると予想される少なくとも2050年までは、現在のこの危機的状況を回避するためにも原子力発電の利用と核融合の研究開発が必須です。国際原子力機関の調査は原子力発電に関する国民の受容度が向上してきていることを示唆していますが、核燃料の供給と安全性の確保、さらには、核廃棄物の適切な管理が鍵となります。先進国においては、3R運動（Reduce = 節約、Reuse = 資源を何回も使う、Recycle = 資源の再利用）を徹底することが必須で、税金を使ってでも新エネルギー技術の開発に取り組むべきです。

スティーブン・チュー博士

ローレンスバークレー国立研究所所長

1997年ノーベル物理学賞受賞

沖縄科学技術研究基盤整備機構運営委員会委員

講演タイトル：「エネルギー問題とその解決のために私たちができること」

世界の最も深刻な懸念のひとつが国家の安全保障です。これはエネルギー問題や経済的繁栄、社会的変化、そして潜在的に危機が差迫っているといわれる気象変動にも直結しています。これらの問題の鍵をにぎるのが、持続可能なエネルギーの生産と消費です。エネルギー効率の向上と資源の保全を一層促進し、新しい技術革新を促進する国家の政策が求められています。また、現在のエネルギーの需要と供給の在り方を一新するような科学的発見も求められています。これには、カーボンニュートラル（炭素中立）なエネルギーの開発や、今より5～10倍エネルギー消費を押さえられるビルの建設、排出された二酸化炭素を地中に埋める技術、ウィンドタービンの利用、より優れた電池の開発、そして食品原料と競合する農作物に代わる、ススキなどの植物によるバイオ燃料の開発などが含まれます。

また、既存の技術を利用し、エネルギーの需供バランスを一変する科学的発見にも期待が寄せられます。それには例えば、酵母を用いてガソリンとよく似た燃料をつくる合成生物学の技術や、光合成再現のため人工膜組織を作製する研究が挙げられます。

北野宏明博士

株式会社ソニーコンピューターサイエンス研究所副所長
沖縄科学技術研究基盤整備機構スペシャルアドバイザー
講演タイトル：「気象変動とエネルギー問題に対する生物学的アプローチ」

エネルギーと気象変動は今日人類が直面する最も重要な問題で、これらの問題を解決するためには複数の取り組みが必要です。手品のような解決策はなく、生物学的なアプローチが大変重要となってきます。それには食品原料と競合しない方法で作られるバイオ燃料の開発と利用や、生物多様性の維持が含まれます。

一つの鍵でありながら見過ごされがちなのは、さんご礁やその他の水生生物を含む海洋領域で、これらの研究は科学の裾野を広げることを意味します。また気候変動にともない、新たな健康上の問題が増大することも懸念されており、これらの解決のためには従来にはない、よりオープンなアプローチが必要となります。

沖縄科学技術研究基盤整備機構 (OIST) においては、カーボンニュートラル (炭素中立) のキャンパス設立をめざし、代替エネルギーに関する最先端の研究をおしすすめるほか、さんご礁の保護や再生、システム生物医学の研究を通して、沖縄がカーボンニュートラルな島になるよう働きかけることで、この試みの一翼を担うことができます。

李 遠哲博士

台湾中央研究院名誉会長

1986年ノーベル化学賞受賞

沖縄科学技術研究基盤整備機構運営委員会委員)

講演タイトル: 「アジア太平洋諸国の自覚と協力」

私たちは過去数十年にわたり人類のグローバリゼーション化を見てきましたが、達成にいたるにはまだ道半ばです。国家間の競争は烈しくなるばかりで、「ひとつのグローバルコミュニティ」を実現するにはほど遠く、このことが原因で私たちは様々なことに悩まされています。

フロンガスによるオゾン層の破壊をはじめとする環境問題や、温室効果ガスが原因の地球温暖化の傾向は、地球規模で取り組まなければなりません。沖縄はアジア太平洋地域の真ん中に位置します。離れた島でありながら、クリーンエネルギーを獲得することができることを世界に示すには素晴らしい場所です。また、沖縄科学技術研究基盤整備機構 (OIST) の目的のひとつが、アジア太平洋地域におけるエネルギーと環境問題について研究する国際拠点となることも有り得るのです。

21世紀に人類が直面する問題を科学技術によって解決するためには、今よりも速いペースで科学技術を進展させるだけでは不十分です。現在私たちが暮らすこの「有限」で「半グローバル化した」世界において、科学技術の果たせる役割について特別な関心をはらい、国境を越えて協力することを学び、「自国の国際競争力」について懸念し続けるのではなく、「問題解決のための国際競争」について注意喚起を促していけるようであれば、問題は解決しないのです。

パネルディスカッション

講義の後は、会場に集まった聴衆から質問をうけるかたちでパネルディスカッションがおこなわれました。最も現実的に、そしてすぐにも実現できる国の環境政策は何であるかという質問に対して、チュー博士からは排出した二酸化

炭素の量に比例して費用を支払うシステムを確立することが挙げられました。同博士の講義では、1974年以来カリフォルニア州の住民一人あたりのエネルギー消費が安定していることが紹介されましたが、ブレナー博士はこうした省エネ対策の重要性を強調し、消費者の意識を高めることの大切さを訴えました。またブレナー博士からは、電力消費量に応じて電力単価が累進的に上昇するような価格体系を導入することが提唱されました。

北野博士の講義では、ボルネオにおいてバイオ燃料生産用の油椰子栽培のために森林が伐採されていることが取り上げられましたが、会場からはこのようなことの予見可能性と防止策についての質問がありました。北野博士はこの問題の背景として、その地域の経済的困窮と政府の規制の有無と実効性に対する疑問点を挙げ、自然保護と経済的発展が両立するような技術移転と支援が、これらの問題の解決を必要とする国々に対して行われることの重要性を訴えました。

有馬博士に対しては、原子力発電に伴う危険性と国民感情に関しての質問が向けられましたが、同博士からは原子力技術の初めての利用法が原子力爆弾の製造ではなく、発電のためであったならば、国民の受けとめ方はもっと違っていたであろうと指摘しました。そして、日本では地震の時に原子炉が自動停止するなど、最近では原子力発電の安全性もきちんと確保されることが証明されるようになり、国民も徐々に好意的に受けとめているようだと言及がありました。

最後にパネリストたちは、地球温暖化とエネルギー問題に関して、全地球規模の協調と、それを解決する科学技術を進展させることの必要性について意見を一にしました。

OIST 冬期コース “「生物複雑系の進化」” プログラム

School (December 8–12)

Monday, December 8

- 09:30–10:00 Welcome note (Sydney Brenner) General introduction
10:00–11:30 Lecture 1 (Nori Satoh) "An overview of the evolution of complex systems of animals"
11:30–11:45 Break
11:45–12:20 Discussion (Nori Satoh)
12:20–14:00 Lunch
14:00–15:30 Lecture 2 (David Miller) "Animal genome evolution and the origins of axial patterning mechanisms: insights from diploblastic animals"
15:30–16:00 Break
16:00–17:00 Discussion (David Miller)
18:30–20:00 Mixer (dinner)

Tuesday, December 9

- 09:30–11:00 Lecture 3 (William McGinnis) "Hox genes: regulators of animal body patterning during development and evolution"
11:00–11:20 Break
11:20–12:20 Discussion (William McGinnis)
12:20–14:00 Lunch
14:00–17:00 Lab work (Takeshi Kawashima) "Molecular phylogenetic analysis"

Wednesday, December 10

- 09:30–11:00 Lecture 4 (Michael Levine) "Transcriptional precision in the *Drosophila* embryo"
11:00–11:20 Break
11:20–12:20 Discussion (Michael Levine)
12:20–13:30 Lunch
13:30–19:00 Excursion: Sesoko Station (Tropical Biosphere Research Center, University of the Ryukyus) and Okinawa Churaumi Aquarium

Thursday, December 11

- 09:30–11:00 Lecture 5 (Nori Satoh) "The origin and evolution of chordates"
11:00–11:20 Break
11:20–12:20 Discussion (Nori Satoh)
12:20–14:00 Lunch
14:00–15:30 Lecture 6 (Richard Harland) "Signaling pathways in *Xenopus* development"
15:30–16:00 Break
16:00–17:00 Discussion (Richard Harland)

Friday, December 12

- 09:30–10:30 Lecture (Sydney Brenner) "Evolution of complex systems"
10:30–11:00 Break
11:00–12:30 Discussion (Sydney Brenner)
12:30–13:30 Lunch

Workshop (December 12–13)

Friday, December 12

- 13:30–13:45 Opening address (Nori Satoh)
13:45–14:20 Sven Leininger: "Development and regeneration of the marine calcareous sponge, *Sycon ciliatum*"
14:20–14:55 Shinichi Sunagawa: "A novel, lineage-specific cysteine-rich peptide family expanded in reef-building corals"
14:55–15:30 Clement Lamy: "Whole genome analysis of the planaria *Schmidtea mediterranea* reveals new families of 7-transmembrane receptors"
15:30–15:50 Break
15:50–16:25 Martina Hroudová: "Molecular analysis of the evolution of body axes in basal bilaterians: conserved signalling pathways in the acoel *Isodiametra pulchra* and the rhabditophoran flatworm *Macrostomum lignano*"
16:25–17:00 Masa-aki Yoshida: "Function of vascular endothelial growth factor in vascular development of the cephalopod"

Saturday, December 13

- 09:00–09:35 Shigehiro Yamada: "Interaction of notochord-derived fibrinogen-like protein with Notch regulates the dorsal positioning of the central nervous system of *Ciona intestinalis* embryos"
09:35–10:10 Fuki Gyoja: "Analysis of large scale expression sequenced tags (ESTs) from the anurid ascidian, *Molgula tectiformis*"
10:10–10:30 Break
10:30–11:05 Rie Kusakabe: "Evolution of vertebrate myogenesis: insights from the muscle-related genes during lamprey development"
11:05–11:40 Kinya G. Ota: "Hagfish embryology and its significance for the vertebrate Evo-Devo study"
11:40–12:15 Koh Onimaru: "Insights into the sequential evolutionary events toward the acquisition of paired fins, in relation to evolution of T-box genes and *Engrailed*"
12:15–14:00 Lunch
14:00–14:35 Sukumar Chandra Noskor: "Ultrastructural studies of hepatic architecture in teleost livers associated with phylogeny"
14:35–15:10 Colin Crist: "Prediction and experimental validation of microRNAs that target the myogenic regulatory factors Pax3 and Myf5"
15:10–15:30 Break
15:30–16:05 Eiji Matsunaga: "Evolution and diversity in avian vocal system"
16:05–16:40 Tsuyoshi Yoda: "Shape transitions of cell-sized liposomes: osmotic stress and oxidative stress"
18:30–20:30 Farewell reception

Sunday, December 14

Departure

<添付資料#5-2>

「生物複雑系の進化」コース2008 参加者数

2008年12月8日～14日

	講師	チューター	コース参加者 (全日程)	ワークショップ 参加者 (12-14日)	聴講者	合計
アメリカ	3	1	1		1	6
イギリス	1		1			2
ヴェネズエラ			1			1
オーストラリア	1					1
オーストリア			1			1
カナダ			1			1
ドイツ			3			3
バングラデシュ			1			1
フランス				1		1
日本	1	7	6	5	5	24
合計	6	8	15	6	6	41
(うち外国人数)	5	1	9	1	1	17

<添付資料#6>

2008年 論文出版リスト

1. Achard, P. and E. De Schutter, *Calcium, synaptic plasticity and intrinsic homeostasis in purkinje neuron models*. Front Comput Neurosci, 2008. 2: p. 8.
2. Adachi, Y., et al., *Cut1/separase-dependent roles of multiple phosphorylation of fission yeast Cohesion subunit Rad21 in post-replicative damage repair and mitosis*. Cell Cycle, 2008. 7(6): p. 765-776.
3. Akiyama, K., et al., *Actin-related protein 3 (Arp3) is mutated in proteinuric BUF/Mna rats*. Mammalian Genome, 2008. 19(1): p. 41-50.
4. Aoyama, M., et al., *A novel biological role of tachykinins as an up-regulator of oocyte growth: Identification of an evolutionary origin of tachykininergic functions in the ovary of the ascidian, Ciona intestinalis*. Endocrinology, 2008. 149(9): p. 4346-4356.
5. Bissmarck, F., et al., *Combining Modalities with Different Latencies for Optimal Motor Control*. Journal of Cognitive Neuroscience, 2008. 20(11): p. 1966-1979.
6. Bonnard, B., et al., *Conjugate and cut loci of a two-sphere of revolution with application to optimal control*. Annales de l'Institut Henri Poincaré (C) Non Linear Analysis, 2008. doi:10.1016/j.anihpc.2008.03.010
7. Chen, E., et al., *Model of traveling waves in a coral nerve network*. Journal of Comparative Physiology a-Neuroethology Sensory Neural and Behavioral Physiology, 2008. 194(2): p. 195-200.
8. Christiaen, L., et al., *The transcription/migration interface in heart precursors of Ciona intestinalis*. Science, 2008. 320(5881): p. 1349-1352.
9. De Schutter, E., *Reviewing multi-disciplinary papers: a challenge in neuroscience?* Neuroinformatics, 2008. 6(4): p. 253-5.
10. De Schutter, E., *Why are computational neuroscience and systems biology so separate?* Plos Computational Biology, 2008. 4(5): p. 6.
11. Doya, K., *What is the objective function of the brain*. Instrumentation and Control, 2008. 47(1): p. 69-73.
12. Doya, K., *Computers in the brain: Network and molecular mechanisms in cerebellum, basal ganglia, hippocampus, and cerebral cortex*. Seitai-no Kagaku, 2008. 59: p. 10-19.
13. Doya, K., *Modulators of decision making*. Nature Neuroscience, 2008. 11(4): p. 410-416.
14. Elfving, S., et al., *Co-evolution of Shaping Rewards and Meta-Parameters in Reinforcement Learning*. Adaptive Behavior, 2008. 16(6): p. 400-412.
15. Englitz, B., K.M. Stiefel, and T.J. Sejnowski, *Irregular firing of isolated cortical interneurons in vitro driven by intrinsic stochastic mechanisms*. Neural Computation, 2008. 20(1): p. 44-64.
16. Fukunaga, K.I. and A. Sugawara, *Anisotropic cross-tie walls and their confinement in self-organized undulating Fe film*. Journal of Applied Physics, 2008. 103(5): p. 6.
17. Gu, P., et al., *Novel MicroRNA Candidates and miRNA-mRNA Pairs in Embryonic Stem (ES) Cells*. PLoS ONE, 2008. 3: p. e2548.
18. Harada, Y., et al., *Mechanism of self-sterility in a hermaphroditic chordate*. Science, 2008. 320(5875): p. 548-550.
19. Hayasaka, T., et al., *Matrix-assisted laser desorption/ionization quadrupole ion trap time-of-flight (MALDI-QIT-TOF)-based imaging mass spectrometry reveals a layered distribution of phospholipid molecular species in the mouse retina*. Rapid Communications in Mass Spectrometry, 2008. 22(21): p. 3415-3426.
20. Holland, L.Z., et al., *The amphioxus genome illuminates vertebrate origins and cephalochordate biology*. Genome Research, 2008. 18(7): p. 1100-1111.
21. Hong, S.H. and E. De Schutter, *Purkinje Neurons: What Is the Signal for Complex Spikes?* Current Biology, 2008. 18(20): p. R969-R971.
22. Imamura, O., et al., *Analysis of Extracellular Signal-Regulated Kinase 2 Function in Neural Stem/Progenitor Cells via Nervous System-Specific Gene Disruption*. Stem Cells, 2008. 26(12): p. 3247-3256.
23. Ito, M. and K. Doya, *[Mathematical models of decision making and learning]*. Brain Nerve, 2008. 60(7): p. 791-8.
24. Jeffery, W.R., et al., *Trunk lateral cells are neural crest-like cells in the ascidian Ciona intestinalis: Insights into the ancestry and evolution of the neural crest*. Developmental Biology, 2008. 324(1): p. 152-160.
25. Kawashima T, et al., *New outlooks on evolutionary studies brought from ten years of animal genome decipherment (動物ゲノム解読の10年をもたらした新しい進化観)*. Kagaku, 2008. 78: p. 1070-1079.
26. Kim, J.J., et al., *Magnetic domain observation in writer pole tip for perpendicular recording head by electron holography*. Applied Physics Letters, 2008. 92(16): p. 3.
27. Koike-Tani, M., et al., *Involvement of AMPA receptor desensitization in short-term synaptic depression at the calyx of Held in developing rats*. Journal of Physiology-London, 2008. 586(9): p. 2263-2275.
28. Kojima, N., et al., *Inducible cAMP early repressor acts as a negative regulator for kindling epileptogenesis and long-term fear memory*. Journal of Neuroscience, 2008. 28(25): p. 6459-6472.

29. Maruyama, I., *Rotation/twist model for the activation of the EGF/ErbB receptor family*. Molecular Biology of the Cell, 2008. 473.
30. Morimura, T., et al., *A new natural gradient of average reward for policy search. The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers J91-D, 1515-1527.*. The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers 2008. J91-D: p. 1515-1527.
31. Nakamura, T., et al., *Developmental changes in calcium/calmodulin-dependent inactivation of calcium currents at the rat calyx of Held*. Journal of Physiology-London, 2008. 586(9): p. 2253-2261.
32. Nakazawa, N., et al., *Dissection of the essential steps for condensin accumulation at kinetochores and rDNAs during fission yeast mitosis*. Journal of Cell Biology, 2008. 180(6): p. 1115-1131.
33. Nakazawa, T., et al., *The neuroprotective role of G-substrate in N-methyl-D-aspartate-induced amacrine cell death*. Journal of Neuroscience Research, 2008. 86: p. 136-144.
34. Nakazawa, T., et al., *ERK1 plays a critical protective role against N-methyl-D-aspartate-induced retinal injury*. Journal of Neuroscience Research, 2008. 86(1): p. 136-144.
35. Nishiwaki, Y., et al., *Mutation of cGMP phosphodiesterase 6 alpha 'subunit gene causes progressive degeneration of cone photoreceptors in zebrafish*. Mechanisms of Development, 2008. 125(11-12): p. 932-946.
36. Nonaka, H., et al., *MINK is a Rap2 effector for phosphorylation of the postsynaptic scaffold protein TANC1*. Biochemical and Biophysical Research Communications, 2008. 377(2): p. 573-578.
37. Pan, W.X., et al., *Tripartite mechanism of extinction suggested by dopamine neuron activity and temporal difference model*. Journal of Neuroscience, 2008. 28(39): p. 9619-9631.
38. Putnam, N.H., et al., *The amphioxus genome and the evolution of the chordate karyotype*. Nature, 2008. 453(7198): p. 1064-U3.
39. Reid, J.G., et al., *Mouse let-7 miRNA populations exhibit RNA editing that is constrained in the 5'-seed/cleavage/anchor regions and stabilize predicted mmu-let-7a: mRNA duplexes*. Genome Research, 2008. 18(10): p. 1571-1581.
40. Sakamoto, T. and S. Endo, *GABA(A) receptors in deep cerebellar nuclei play important roles in mouse eyeblink conditioning*. Brain Research, 2008. 1230: p. 125-137.
41. Satake, H., et al., *Neuropeptides and their receptors of the protochordate, Ciona intestinalis: the evolutionary origin of vertebrate neuropeptides*. Acta Biol Hung, 2008. 59 Suppl: p. 237-9.
42. Satoh, N., *An Aboral-Dorsalization Hypothesis for Chordate Origin*. Genesis, 2008. 46(11): p. 614-622.
43. Satou, Y., et al., *Improved genome assembly and evidence-based global gene model set for the chordate Ciona intestinalis: new insight into intron and operon populations*. Genome Biology, 2008. 9(10).
44. Satou, Y., et al., *Regulatory genes in the ancestral chordate genomes*. Development Genes and Evolution, 2008. 218(11-12): p. 715-721.
45. Schweighofer, N., et al., *Low-serotonin levels increase delayed reward discounting in humans*. Journal of Neuroscience, 2008. 28(17): p. 4528-4532.
46. Shindou, T., G.W. Arbuthnott, and J.R. Wickens, *Actions of adenosine A(2A) receptors on synaptic connections of spiny projection neurons in the neostriatal inhibitory network*. Journal of Neurophysiology, 2008. 99(4): p. 1884-1889.
47. Shinzato, C., et al., *Sox genes in the coral Acropora millepora: divergent expression patterns reflect differences in developmental mechanisms within the Anthozoa*. BMC Evolutionary Biology, 2008. 8.
48. Shoguchi, E., M. Hamaguchi, and N. Satoh, *Genome-wide network of regulatory genes for construction of a chordate embryo*. Developmental Biology, 2008. 316(2): p. 498-509.
49. Solinas, S., et al., *Fast-reset of pacemaking and theta-frequency resonance patterns in cerebellar Golgi cells: Simulations of their impact in vivo*. Frontiers in Cellular Neuroscience, 2008.
50. Solinas, S., et al., *Computational reconstruction of pacemaking and intrinsic electroresponsiveness in cerebellar Golgi cells*. Frontiers in Cellular Neuroscience, 2008.
51. Srivastava, M., et al., *The Trichoplax genome and the nature of placozoans*. Nature, 2008. 454(7207): p. 955-U19.
52. Stiefel, K., B. Gutkin, and T. Sejnowski, *Cholinergic neuromodulation changes phase response curve shape and type in cortical pyramidal neurons*. PLoS ONE, 2008. 3: p. 12.
53. Sugawara, A., et al., *Domain walls in the (Ga,Mn)As diluted magnetic semiconductor*. Physical Review Letters, 2008. 100(4): p. 4.
54. Suzuki, T., et al., *Ca2+/calmodulin-dependent protein kinase II alpha clusters are associated with stable lipid rafts and their formation traps PSD-95*. Journal of Neurochemistry, 2008. 104(3): p. 596-610.

55. Tao, R., H. and I. Maruyama, N., *Ligand-induced activation of preformed inactive EGF/ErbB receptor homo- and heterodimers: a model for EGF/ErbB receptors*. The Journal of the Federation of American Societies for Experimental Biology, 2008.
56. Tao, R.H. and I.N. Maruyama, *All EGF(ErbB) receptors have preformed homo- and heterodimeric structures in living cells*. Journal of Cell Science, 2008. 121(19): p. 3207-3217.
57. Tonomura, A., *My Great Adviser*. The Association of Asia Pacific Physical Societies Bulletin, 2008. 18(4): p. 3-8.
58. Tonomura, A., *Development of Electron Holography and Its Applications to Fundamental Problems in Physics*. Japan Society of Applied Physics Inter, 2008. 18: p. 4-10.
59. Tonomura, A. and F. Nori, *Quantum physics - Disturbance without the force*. Nature, 2008. 452(7185): p. 298-299.
60. Torben-Nielsen, B., S. Vanderlooy, and E.O. Postma, *Non-parametric Algorithmic Generation of Neuronal Morphologies*. Neuroinformatics, 2008. 6(4): p. 257-277.
61. Tripp, G. and J. Wickens, *Working toward a neurobiological account of ADHD: commentary on Gail Tripp and Jeff Wickens' dopamine transfer deficit - Response to Williams's commentary*. Journal of Child Psychology and Psychiatry, 2008. 49(7): p. 711-711.
62. Tripp, G. and J.R. Wickens, *Response to William's commentary*. J. Child Psychol. Psychiatry, 2008. 49(7): p. 711.
63. Tripp, G. and J.R. Wickens, *Research Review: Dopamine transfer deficit: a neurobiological theory of altered reinforcement mechanisms in ADHD*. Journal of Child Psychology and Psychiatry, 2008. 49(7): p. 691-704.
64. Uchibe, E. and K. Doya, *Finding intrinsic rewards by embodied evolution and constrained reinforcement learning*. Neural Networks, 2008. 21(10): p. 1447-1455.
65. Van Geit, W., E. De Schutter, and P. Achard, *Automated neuron model optimization techniques: a review*. Biological Cybernetics, 2008. 99(4-5): p. 241-251.
66. Wada, S., et al., *Novel genes involved in canonical Wnt/beta-catenin signaling pathway in early Ciona intestinalis embryos*. Development Growth & Differentiation, 2008. 50(4): p. 215-227.
67. Wang, Y.F. and M.A. Price, *A unique protection signal in Cubitus interruptus prevents its complete proteasomal degradation*. Molecular and Cellular Biology, 2008. 28(18): p. 5555-5568.
68. Wickens, J., *Toward an Anatomy of Disappointment: Reward-Related Signals from the Globus Pallidus*. Neuron, 2008. 60(4): p. 530-531.
69. Wright, A.K., et al., *Microglial activation is not prevented by tacrolimus but dopamine neuron damage is reduced in a rat model of Parkinson's disease progression*. Brain Research, 2008. 1216: p. 78-86.
70. Yamaguchi, M., et al., *Mutation of DNA primase causes extensive apoptosis of retinal neurons through the activation of DNA damage checkpoint and tumor suppressor p53*. Development, 2008. 135(7): p. 1247-1257.
71. Yu, J.K., et al., *A cDNA resource for the cephalochordate amphioxus Branchiostoma floridae*. Development Genes and Evolution, 2008. 218(11-12): p. 723-727.

2008年 書籍出版リスト

1. Arbuthnott, G., C. Dejean, and B. Hyland, *Antidromic cortical activity as the source of therapeutic actions of deep brain stimulation? in orticosubcortical dynamics in Parkinson's disease.*, ed. T. K.Y. 2008, New York: Humana Press.
2. Kawashima, T., et al., *Comparative genomics of invertebrate*, in *Comparative Genomics: Basic and Applied Research*, J.R. Brown, Editor. 2008, CRC Press: London. p. 87-104.
3. Masai, I., *Mechanism that induces and ensures retinal neurogenesis in zebrafish*, in *Cell Technology*. 2008, Syujyunsya. p. 52-58.
4. Sakamoto, T., *Comparative studies of hippocampal functions*. 2008, Nakanishiya Publishers. p. 119-133
5. Shimanuki, M. and M. Yanagida, *Cellular strategy for G0 Arrest and Vegetative Proliferation in Fission Yeast*, . 2008, Cell Technology p. 260-265
6. Shindou, T. and J.R. Wickens, *Drugs for Motor Disorders*, ed. M.D. Binder, N. Hirokawa, and U. Windhorst. 2008: *Encyclopedia of Neuroscience*.
7. Sowerby, P. and G. Tripp, *Evidence based assessment of ADHD*, in *Assessing Childhood Psychopathology and Developmental Disabilities*. J. Matson, F. Andrasik, and M.L. Matson, Editors. 2008, Springer.: New York.: p. 209-240
8. Yanagida, M., *The Kinetochore: From Molecular Discoveries to Cancer Therapy Chapter 2 The Basics of Chromosome Segregation*. 2008 Springe Science+Business Media. p. 21-44.

年次報告書、ニュースレター配布先

機構の目的が大学院大学の設置準備と、国際的に卓越した科学技術に関する研究を行うことであることをかんがみ、主要なテークホルダーである関係府省と地方公共団体、研究機関や大学に対して、また、大学院大学への関心を高めることを目的に、機構主催のワークショップ等の参加者に対して、そして情報発信戦略の一環として、国内のプレス関係者に対しても年次報告書とニュースレターを配布した。

1. 関係府省
内閣府沖縄振興局
文部科学省高等教育局
内閣府独立行政法人評価委員会委員

2. 地方公共団体
沖縄県
沖縄科学技術大学院大学設置促進県民会議会員
恩納村
うるま市
沖縄市
名護市

3. 大学、研究機関
独立行政法人理化学研究所
独立行政法人科学技術振興機構
独立行政法人日本科学技術振興財団
独立行政法人情報通信研究機構 沖縄亜熱帯計測技術センター
東京大学先端科学技術研究センター
長岡技術科学大学

4. 機構内部
運営委員
スペシャルアドバイザー
代表者研究者
研究員・技術員
事務職員

5. 主要メディア科学論説委員
朝日新聞
毎日新聞

読売新聞
日本経済新聞
産経新聞
東京新聞
北海道新聞
西日本新聞
共同通信
日刊工業新聞
NHK
NTV (日本テレビ)
TBS
フジTV
TV朝日

6. その他
主要国(G8)・招聘国科学技術担当大臣
国際ワークショップ・サマーコース・ウィンターコース参加者
就職説明会参加学生
「アジア青年の家」参加学生
オープンハウス来場者
機構訪問者

<添付資料#7-2>

普及活動

大学院大学の関心を高めること等を目的に、講演会等を通じ研究成果の普及や広報活動を計 17 件行ったほか、報道機関や他組織の取材を計 7 件受けた。

1. 青少年の科学技術に対する理解と大学院大学への関心を高めることを目的に、機構の代表研究者による県内の中学生や高校生、教員を対象とした講演等が計 12 件行われた。
(1) ゲノムリネッサンス OKINAWA シンポジウム 日時：平成 20 年 6 月 13 日 場所：沖縄ハーバービュークラウンプラザホテル 講演者：佐藤矩行博士（代表研究者）
(2) 沖縄県高等学校校長会総会での講演 日時：平成 20 年 10 月 7 日 場所：沖縄県立北部農林高等学校 講演者：佐藤矩行博士（代表研究者） 参加者：沖縄県高等学校校長会
(3) 講演 日時：平成 20 年 10 月 9 日 場所：恩納村立喜瀬武原中学校 講演者：エリック・デ・シュッター博士（代表研究者） 参加者：およそ 15 名
(4) 講演 日時：平成 20 年 10 月 28 日 場所：うるま市立具志川中学校 講演者：高橋智幸博士（代表研究者） 参加者：およそ 250 名
(5) 講演 日時：平成 20 年 10 月 29 日 場所：恩納村立恩納中学校 講演者：ファデル・サマテ博士（代表研究者） 参加者：100 名
(6) 講演 日時：平成 20 年 10 月 30 日 場所：うるま市立安慶名中学校 講演者：ジェフ・ウィッケンス博士（代表研究者） 参加者：700 名
(7) 国連大学グローバルセミナー

日時：平成 20 年 12 月 19 日 場所：OIST シーサイドハウス 講演者：ゲイル・トリップ博士（代表研究者）
(8) 講演 日時：平成 21 年 1 月 29 日 場所：沖縄県立石川高等学校 講演者：丸山一郎博士（代表研究者）
(9) 講演・科学実験 日時：平成 21 年 2 月 5～6 日 場所：与那国町立久部良中学校・与那国中学校 講演者：メリー・アン・ブライス博士（代表研究者）
(10) 近未来ロボトーク&フィルムショー 日時：平成 21 年 2 月 15 日 場所：桜坂劇場（那覇市） 講演者：銅谷賢治博士（代表研究者）
(11) 講演 日時：平成 21 年 2 月 18 日 場所：恩納村立仲泊中学校 講演者：クラウド・シュティーフエル博士（代表研究者） 参加者：90 名
(12) 沖縄の英語教育を考えるフォーラム 日時：平成 21 年 3 月 18 日 場所：沖縄県立総合教育センター 講演者：ゲイル・トリップ博士（代表研究者）

2. 県民の科学技術に対する理解と大学院大学への関心を高めることを目的に、BOGメンバー等の参加によるシンポジウム行われたほか、施設の公開及び機構スタッフによる講演会等、計 5 件開催された。
(1) 主要国(G8)科学技術大臣会合「環境とエネルギー問題」ワークショップ in 沖縄 日時：平成 20 年 6 月 14 日 場所：琉球大学 講演者：シドニー・ブレナー博士（OIST 理事長）、有馬朗人博士・ステイーブン・チュー博士・李遠哲博士（BOG メンバー）、北野宏明博士（スペシャルアドバイザー） 参加者：およそ 250 名
(2) 中頭地区公立小中学校校長会研究大会講演会 日時：平成 20 年 10 月 16 日 場所：中頭教育事務所（沖縄市）

発表者：照屋友彦（OIST 事業推進部） 参加者：中頭地区公立小中学校長会
(3) OIST オープンハウス（一般公開） 日時：平成 20 年 11 月 7 日 場所：沖縄県工業技術センター 講演者：銅谷賢治博士、丸山一郎博士、ゲイル・トリップ博士（代表研究者） 参加者：およそ 630 名
(4) 恩納村民向け講演会 日時：平成 21 年 1 月 21 日 場所：恩納村コミュニティセンター 発表者：ロバート・バックマン博士（OIST 理事） 参加者：200 名
(5) 沖縄科学技術大学院大学設置促進県民会議での講演 日時：平成 21 年 1 月 29 日 場所：沖縄ハーバービュークラウンプラザホテル 発表者：ロバート・バックマン博士（OIST 理事）

3. 県民及び国民の大学院大学への関心を高めることを目的に、報道機関や他組織の取材を計 7 件受けた。	
(1) インタビュー・取材 取材日：平成 20 年 6 月 11 日 対応者：ロバート・バックマン博士（OIST 理事）、 佐藤矩行博士（代表研究者） 場所：シーサイドハウス、新キャンパス、研究施設（うるま市） 放送日：平成 20 年 6 月 13 日	NHK
(2) 座談会・取材 取材日：平成 20 年 7 月 30 日、平成 20 年 8 月 19 日 対応者：<座談会> シ・エー・ブレ-理事長、有馬朗人博士（BOG）、トステン・グ イゼル博士（BOG）、利根川進博士（BOG） <VTR 取材> 銅谷賢治博士、ジェフ・ウィグガズ博士（代表研究者） 場所：<座談会> シーサイドハウス <VTR 取材> 新キャンパス、研究施設（うるま市） 放送日：平成 20 年 8 月 30 日「Best in the World ～大学院大学に描く夢」 （1 時間特番）	RBC
(3) インタビュー・取材 取材日：平成 20 年 10 月 17 日 対応者：ロバート・バックマン博士（OIST 理事）、 銅谷賢治博士・佐藤矩行博士（代表研究者）	NHK

場所：シーサイドハウス、新キャンパス、研究施設（うるま市） 放送日：平成 20 年 10 月 24 日	
(4) インタビュー・取材 取材日：平成 20 年 10 月 30 日 対応者：ロバート・バックマン博士（OIST 理事）、 銅谷賢治博士・佐藤矩行博士（代表研究者） 場所：シーサイドハウス、研究施設（うるま市） 掲載日：平成 20 年 12 月 12 日（金）夕刊および 13 日（土）朝刊	日経新聞
(5) 寄稿 依頼日：平成 20 年 12 月 10 日 対応者：理事長室広報担当具志堅 掲載日：「群星」平成 21 年 1・2 月号	沖縄 総合事務局 広報誌
(6) 寄稿 依頼日：平成 20 年 12 月 8 日 対応者：理事長室広報担当名取 掲載日：「広報おんな」平成 21 年 2 月号	恩納村役場 広報誌
(7) インタビュー・取材 取材日：平成 21 年 3 月 24 日 対応者：政井一郎博士 場所：研究施設（うるま市） 掲載日：平成 21 年 5 月	(株)リバネス 研究キャリア 応援マガジン 「incu-be」

<添付資料#8>

出願特許リスト

発明の名称	出願番号
制御器、制御方法および制御プログラム	特願2005-250306
状態ベクトル推定方法および自律型移動体	特願2005-237541
制御器、制御方法および制御プログラム	特願2008-077671
制御器、制御方法および制御プログラム	特願2008-143586
ERK2ノックダウン非ヒト動物	特願2007-258186
α 2, 3-シアル酸転移酵素(ST3GalIV)欠損非ヒト動物及びそれを用いたスクリーニング方法	特願2008-170763
荷電粒子装置の球面収差を補正する収差補正装置	特願2008-64717
透過型電子顕微鏡用収差補正器	特願2008-92691

	開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
1	2008年4月6日-10日	国際ワークショップ 「第3回分裂と停止の細胞制御」	柳田充弘 (OIST)		OIST シーサイドハウス	講演者 28名 (海外10, 日本18) 参加者 38名 (海外 9, 日本29) 合計 66名 (海外19, 日本47)
2	2008年5月13日	国際ワークショップ 「タンパク質の三次元構造の可視化と構造 バイオインフォマティクス」	ファデル・サマテ (OIST)	エリック・マルツ (マサチューセッツ大 学)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本0) 参加者 16名 (海外12, 日本4) 合計 17名 (海外13, 日本4)
3	2008年6月14日	G8科学技術大臣会合ワークショップ 「環境とエネルギー問題」	シドニー・ブレナー (OIST)	有馬郎人 (日本科学技術振興財団) ステイヴン・チュー (ローレンスバーク レー国立研究所) 北野宏明 (ソニーコンピュータサイエ ンス研究所) 李遠哲 (台湾中央研究院名誉会長)	琉球大学	講演者 4名 (海外 2, 日本 2) 参加者250名 (海外30, 日本220) 合計 254名 (海外32, 日本222)
4	2008年6月16日-7月3日	国際サマースクール 「沖縄計算神経科学コース2008」	エリック・デ・シュッター (OIST) 銅谷賢治 (OIST) クラウド・シュティーフ フェル (OIST) ジェフ・ウィッケンス (OIST)		OIST シーサイドハウス	講演者 19名 (海外17, 日本2) 参加者 7名 (海外 5, 日本2) 合計 31名 (海外26, 日本5) 合計 57名 (海外48, 日本9)
5	2008年10月16日-18日	国際ワークショップ 「意思決定の神経科学における未解明の問 題」	銅谷賢治 (OIST)		OIST シーサイドハウス	講演者 16名 (海外12, 日本4) 参加者 21名 (海外16, 日本5) 合計 37名 (海外28, 日本9)
6	2008年11月4日-6日	国際ワークショップ 「バイオロジーのマルチスケール現象」	ロバート・シンクレア (OIST) クラウド・シュティーフ フェル (OIST)		OIST シーサイドハウス	講演者 11名 (海外10, 日本1) 参加者 24名 (海外16, 日本8) 合計 35名 (海外26, 日本9)
7	2008年11月17日-21日	国際ワークショップ 「勾配と情報伝達：化学走性から発生ま で」	丸山一郎 (OIST) 政井一郎 (OIST) メリー・アン・ブライス (OIST) ファデル・サマテ (OIST)		OIST シーサイドハウス	講演者 25名 (海外19, 日本6) 参加者 37名 (海外24, 日本13) 合計 62名 (海外43, 日本19)
8	2008年12月8日-14日	国際ウィンターコース 「生物複雑系の進化」	シドニー・ブレナー (OIST) 佐藤矩行 (OIST)		OIST シーサイドハウス	講演者 6名 (海外 5, 日本 1) 参加者 8名 (海外 1, 日本 7) 参加者 21名 (海外10, 日本11) 聴講者 6名 (海外 1, 日本 5) 合計 41名 (海外17, 日本24)
9	2008年8月9-10日	協賛ワークショップ 「脳と心のメカニズム」	北海道大学 銅谷賢治 (OIST)		ウェルシティ札幌	-
10	2009年1月13-15日	協賛ワークショップ 「脳と心のメカニズム」	北海道大学 銅谷賢治 (OIST)		ルスツリゾートホ テル	-
11	2009年3月5-6日	協賛ワークショップ 「数理モデル化と問題解決 (MPS) 研究 会」	情報処理学会 銅谷賢治 (OIST)		OIST シーサイドハウス	-
12	2009年3月8-9日	協賛ワークショップ 「脳神経研究開発チームミーティング」	次世代計算科学プログラム 銅谷賢治 (OIST)		OIST シーサイドハウス	-
13	2009年3月15-21日	協賛ワークショップ 「情報生物学カンファレンス」	ライフサイエンス統合データベース センター 佐藤矩行 (OIST)		OIST シーサイドハウス	-

開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
2008年4月18日	「細胞外マトリクスは2つの異なるミクロ環境を形成し、細胞の「真直性」及び「遊走性」を制御している」	ジョージ・ウイッケンズ (01ST)	小泉 修一 (山梨大学)	01ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 12名 (海外 7, 日本 5) 合計 13名 (海外 7, 日本 6)
2008年4月18日	01ST 社内セミナー 「脳深部刺激療法の意外な副作用を示唆する実験」	-	エドワード・アーバンスワット (01ST)	01ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外 20, 日本 10) 合計 31名 (海外 21, 日本 10)
2008年4月18日	01ST 社内セミナー 「実験神経生物学ユニットの研究紹介」	-	クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	01ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外 12, 日本 18) 合計 31名 (海外 13, 日本 18)
2008年4月25日	「ADHD児のドーパミンからの学習一報刷りによって問題が改善できるか?」	ゲイブル・トリック (01ST)	マヨロレイン・ルビン (コロンビア大学)	01ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外 15, 日本 15) 合計 31名 (海外 16, 日本 15)
2008年5月9日	01ST 社内セミナー 「皮膚・線条体システムにおけるシナプス可塑性」	-	ケンジー・ライツカーズ (01ST ライツケンズユニット)	01ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 25名 (海外 10, 日本 15) 合計 26名 (海外 11, 日本 15)
2008年5月9日	01ST 社内セミナー 「視細胞の発生と維持に異常を示すゼラフィニシユの突然変異体の解析」	-	西脇 優子 (01ST 坂井ユニット)	01ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 30名 (海外 10, 日本 20) 合計 31名 (海外 10, 日本 21)
2008年5月14日	「シナプス可塑性モデルとその計算論」	エリック・チ・シュッター (01ST)	トマス・トラップンバーク (ダルトン大学)	01ST シーサイドハウス	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 35名 (海外 20, 日本 15) 合計 36名 (海外 21, 日本 15)
2008年5月20日	OE-01ST ジョイントセミナー 「01STでリソグリスミックスの展開」 「サソコ研究の動向」 「シロアリから見たセルラーゼ研究」	山崎香蓮 (琉球大学21世紀OEプログラム)	佐藤 長行 (01ST 佐藤ユニット) 徳田 岳 (琉球大学)	琉球大学	講演者 3名 (海外 0, 日本 3) 参加者 70名 (海外 10, 日本 60) 合計 73名 (海外 10, 日本 63)
2008年6月26日	生物学、階層構造、学習理論セミナーシリーズ ①「紹介」	クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	トニー・ベル (カリフォルニア大学バークレー校) クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	01TC セミナー ルーム	講演者 2名 (海外 2, 日本 0) 参加者 11名 (海外 5, 日本 6) 合計 13名 (海外 7, 日本 6)
2008年5月28日	ラット海馬CA3領域におけるシナプス全長素への焦点刺激	クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	エリック・コンドラツカヤ トリニチイカレッジ(ダラリス)	01ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 12名 (海外 7, 日本 5) 合計 13名 (海外 7, 日本 6)
2008年5月28日	可積分系手法の幾何学上問題への応用	ロバート・シソクリア (01ST)	デービッド・ブランダ (神戸大学)	琉球大学	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 12名 (海外 2, 日本 10) 合計 13名 (海外 3, 日本 10)
2008年5月28日	生物学、階層構造、学習理論セミナーシリーズ②「学習理論の基礎」	クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	トニー・ベル (カリフォルニア大学バークレー校) クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	01TC セミナー ルーム	講演者 2名 (海外 2, 日本 0) 参加者 11名 (海外 5, 日本 6) 合計 13名 (海外 7, 日本 6)
2008年6月2日	生物学、階層構造、学習理論セミナーシリーズ③「適応過程としての遺伝子制御」	クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	トニー・ベル (カリフォルニア大学バークレー校) クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	01TC セミナー ルーム	講演者 2名 (海外 2, 日本 0) 参加者 11名 (海外 5, 日本 6) 合計 13名 (海外 7, 日本 6)
2008年6月4日	生物学、階層構造、学習理論セミナーシリーズ④「水から細胞まで」	クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	トニー・ベル (カリフォルニア大学バークレー校) クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	01TC セミナー ルーム	講演者 2名 (海外 2, 日本 0) 参加者 11名 (海外 5, 日本 6) 合計 13名 (海外 7, 日本 6)
2008年6月9日	生物学、階層構造、学習理論セミナーシリーズ⑤「知覚と単一ニューロン情報処理」	クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	トニー・ベル (カリフォルニア大学バークレー校) クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	01TC セミナー ルーム	講演者 2名 (海外 2, 日本 0) 参加者 11名 (海外 5, 日本 6) 合計 13名 (海外 7, 日本 6)
2008年6月11日	生物学、階層構造、学習理論セミナーシリーズ⑥「スバイククから神経回路まで」	クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	トニー・ベル (カリフォルニア大学バークレー校) クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	01TC セミナー ルーム	講演者 2名 (海外 2, 日本 0) 参加者 11名 (海外 5, 日本 6) 合計 13名 (海外 7, 日本 6)
2008年6月13日	「ゾウザメのゲノム研究から分かる脊椎動物の進化の歴史」	丸山一郎 (01ST)	ピラッパ・ヴェンカテツツシユ (シカゴポール国立分子細胞生物学研究所)	01TC 講義室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 42名 (海外 11, 日本 31) 合計 43名 (海外 12, 日本 31)
2008年6月13日	01ST 社内セミナー 「深部小脳核ニューロンの部分反発時差-在固有電流」	-	トマス・サンダレイ (01ST チ・シュツタユニット)	01ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 45名 (海外 25, 日本 20) 合計 46名 (海外 26, 日本 20)
2008年6月13日	01ST 社内セミナー 「細胞型分類系」	-	クラジーニル・メシチエルヤコヴ (01ST サマチュニユニット)	01ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 25名 (海外 15, 日本 10) 合計 26名 (海外 16, 日本 10)
2008年6月23日	有毛細胞の発達と再生は機能的特長を共有する	クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	スネザナ・レビツク (カリフォルニア大学 デューク)	01ST シーサイドハウス	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 11名 (海外 7, 日本 4) 合計 12名 (海外 8, 日本 4)
2008年6月30日	鳥類の大脳基底核の取学習における機能	銅谷賢治 (01ST)	小島 哲 (カリフォルニア大学、サンフランシスコ校)	01ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 27名 (海外 13, 日本 14) 合計 28名 (海外 13, 日本 15)
2008年6月30日	「ゾルキン工細胞間非対称シナプス結合を介した小脳皮質内神経活動の進行波」	高橋智幸 (01ST)	マイケル・ホイザー博士 (ロンドン大学)	01ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 40名 (海外 21, 日本 20) 合計 41名 (海外 20, 日本 21)
2008年7月4日	「線条体におけるグルタミン酸およびドーパミン作動性入力の関係」	エドワード・アーバンスワット (01ST)	ポール・ボラム (オックスフォード大学)	01ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外 15, 日本 5) 合計 21名 (海外 16, 日本 5)
2008年7月7日	生物学、階層構造、学習理論セミナーシリーズ⑦「神経系の進化」	クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	トニー・ベル (カリフォルニア大学バークレー校) クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	01TC セミナー ルーム	講演者 2名 (海外 2, 日本 0) 参加者 13名 (海外 7, 日本 6) 合計 15名 (海外 7, 日本 8)
2008年7月8日	生物学、階層構造、学習理論セミナーシリーズ⑧「サニール・オカシヤ著者」進化と選択のレベル」に関して」	クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	トニー・ベル (カリフォルニア大学バークレー校) クラウス・シュテイナーフェル (01ST)	01TC セミナー ルーム	講演者 2名 (海外 2, 日本 0) 参加者 11名 (海外 5, 日本 6) 合計 13名 (海外 7, 日本 6)

開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
27	「マイクログリフの複製と応用研究」	丸山一朗 (O1ST)	リチャード・ホフン (華梵大学)	OTC サロンルーム	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 15名 (海外 4, 日本 11) 合計 16名 (海外 5, 日本 11)
28	「統計物理学による交通流モデルリングシミュレーション」	ジョナサン・ミラー (O1ST)	クン・ガオ (中国科学技術大学)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 8名 (海外 5, 日本 3) 合計 9名 (海外 6, 日本 3)
29	「単一ニューロンの多数ニューロン〜カイコガの性決定経路」	ジョナサン・ミラー (O1ST)	サティシム・バンカチサン (DBFD研究所)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 5, 日本 5) 合計 11名 (海外 6, 日本 5)
30	O1ST 社内セミナー 「各種のGABA _A 受容体はアロおよびホストシナプスで異なる機能を発揮する」	-	レジヤン・ガイコ (O1ST 遠藤ユニット)	O1ST ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 60名 (海外 34, 日本 26) 合計 61名 (海外 35, 日本 26)
31	O1ST 社内セミナー 「カルモジュリンの前シナプス性機能の差- 変化」	-	山下 真之 (O1ST 高橋ユニット)	O1ST ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 80名 (海外 30, 日本 50) 合計 81名 (海外 30, 日本 51)
32	2008年8月19日 「物質の量子位相」	ジョナサン・ミラー (O1ST)	デニス・テケルツヤイト (東京大学)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 7名 (海外 5, 日本 2) 合計 8名 (海外 6, 日本 2)
33	O1ST 社内セミナー 「シヨウジヨウハエにおけるヘッジホッグシグナル新規構成因子の探索」	-	宮城 智恵美 (O1ST フライヌユニット)	O1ST ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 40名 (海外 25, 日本 15) 合計 41名 (海外 25, 日本 16)
34	2008年9月12日 O1ST 社内セミナー 「注意欠陥・多動性障害に関する臨床研究- 科学校および人 (主に児童) への影響」	-	古川 絵美 (O1ST トリツブユニット)	O1ST ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 40名 (海外 25, 日本 15) 合計 41名 (海外 25, 日本 16)
35	2008年9月16日 「脳卒中からの回復時におけるの意思と動作の相互作用」	エリツク・デ・シュッター (O1ST)	ニコラス・ジュウエイホフナー (南カリフォルニア大学)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外 20, 日本 10) 合計 31名 (海外 21, 日本 10)
36	2008年10月9日 「ボルトマトリ一部定法を用いた行動期のドーパミンによる急激な化学信号の解明」	ジェフ・ウイツケンス (O1ST)	マーク・ウイナム (ノースカロライナ大学チャペルヒル校)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 37名 (海外 17, 日本 20) 合計 38名 (海外 18, 日本 20)
37	2008年10月9日 「In vitro状態におけるラット扁桃体の神経ネットワーク情報伝達を追求する」	エードン・アハスノット (O1ST)	フイオナ・ランダル (ニューキャッスル大学)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 17名 (海外 10, 日本 7) 合計 18名 (海外 11, 日本 7)
38	2008年10月10日 O1ST 社内セミナー 「00種のミトコンドリアはユビキチン/プロテアソームとオートファゴジーによって二重に品質管理されている」	-	武田 颯二郎 (O1ST 柳田ユニット)	O1ST ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 40名 (海外 8, 日本 32) 合計 41名 (海外 7, 日本 33)
39	2008年10月10日 O1ST 社内セミナー 「突然変異分析を用いた上皮成長因子受容体における二重体構造の解析」	-	アニアバサナ・アチナン (O1ST 丸山ユニット)	O1ST ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 40名 (海外 7, 日本 33) 合計 41名 (海外 8, 日本 33)
40	2008年10月14日 「大脳基底核への視覚情報の起源」	エードン・アハスノット (O1ST)	ヤン・シュルツ (オタゴ大学)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外 10, 日本 10) 合計 21名 (海外 11, 日本 10)
41	2008年10月28日 「人精液からZn ^{α2} -結合タンパク質 (ZAG) とZn ^{β2} タンパク質 (Znβ ²) の分離 (PIP) 間に形成される新規複合体の結晶構造」	フテチル・サマチ (O1ST)	トムタヤサ・バツサン (ニューデリー基礎科学センター)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 9名 (海外 6, 日本 3) 合計 10名 (海外 7, 日本 3)
42	2008年10月30日 ジュニア・リサーチヤー・リトリート 「脳の機能回路を定義するoptogenetic新技術」	-	ジョージ・V・オーガステン (デューク大学)	O1ST シーサイバハウス	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 60名 (海外 30, 日本 30) 合計 61名 (海外 31, 日本 30)
43	2008年11月7日 「梁朝小脳核の神経細胞、シナプス、神経結合」	クラウス・シュタイアフェル (O1ST)	マリアカ・ウエジサリ (理化学研究所国際科学総合研究センター)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 15名 (海外 10, 日本 5) 合計 16名 (海外 11, 日本 5)
44	2008年11月7日 「ラット扁桃体の聴覚誘発電位のN150」	クラウス・シュタイアフェル (O1ST)	ヨルン・ニッペンバーグ (ラトボウド大学)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 15名 (海外 10, 日本 5) 合計 16名 (海外 11, 日本 5)
45	2008年11月14日 「One-ストロリアン・プログラム・スケーラ Pseudotaxia textilis の強力な蛋白質分解酵素阻害剤 textilinin-1 の構造研究」	フテチル・サマチ (O1ST)	エマ・カリン・ミラーズ (クイーンズランド大学)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 10, 日本 0) 合計 11名 (海外 7, 日本 4)
46	2008年11月14日 O1ST 社内セミナー 「サラマングーの神経生物学」	-	中西 節子 (O1ST 内藤ユニット)	O1ST ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 39名 (海外 20, 日本 19) 合計 40名 (海外 20, 日本 20)
47	2008年11月14日 O1ST 社内セミナー 「タスク依存な状態表現の探求」	-	大塚 誠 (O1ST 網谷ユニット)	O1ST ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 39名 (海外 20, 日本 19) 合計 40名 (海外 20, 日本 20)
48	2008年11月26日 「海馬音状線維終末におけるβ-ホルモールエステル脂溶性シナプス可塑性の小胞ターミネリクスメカニズム」	エードン・アハスノット (O1ST)	引間 卓弥 (東北大学大学院)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 20名 (海外 10, 日本 10) 合計 21名 (海外 10, 日本 11)
49	2008年11月26日 「マイクロアレイ: 出芽酵母における自己作用関連経路を介したミトコンドリアの分離」	柳田充弘 (O1ST)	岡本 浩二 (基礎生物学研究所)	O1ST 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 25名 (海外 8, 日本 17) 合計 26名 (海外 8, 日本 18)

開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
50	2008年11月27日 「Neol-5とPI06F A 受容体のN1H313細胞の先端における相互作用と高圧：細胞運動における役割」	丸山一朗 (OIST)	天野 崇志 (神戸大学)	O10 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 9名 (海外 3, 日本 6) 合計 10名 (海外 3, 日本 7)
51	2008年11月27日 「シナプス可塑性のためのカルシウム・ボンプ」	エリック・デ・ジュッター (OIST)	ルース・エンブロン (タコマ大学)	O1ST シーサイドホール	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 14名 (海外 10, 日本 4) 合計 15名 (海外 11, 日本 4)
52	2008年11月28日 日本におけるADHD研究	ゲイル・トリック (OIST)	井上 祐紀 (国立精神・神経センター精神保健研究所) 加我 敦子 (国立精神・神経センター精神保健研究所) 榎南 大志 (筑波大学) 船橋 聖巳 (奈良教育大学) 岩坂 秀樹 (奈良県立医科大学) 飯田 テイル・トリック (OIST)	O1ST シーサイドホール	講演者 8名 (海外 1, 日本 7) 参加者 34名 (海外 16, 日本 18) 合計 42名 (海外 17, 日本 25)
53	2008年12月9日 「真核細胞における集団行動への相転移」	ジョナサン・ミラー (OIST)	トーマス・グリゴア (東京大学・フリストン大学)	O1ST シーサイドホール	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 5名 (海外 5, 日本 0) 合計 6名 (海外 6, 日本 0)
54	2008年12月10日 「初期胚発生の動的性質と精度」	ジョナサン・ミラー (OIST)	トーマス・グリゴア (東京大学・フリストン大学)	O1TC サロソールム	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 8, 日本 2) 合計 11名 (海外 9, 日本 2)
55	2008年12月17日 「プログラム理解によるマイクロレイデータ解析：可視化から外れ値検出まで」	ジョナサン・ミラー (OIST)	レイモンド・ロウ (京都大学)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 7名 (海外 4, 日本 3) 合計 8名 (海外 5, 日本 3)
56	2008年12月19日 O1ST 社内セミナー 「Infomax」	-	ジョナサン・ミラー (OIST ミラーユニット)	O1ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 35名 (海外 20, 日本 15) 合計 36名 (海外 21, 日本 15)
57	2008年12月19日 O1ST 社内セミナー 「カタコウレイボヤ幼生における脳特異的遺伝子のトランスクリプトーム解析」	-	濱田 麻友子 (OIST 佐藤ユニット)	O1ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 30名 (海外 15, 日本 15) 合計 31名 (海外 16, 日本 15)
57	2009年1月15日 「細菌二次代謝の進化システム生物学一生化学の古い謎を解く」	事業推進部	ホルガー・ヴェンク・コダマ (東京大学)	O1ST ハイオセンター会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 8, 日本 2) 合計 11名 (海外 6, 日本 5)
59	2009年1月16日 「Neuronal/Neurobount: 皮質コラムシミュレーションのための探知学データの自動収集」	総合賢治 (OIST)	マルセル・オプランダー (Max Planck 神経生物学研究所)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外 8, 日本 12) 合計 21名 (海外 9, 日本 12)
60	2009年1月16日 O1ST 社内セミナー 「ユビキチン・プロテアソームシステムは水晶体繊維分化に必須である」	-	今井 文康 (OIST 政井ユニット)	O1ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 40名 (海外 15, 日本 25) 合計 41名 (海外 15, 日本 26)
61	2009年1月16日 O1ST 社内セミナー 「樹状突起の計算論的関連性を追求する」	-	ベンジャミン・トルルベニールセン (OIST シュタイフェルユニット)	O1ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 40名 (海外 15, 日本 25) 合計 41名 (海外 15, 日本 26)
62	2009年1月20日 「マウス小脳皮質におけるグライダー・ドナー抑制的感覚情報処理制御」	事業推進部	テウ・ライ・キュー (理化学研究所 脳科学総合研究センター)	O1ST ハイオセンター会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 15名 (海外 8, 日本 7) 合計 16名 (海外 9, 日本 7)
63	2009年1月21日 「遺伝子群の進化における遺伝子の水平伝達の役割」	事業推進部	アレキサンダー・サーシャ・ミクヘフ (テキサス大学オースティン校)	O1ST ハイオセンター会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外 10, 日本 10) 合計 21名 (海外 11, 日本 10)
64	2009年1月23日 「梅香の表現および臭味の進化的学習」	高橋智幸 (OIST)	伊藤 伊織 (アメリカ国立衛生研究所)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 30名 (海外 15, 日本 15) 合計 31名 (海外 15, 日本 16)
65	2009年1月29日 「単一試行における脳活動の抽出」	事業推進部	バロン・ユー (スタンフォード大学 ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン)	O1ST ハイオセンター会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 1) 参加者 30名 (海外 15, 日本 15) 合計 31名 (海外 16, 日本 15)
66	2009年2月2日 「乱流沿岸海洋での幼生分散：動力学と影響」	事業推進部	御手洗 祐司 (カリフォルニア大学サンタバーバラ校)	O1ST ハイオセンター会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 30名 (海外 15, 日本 15) 合計 31名 (海外 16, 日本 15)
67	2009年2月3日 「選択的決定の神経機構」	事業推進部	マイケル・キャンボス (カリフォルニア工科大学)	O1ST ハイオセンター会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外 15, 日本 15) 合計 31名 (海外 16, 日本 15)
68	2009年2月4日 「知覚意志決定の神経回路網力学」	事業推進部	コン・フアット・ラウニン (プリンストン大学)	O1ST ハイオセンター会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外 15, 日本 15) 合計 31名 (海外 16, 日本 15)
69	2009年2月4日 「遺伝子調節ネットワークにおける回路、分化、恒常性」	ロバート・ツンクワ (OIST)	ポール・リュエ (フランス国立科学研究所)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 11名 (海外 9, 日本 2) 合計 12名 (海外 10, 日本 2)
70	2009年2月5日 「皮質受容野可塑性のシナプス記憶痕跡」	事業推進部	ロバート・フロエムケ (カリフォルニア工科大学フリストン kampus)	O1ST ハイオセンター会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外 15, 日本 15) 合計 31名 (海外 16, 日本 15)
71	2009年2月5日 「成長円錐のフロネオーム分析により説明された新たなニューロン成長関連タンパク質」	丸山一朗 (OIST)	五十嵐 道弘 (新潟大学)	O1TC サロソールム	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 13名 (海外 5, 日本 8) 合計 14名 (海外 5, 日本 9)
72	2009年2月9日 「物理学と工学におけるミクロン規模からマクロメートルまで」	ジョナサン・ミラー (OIST)	アレキサンダー・パロフ (ロモソノフモスクワ大学)	O1ST シーサイドホール	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 6名 (海外 4, 日本 2) 合計 7名 (海外 5, 日本 2)
73	2009年2月12日 「質量分析を使って昆虫の化学的言語を理解する」	事業推進部	ジョアンヌ・ユル (ハーバード大学メデイカルスクール)	O1ST ハイオセンター会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外 15, 日本 15) 合計 31名 (海外 16, 日本 15)

開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
74	「ラットの嗅球における顆粒細胞から僧帽細胞への抑制的行動の状態に依存した変化」	綱谷賢治 (O1ST)	津野 祐輔 (東京大学)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 19名 (海外 7, 日本 12) 合計 20名 (海外 7, 日本 13)
75	O1ST 社内セミナー 「成体マウスにおける線索体スバクタイトミットochondria依存的可塑性のドーパミン作動性調節」		新道 智規 (O1ST ウェイツェンユニークト) S. ショック & K. ジョリントンヘル (O1ST アーバヌットユニークト)	O1ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 46名 (海外 20, 日本 25) 合計 46名 (海外 20, 日本 26)
76	O1ST 社内セミナー 「手術培養での線索体介在ニューロン」		S. ショック & K. ジョリントンヘル (O1ST アーバヌットユニークト)	O1ST IRP ラウンジ	講演者 2名 (海外 2, 日本 0) 参加者 49名 (海外 20, 日本 25) 合計 47名 (海外 22, 日本 25)
77	「難聴的信号の伝達の問題に関する力学系システムと機械的分方程式の理論的方法」	ジョナサン・ミラー (O1ST)	マクシム・コロチーフ (サムスン株式会社)	O1ST シーサイドハウス	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 6名 (海外 5, 日本 0) 合計 6名 (海外 5, 日本 0)
78	「線索体細胞の集合のカギにおける機械状態」	ゴードン・アーバヌット (O1ST)	ルイス・アルベルト・カリーロ・リンド (メキシコ国立自治大学)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 25名 (海外 15, 日本 10) 合計 26名 (海外 16, 日本 10)
79	「時間・発火率コードによる単一スバクタイトニューロンの能力」	綱谷賢治 (O1ST)	池田 恵朗 (統計数理研究所)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 12名 (海外 5, 日本 5) 合計 13名 (海外 6, 日本 5)
80	「シナプスへの道 神経細胞におけるキネジンによる空容体輸送」	高橋智幸 (O1ST)	キョー・ローレント (東京大学)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 8, 日本 1) 合計 11名 (海外 6, 日本 5)
81	「ニューロンの拡散障壁: シナプスから樹状突起まで」	エリック・デ・シュッター (O1ST)	ライナル・サンタマリア (デキウス大学) ライナル・サンタマリア (デキウス大学)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 12名 (海外 10, 日本 1) 合計 13名 (海外 10, 日本 4)
82	「線虫におけるコンドロイチン硫酸プロテオグリカンによる生殖器官形成の制御と神経細胞特異的遺伝子発現に関する分子の解析」	ゴードン・アーバヌット (O1ST)	スティーブ・タイス (デュツセルドルフ大学)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外 10, 日本 10) 合計 21名 (海外 11, 日本 10)
84	「ニューロン分岐の性質上」	エリック・デ・シュッター (O1ST)	ヘルマン・クンツ (ロンドン大学)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外 15, 日本 6) 合計 21名 (海外 15, 日本 6)
85	「船舶ペーシングの改善」	ジョナサン・ミラー (O1ST)	ホースト・サムロウイツ (ライクロソフトリサーチ)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 7名 (海外 7, 日本 0) 合計 8名 (海外 8, 日本 0)
86	O1ST 社内セミナー 「アムギオン細胞モデルをモデルに合わせたニューロロフィーターの利用」		ウエルナー・バングイト (O1ST デ・シュツターユニークト)	O1ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 39名 (海外 19, 日本 20) 合計 40名 (海外 20, 日本 20)
87	O1ST 社内セミナー 「膜タンパク質の結晶化」		ウラジミール・マシエリヤコフ (O1ST サテュニーク)	O1ST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 39名 (海外 19, 日本 20) 合計 40名 (海外 20, 日本 20)
88	「海馬介在ニューロンの活性依存性可塑性」	クラウス・シュタインフェル (O1ST)	イヴァン・ソルナス (カリフォルニア大学アーバイン校)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外 18, 日本 2) 合計 21名 (海外 19, 日本 2)
89	2009年3月17日 健康およびびんかん性遺伝子の大規模計算モデル	クラウス・シュタインフェル (O1ST)	イヴァン・ソルナス (カリフォルニア大学アーバイン校)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外 18, 日本 2) 合計 21名 (海外 19, 日本 2)
90	2009年3月19日 「広範なキナーゼの特性解析、アロファインリンクス、スクリニングのための試薬群」	丸山一郎 (O1ST)	タコエタ・チェン (テイスクパピーツ)	O1TC サロトルーム	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 13名 (海外 10, 日本 2) 合計 14名 (海外 6, 日本 8)
91	2009年3月19日 「後生動物におけるゲノム構造の進化史を再現する」	川島武士 (O1ST 佐藤ユニークト)	ニコラス・ブットナム (ライズ大学)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 8名 (海外 2, 日本 2) 合計 9名 (海外 3, 日本 6)
92	2009年3月26日 Tem-mタンパク質は視覚回路に不可欠	クラウス・シュタインフェル (O1ST)	キヤサリン・A・リーマイ (シドニー大学)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 12名 (海外 10, 日本 2) 合計 13名 (海外 11, 日本 2)
93	2009年3月27日 モノターミネントロウエリアの開発の経緯の役割	クラウス・シュタインフェル (O1ST)	アトム・サワタリ (シドニー大学)	O1ST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 21名 (海外 18, 日本 3) 合計 22名 (海外 19, 日本 3)

<添付資料#11-1c>

ワークショップ・セミナー 対前年比

○ ワークショップ

	平成19年度	平成20年度
開催回数	7	8
参加者数 (うち外国人数)	251 (183)	569 (226)

※主催ワークショップの合計回数。後援ワークショップは除く

○ セミナー

	平成19年度	平成20年度
開催回数	51	92
参加者数 (うち外国人数)	—	2,316 (1,161)

※平成19年度は参加者数の調査を実施せず

<添付資料#11-2>

ワークショップアンケート

Cell Regulations in Division and Arrest under Stress

分裂と停止の細胞制御

日付: 2008年4月6日~4月10日

回答数 35 件 (講師 17、参加者 11、OIST メンバー3、その他 3、不明 1)

1. 講義内容

優良(25)、良(8)、可(1)、不可(0)、未回答(1)

- ・ 広範囲で奥深いのが特徴で面白い。
- ・ 講演者にマイクを正しく使うようにお願いしてほしい。
- ・ Guillerova さん、カデワキさん、モリさんは特に良かった!

2. 会場設備

優良(28)、良(6)、可(0)、不可(0)、未回答(1)

3. 宿泊施設

未回答(1)

リザンシーパークホテル (講師): 優良(15)、良(1)、可(0)、不可(0)、未回答(1)

シーサイドハウス (参加者その他): 優良(9)、良(7)、可(1)、不可(0)

- ・ 沖縄料理が出れば尚良い。
- ・ 部屋が暑過ぎ!

4. 食事

優良(25)、良(10)、可(0)、不可(0)

5. 事務局

優良(28)、良(5)、可(1)、不可(0)、未回答(1)

6. 沖縄の印象

優良(24)、良(10)、可(1)、不可(0)、未回答(1)

7. 他のご意見、ご提案

優良(12)、良(4)、可(1)、不可(0)、未回答(18)

- ・ 自由時間が夜か午後になり、沖縄を探索することができると良いだろう。
- ・ このミーティングの全てが素晴らしかった!!
- ・ とても素晴らしいミーティングだった。ありがとう!
- ・ とても刺激的で、考えをもたらせてくれ、楽しかった。
- ・ 将来的に、このワークショップのプロモーションを増すよう努めてほしい。
- ・ 40 unit が最良! すばらしいワークショップだ!
- ・ 聴衆者になぜこういう形態が必要なのかを説明する必要があったと思う。

ワークショップアンケート

Protein 3D Structure Visualization and Structural Bioinformatics

タンパク質の三次元構造の可視化と構造バイオインフォマティクス

日付: 2008年5月13日

回答数 16 件 (講師 1、参加者 15)

1. 講義内容

優良(12)、良(4)、可(0)、不可(0)

- ・ 良いプレゼン。価値がある。事前に私たちの構造を選んでソフトウェアを試せたら、時間短縮になったかもしれない。ワークショップは2時間程短くても良かったかもしれない。
- ・ このトピックに関しては何も知らなかったが、短い時間で多くを学んだ。実地体験がありとても良かった。
- ・ 可視化のモデル

2. 会場設備

優良(11)、良(5)、可(0)、不可(0)

3. 食事

優良(9)、良(4)、可(0)、不可(0)、未回答(3)

- ・ 取らなかった (が、コーヒープレイクの時にどなたかが焼いてきてくれたものはとてもおいしく戴いた)。

4. 事務局

優良(14)、良(2)、可(0)、不可(0)

5. 沖縄の印象

優良(9)、良(2)、可(0)、不可(1)、未回答(4)

6. 他のご意見、ご提案

- ・ 講師の方がトピックの資料 (参考文献、ワークサイト等) をセミナー前に教えてくれると便利だったろう。
- ・ (更に内容を掘り下げるために) このワークショップをあと数日間拡大してほしい。

ワークショップアンケート

Okinawa Computational Neuroscience Course (OCNC) 2008
沖縄計算神経科学コース 2008

日付: 2008年6月15日~7月4日

回答数 25 件 (チューター1、参加者 24)

以下の点に関して、コースの印象はいかがでしたか。

1. 講義内容

- ほとんどの講義が私には少しレベルが低過ぎた。生物学には携わったことがないので、単一ニューロン/カルシウムチャンネル等の内容は難しかった。ザッピング・リー先生とソフィー・ドヌーブ先生の講義はとも面白かった。
- とても興味深かった。主に議論されたトピックの導入コースは、その分野の専門外の生徒にとって講義から得るものを増すのに役立つかもしれない。
- とてもレベルの高い講義だった。講義を順序立てるようにもって努めてくれれば、更に良かったらうけれど。
- 様々なテーマやレベルが網羅されていた。とても興味深い講師陣だった。一日に一講義、一講演者というのが、集中することが出来て、私には良かった。現代教育科学的には3時間の講義形式はついていくのが難しい。補足すれば、より対話型、参加型の授業形式を検討してみても良いかもしれない。
- 卓越した講義。私にとって新しいことが多かったが、そこから沢山のことを学んだ。
- 素晴らしい。
- 良い。認知神経科学モデリングも網羅していれば、もっと良いかもしれない。
- 講演者の方々は必要な情報を詳細に説明していただき、とても大変なことだったと思う。内容や時間管理がとてもしっかり出来ていた。
- とても良い。一つだけ意見するならば、最初の数日間でのバラレトラックの時に、別の講義も受けてみたかった。
- トピック、スケジュール全般とも良い。しかし、3時間の講義には2回の休憩を挟むべき。1回は少ない(1回の長い休憩より2回の短い休憩の方が良い)。
- 様々なトピックがためになり、役に立った。3時間の講義は良いが、休憩を二回挟むことをお勧めしたい。1.5時間も集中するのは少し難しい。
- 全ての講義がとても楽しかったが、難しい数学には折衝していけなかった。実験主義者のために、もし基礎的な数学クラスがこういう講義の前にあれば助かったらう。文献を前もって読んでいたが、それでもついて行くのは難しかった。もう一点は、シミュレーション・ソフトウェアのチュートリアルは非効率的だった。特にNESTは、私が必要だったのはMatlabのみだった。生徒達とのソフトウェアを使うか事前に話し合い、必要なソフトウェアを教えるべきだった。
- 良かったが、順番はもっと整理されている必要が実際にはあった。例えば、マイケル・ハウザー先生の講義がコースの早い段階で行われていれば、他の講義の入門として有益だったらう。
- 何人かは実験主義者であり、様々なトピックにおいて理論的背景にあまり熟知していないことを考慮すれば、いくつかのトピックは詳細に説明しても良かったのではないかと。例えば、強化学習の基礎入門書、機械学習能力理論、等。また、樹状形態の人達は作業記憶モデルの講義は何も分からない様子で、その逆も然りだった。
- 私としては、機械学習能力・情報理論・概念的手法よりも、生物学的モデルについて興味があった。理論家として私は実験家から、特に行動に関連した分野に取り組んでいるが、通例はモデルに焦点を当てていない(例、神経内分泌学等)実験家から、もっと話を聞きたい。私にとってこのコースで最も価値があった点は、各分野の専門家である実験主義者と話し、どれが有用なモデルかについて意見を伺うことが出来たことだ。
- 講義の科学的質は素晴らしい。講演者らは生徒達が講義中やその後でした質問にも応じて

- いた。実験的、理論的な神経科学がバランス良く組み合わせられていた。
- 講義の質がとても良かった。時間の長さ(3時間)も申し分ない。
- ほとんどの講義が私の分野ではなかったため、理解するのが難しかった。しかし全ての講義から大変に刺激を受けた。私にとって特別な経験となった。
- 時間は良かった。ただしシステムレベルの話が聞きたかった(これは私の研究的興味からであるし、きっと他の参加者は逆のことを言うだろうけれど)。
- ほとんどの講義は興味深く有益なものだった。いくつかの講義がもっとコース重視であれば、もっと役立つだろう。
- 素晴らしい題材が網羅され、たくさんの異なったトピック全てが大変に興味深く、私の研究分野とは異なった。素晴らしい講師の方々にお会いでき、また、ラボへ数ヶ月間参加するよう招待まで頂いたので、進めたい。
- シャオ・ジン・ワン教授の意思決定についてのネットワークモデルとクリストフ・コッホ教授の人体実験のお話には感嘆した。
- 良い集まりだった。最初の週にあったソフトウェアのチュートリアルは多分多過ぎた。でも、私にとって目新しい内容ではなかったため、役立つ内容だったのかは分からない。講義は、休憩が1回だけより、2回短く休憩がある方がずっと良い。
- もっと入門用講義が必要である。
- マイケル・ハウザー先生の講義の組み立てが、講義の最初の3分の1の時間で基本要旨を説明しており、大変良い。他の講演者も同じような組み立てであったら良かったらう

2. 生徒のプロジェクト

- プロジェクトに関して何とも不満はない。タダシとあまり時間を過ごすことはなかったが、彼はいつも私の様子を伺い、必要なときは対応してくれた。
- 太郎はこの3週間とても頼りになった。彼には沢山のことを学び、彼の対応には感謝している。
- このプロジェクトの発想は良かったし、そこから多くを学んだ。
- 太郎と議論することで多くを学んだ。私のプロジェクトについて彼が説明で重大な質問をすることで、私の考えが徹底的に設計、構築されることになり、物事を明確にするのにとても役立った。また、統計物理学者としての彼の視点から恩恵を受けることができた。
- 色々と学んだし、実験研究のモデル結果から利益を得られるだろう。特にOCNCで私がしたモデリング研究は新しい仮説を生み出してくれた。
- もしチューターを変えなければならなかったとしても、私は自分のプロジェクトから学んだことに満足している。
- 私達を常に忙しなくさせるのは良い方法である。また、私達の研究アイデアが発展するよう促され、ここにいる専門家からフィードバックや提案が得られるのは、良いアイデアだ。
- チューターと生徒達は与えられた課題にとても真剣に取り組んでいた。
- これは大変に役立った。プログラミングの経験がほとんどなかったので、チューターは大変頼りになった。異なった専門を持つ複数のチューターから話が聞けるのが特に良かった。
- 基本的にプロジェクトは必要。チューターは私のプロジェクトにぴったりだった。
- 彼の生徒達に対する献身さと誠実さには特に感謝している。とても助けになった。
- このサマースクール中に良いシミュレーションの結果は出せなかったが、トムをサポートのおかげでプロジェクトには満足だった。少なくとも次回は何をすべきか分かったため、このプロジェクトを続けることができるし、できれば、いつか結果を発表したい。
- 明らかに助けが欲しい時に、私のチューターは私のプロジェクトを助けることも本当に理解することもできないように見え、非常にがっかりした。また私のプロジェクトを理解してくれなかった。全く簡単な神経回路のことだったのに…。結果的に作業の95%以上は指導を得ることなく終わった。
- トム・テツラフは素晴らしいチューターで、忍耐強く、聡明だった。彼の専門知識と、早くモデリングの基礎を教えてくれる姿勢から、多くを学んだ。
- 私のチューターは私のプロジェクトに関する文献にあまり精通していなかったため、詳しく助けてもらうには困難だった。幸い、この文献からモデルを発見し、複製し拡大できた。けれども、周囲には小さな問題を助けてくれる人達が大量いたので、良かった。
- 最終的には私の生徒プロジェクトは満足できる結果となった。最初の頃は、ソフトウェアとシミュレーションの動作環境が上手くいくまでに随分と時間がかかった。チューターと作業できるのは良かったが、彼はNESTにあまり精通しておらず、代わりにNEURONで作業していた。なので、生徒とチューターをもっと上手く組み合わせるよう考えることができたはず。使用するソフトウェアXの利用方法が分かるチューターが、ソフトウェアXでプロジェクトを進めたい生徒を指導すべき。

- プロジェクトはうまく整理されていて、チューターとの意見交換もし易かった。それにしても、第一週の終盤には、生徒達に自分のプロジェクトをざっと公表させれば良かったのではないかな。でないと、プロジェクト探しや、テーマを見直して変更するのに、随分と時間がかかっている。
- 実際のところ、トニーとはあまり議論できる機会がなかった。でも、多くの参加者が私の良き先生となってくれた。自分のプロジェクトにもがき奮闘したことは、良い経験となった。
- 私のチューターであるパブロや他のチューターの方々も、素晴らしかった。
- チューターと参加者の密接な交流は常に有益なものだった。
- 私のチューターはとても頼りになり、私が何をしたいかという説明に耳を傾け、プロジェクトを大いに助けてくれた。必要なときは常にいてくれ、何時間でも作業してくれた。
- 私の素晴らしいチューターにとっても感謝している。自分のプロジェクトにとっても達成感を感じている。私が現在取り組んでいる実験研究を再生するスパイクネットワークモデルが出来た。このモデルを更に展開させていきたい。
- もう少し熱心に取り組むべきだった。ビーチへの誘惑がとても強すぎた…。
- 計算神経科学には全く触れたことがなかったので、特定のプログラムをどう使用するかを学ぶのに基本的に伴ってくる単一神経細胞モデルを選んだ。でも今思えば、もっと計算神経科学の概念に関わった、もっと学習体験を満たせるようなプロジェクトを見つけたかった(例. Ca 拡散)。

3. ポスター発表

- 疲れた。
- 良い。
- 皆が時差ぼけしている時だったので厳しかったが、これはきつと避けられないだろう。
- 私にとってはとても短かった。皆の研究アイデアを聞くには4時間では足りない。サマースクールの期間中ずっとポスターをどこかに貼っておけないのだろうか。
- ポスター発表はあまり有益ではなかったと思う。第一週の終盤に生徒同士がもう少しお互いのことを知ってもらうと話せるようになってから実施すれば良かったかもしれない。
- ポスターセッションは他の生徒達の研究を学ぶ良い機会になり良かった。残念ながら、全てのポスターを見る機会がなかった。もう2日間そこに(または場所があればどこでも)置いてあれば良かっただろう。
- とても興味深いポスターばかりだった。でも、もっと時間を取って勉強できるような数日間貼ったままにしておくのは良い考えだろう。
- 生徒達の研究について学ぶ機会があったのだから、OISTのメンバーの方ももっと参加しても良かったのではないかな。
- 良かった。他の人達の研究や関心を知ることができた。
- 自分達の研究について人々と交流できる素晴らしい機会。
- 他の参加者を知る良い方法だった。そして、時間の長さもちょうど適当だった。
- ポスターセッションはとても重要だ。ポスターは、ずっと、または、実際のポスターセッションに加えて少なくとも数日間、貼りだしてあれば良かった。
- 短く、分割し、もっと集中したポスターセッションを勧めたい。例えば、最初の週を通して毎日5時から6時まで各5人の生徒が行う。そうすればお互いの研究的興味をもっと徹底的に共有できる。
- これについては少し不満を言わなければならない。たくさんの人が一つのポスターで止まっていて動かなかったの、興味のあるポスターをいくつか見ることが出来なかった。また、ポスターのための場所が十分に広くなかった。ポスターセッションを2つか3つのセッションに分割して違う日に実施することを勧めたい。また、ポスター+アルコール=素晴らしいディスカッションになると信じている…。
- 長過ぎた。他の生徒達の背景を掴み、お互いに打ち解けるためには、貴重な時間だった。
- とても活気に満ちていた。(ただ、皆はプレゼンの順番を守っていなかった。沢山の人が4時間ずっとポスターの説明をしていた。)別々の部屋で2セッション実施しても良かったかも。
- セッションの後半には、ほとんどの人がポスターを見るのに疲れたようだったので、2番目のセッションでポスターを見せた人達はあまりフィードバックを得られなかった。最初のセッションの時間を短くしてみてはどうか。
- 皆の所属機関での研究の概要を簡略に知るのに良い機会だった。ポスターセッションでこうすることにより、興味のある特別な研究を選ぶことが出来た。
- 興味深かった。ポスターの並びは、生徒の名前のアルファベット順でなく、トピック毎に分類しても良かったのでは。そうすれば同じ分野で研究する生徒達をお互い話し合う状況に持っていけるだろう。
- 講義と自分達の研究とをリンクさせて色々議論できるかもしれないので、コースの最終段階で

実施する方が良いと思う。

- バックグラウンドがあまりに違い過ぎて他の人達の研究を理解するのは少し難しかったので、それほど有益に感じなかった。ただ、他の参加者を知る良い機会ではあった。
- 悲しいことに一日遅れて到着(ポスターセッション当日)したので、最後の15分しか見ることが出来なかった。今後は、最低でも1週間はポスターを貼っておいてほしい。そうすれば生徒はもう時差ぼけでなく講師がいる間に、生徒は生徒同士や講師に対して発表できるので。
- 他のポスター発表を聞く方にとっても自分のポスターを発表する方にとっても時間が短過ぎた。
- ポスター発表は、他の参加者と会い、このコースに象徴される研究背景の多様性を感じられる、素晴らしい方法だった。

4. エクスカーション

- とても良い。
- 素晴らしい。
- 面白かった!
- 良く準備できている。
- あまり有益ではなかった。
- OISTの敷地内にもう少し見るところがあったら、もっと良かったかもしれない。ラボ見学は楽しかった。
- その日は病気がだったので、行けなかった。
- 水族館見学は素晴らしかった。開催してくれてありがとう!
- ポスターセッションでラボのスタッフがいて研究を発表して、銅谷ラボの準備の良さに感動した。
- (雨が降った事を除けば)良かった。
- 雨が降ったりバスが道で立ち往生してしまったりと災難! またキャンパスが完成したら見に来たい。
- ラボ視察は良かったし、必要なものだった。
- 楽しんだ。銅谷ラボでポスターセッションを開催したのはとても有益だった。
- 水族館のこと? 建設地のこと? 突るところ、どちらも楽しかった。
- 良い土産話になると思う!
- 水族館見学は素晴らしかった。もう少し長く居られたら、もっと良かったけれど。
- 水族館見学はとても楽しかった。キャンパスサイト視察については、バスが道で動けない状態になったり、続けて大雨が降ってきたりして、少し困った。そうでなければ、自分達で旅行を計画できて、予め計画されたものに強制的に参加させられるのでなければ良かった。
- 素晴らしい。日曜日にOISTを離れて、島内観光できる機会があるのは良い。
- エクスカーション後半のラボ見学はとても興味深く、楽しかった。でも前半の建設計画地視察はそれほど面白くなかった。
- 素晴らしかった! 天気が悪かったのは残念。
- 勝連城趾は良かった。銅谷ユニットのロボットがとても興味深かった。
- もう少し日本・沖縄的な文化に触れられたら良かった。
- どれのこと? キャンパス建設地見学? 5年後の完成後に戻ってきたい!
- ラボ見学は少し急かされているように感じた。ラボの一つ選んで、もう少し長く居られたら良かっただろう。加えて、小さな点だけれど、ツアーの間に高橋ラボを見学できたら良かった。

5. 会場設備

- 最高。(5件)
- 完璧。(2件)
- 素晴らしい。(2件)
- とても良い。(2件)
- 良い。(2件)
- 素晴らしい! 10点満点。
- 施設は良かった。ミーティングルームの壁に書くことが出来るのは面白かった。
- ミーティングルームの管理は素晴らしかった。
- とても良い、涼して明るい、電源とワイヤレスも整っていた!
- 特に「書ける壁」がお気に入りだ。
- シーサイドハウスはこのようなサマースクールするには完璧な場所だ!
- とても実用的。この建物は交流がしやすい。
- 良かった。でも時々セミナールームの端に座るとスライドが見づらかった。可能であれば部屋の前方に椅子をもういくつか置けると良い。

- ・メインで講義を行っていた講義室は素晴らしかった。最初の数日間（理論家の部分で）使用した部屋は狭過ぎた。
- ・タクシーのおかげで、シーサイドハウスへ簡単に辿り着けた。
- ・セミナールームは素晴らしかった。

6. 宿泊施設 & 食事

- ・素晴らしい。(5件)
- ・最高。(4件)
- ・完璧。(3件)
- ・これも良かった。
- ・とても良い。
- ・良い。
- ・宿泊施設は何も問題ない。食事もあるけど、時々何回も同じメニューが出てきた。1~2回はどこかのレストランで食事を用意すると良いかも。
- ・食事は美味しかったし、部屋もとても良かった。
- ・食事は素敵だった。新鮮なフルーツが1日3食とも出てきて嬉しかった。ベジタリアン用の食事が時々欲しくなった。
- ・完璧な部屋、美味しい食事、エアコンは時々少し寒過ぎた。
- ・美味しい食事と良い部屋。海の眺めが最高だった。
- ・宿泊施設は最高で、食事も良かった。(食事はもう少しバラエティーに富んでいてもよかった)
- ・最高！(唯一の不満は、エアコンが寒過ぎ！)
- ・両方ともに良かったが、毎食に必ずベジタリアン用の食事があるわけではなかった。ほぼ毎年ベジタリアンはあるだろうから、毎食最低1~2種類はベジタリアン用の料理を提供すると良いだろう。
- ・完璧！食事はとても美味しく、これ以上は望めない！
- ・部屋はとても良かった。でもベッドと枕は私には硬過ぎた。食事は満足できるものではなかった。毎日ほとんど同じものを食べなければならなかったから。
- ・最高！毎日新鮮なフルーツを堪能し、確実に体重が増えた。
- ・宿泊施設に関して、枕は硬くて高過ぎた。椅子も同じく硬かった。海やテニスコートがとても近いので、シーサイドハウス周辺環境は良かった。食事については、食事は毎日ほとんど同じ内容だった。だから飽きた。洗濯機はとても便利だった。
- ・宿泊施設、食事とも文句が一つも見つからない。本当に素晴らしかった！

7. 事務局

- ・完璧。(3件)
- ・すごい！
- ・最高。
- ・素晴らしい。(3件)
- ・とても良い。
- ・良い。
- ・問題なし。
- ・最高！これ以上に親身になって助けてもらうことなんてできない。
- ・スタッフはとても感じが良く、いつも居て助けてくれた。どうもありがとう！
- ・オフィスにいた全員がとても助けになってくれた。どんな質問にも答えてくれ、いつも出来ることは何でもして全力を尽くしてくれた。
- ・スタッフはとてもフレンドリーで助けになってくれた。
- ・全てを手配するために大いなる努力をしてくれた。
- ・最高。全てが明確になっていて、つゆき、あつこ等々、とても助けになってくれた。タクシーを呼んだりカラオケ屋に電話したりと社外活動についても助けてくれてコースを本当に素晴らしいものにしてくれた。
- ・素晴らしい、皆さんありがとう！
- ・素晴らしい、有能でフレンドリー。
- ・とても助けになった。ありがとう。
- ・とても感じが良くて助けになった。全て助けてくれてありがとう。あなた方なしでは、コースはスムーズに進まなかっただろう。
- ・とても有能！どうもありがとう。
- ・素敵にもてなしてくれた。文句のつけようがない。

- ・とても良い。助けになってくれたスタッフの皆さん、本当にどうもありがとう。
- ・とても良い！皆さん、私達のために色々楽しいことを準備してくれ、素晴らしい仕事ぶりだった。
- ・シーサイドハウスのスタッフは素敵だった。常にフレンドリーで助けになってくれた。

8. 旅行の手配

- ・完璧。(2件)
- ・最高。(2件)
- ・素晴らしい。(2件)
- ・良い。
- ・完璧。問題なし。
- ・大体において良かった。
- ・どうもありがとう。
- ・コースの前か後にもう少し日本に滞在できる機会があれば良かったが、OIST がフライトを負担しているのにそれは難しいということはよく理解している。
- ・便利なフライトだった。
- ・全てスムーズに運んだ。
- ・良い！何も問題なかった。
- ・助けてくれてどうもありがとう。
- ・素晴らしかった。が、別件で東京でのニューロサイエンス会合のために延期したフライトは参加者が国内線分を自己負担しなければならなかったことと、それで差が生じるわけではないのに理由が分からないことを除けば。それよりも、旅行社は参加者が妥当な価格でチケットを購入できるよう日本の航空事情について情報を提供すべきだ。
- ・良い。ただ、法外なキャンセル料や変更手数料のない、もっと柔軟なチケットだったら、もっと良かっただろう。
- ・私の場合には完璧だった
- ・何も言うことはない程、うまくいった。
- ・つゆきが旅行を上手く手配してくれた。
- ・素晴らしい。ただ、思ったより乗り継ぎが多かった。よくある不満とは思えけれど。
- ・素晴らしい。復路のフライト出発時間が朝早過ぎたため、最後の夜のパーティを心置きなく楽しめなかったけれど。
- ・ここでとても言いたいことがある。私は沖縄→ドイツ往復路とも馬鹿馬鹿しいトラブルに遭った。私はドイツのフランクフルトからパリ→大阪→那覇へ飛び、その逆に戻った。
- 1. 沖縄に来る途中、パリでバックを紛失された。シーサイドハウスに私が着いた2日後に届いたが、バックは引き裂かれ、物が幾つか無くなっていった。
- 2. 帰りの時はもっとひどかった！パリで乗り継ぎをしたかった時、乗り損ねたと気付いた。セキュリティの前には長い列ができていて、航空会社のスタッフは搭乗時間前になっても私を列の前方に呼んでくれなかった。他の乗客にはそうしていたのに。おかげでフランクフルトへの接続便は1時間45分後に乗らなければならなかった。フランクフルトに着いたとき、預けた荷物の一部(ポスターロール)が紛失していた。私は最終地フライブルクへの電車の時間に間に合わせなければならなかったので、申告する時間もなかった。駅に到着すると、フライブルクへの次の電車は午前2時発、午前5時着だった。だから最終的に、私は30時間以上かけて帰ることになった。もちろんこれは OIST の旅行手配のせいではない。ただ、私の場合はパリ経由で日本に飛ばなければならなかったことが問題だったと思う。ドイツのフランクフルトから飛んでいるフライトもあったはずだと思う。パリを経由したことで沢山の問題が引き起こされ、全旅程が長引くことにもなった。エアフランスとシャルル・ド・ゴール空港には本当に嫌気がさした。この空港経由でこのエアラインを利用することはお勧めしない。私の提案としては、旅行手配にもっと生徒の意見を聞き入れてあげることだ。
- ・フライト予約で、私の名前のスペルが間違っていた(そして今年こういうことがあったのは私だけではなかったと聞いている)。
- ・良い。ただ、もう少し長く日本に滞在したり東京や他の都市を探索できるよう、もう少し柔軟にしても良かったのでは。

9. 沖縄の印象

- ・素晴らしい。
- ・本当によい場所。
- ・他からとても隔絶されている！

- 日本の魅惑的な一面である。けれども、信じられないほど暑く、湿度が高く、いくぶん孤立している。
- 美しい島。
- 場所が好きだった。特に、シーサイドハウスが海にとっても近く、あらゆる海洋生物を見られたので。
- OIST 以外を見る機会があまりなかったので、判断するのは難しい。美しいビーチと海洋生物。この気候と上手く付き合っていくのは苦勞する人もいるだろう。孤立しているように感じた。那覇はかなり観光地化されているように思えたが、これは自分達が観光地に固執しているだけかもしれない。
- とても美しい島だが、私の体はこの気候に慣れることを拒否していた。
- 市街も自然も両方あり、とても素敵な地域。
- とても好きになった。素晴らしい人々、食べ物、景色。
- 良い天気と美しい景色。でも少し暑くムシムシしている。
- ビーチが美しかった。那覇は私には少し退屈だった。
- 友好的な人々、興味深い文化、他の世界から少し孤立している。
- 他の人々と触れ合えるよう少人数単位でアクティビティーがあれば良かったらう。休日にはほとんどの人が観光地へ行ききたがるが、行き先は全く同じわけではない。コースの最後に休日があると良いかも。
- 沖縄の亜熱帯気候、海、フレンドリーな人々は楽しかった。レストランやバーへ数回出かけたが、人々はいつもオープンでフレンドリーで、沖縄の人達はかなり幸せそうな方々だという印象を受けた。残念ながら、あまり田舎の方はあまり見ることが出来なかった。だが、時々かなり貧困さもまたあるように思った。例えば那覇や沖縄市では、あまり文化教養的な生活が営まれている印象は受けなかった。他の日本人学生達と話した時、日本の本土を見たいという好奇心に駆られた。いつかそれを実現できればと思う。
- 素晴らしい島だということがよく分かった。本当に良い場所。
- 沖縄は、訪れ、住むのにとっても良い場所だと感じる。実際に、沖縄に戻ってきたい。
- 美しいけど、少し湿度が多過ぎる。
- 忘れがたい。
- とても良い。驚くほどの天気と海、素晴らしい食事と仲間。
- 素晴らしい！また沖縄を訪れたい。
- 市街地はまあまあ良い。田舎はとても素敵。

10. その他のご意見、ご提案

- カラオケはとても楽しかった（注：外出先？）。ビールの自動販売機はとても便利だった。切手やハガキの販売が事務所内のどこかであれば便利だと思う。
- 最初の週に自己査定のための生物物理学の任意テストをする。短い進捗レポート（スライド1枚）を生徒に各週させて、誰か付いてこられなくなっていないか、間違った方向に行っていないかを確認する。
- ラボツアーはもう少し良く計画されていても良かったらう。生徒達は OIST の様々なラボの現行プロジェクトをもっと良く知るべきだ。
- OCNC 2008 が忘れられない。
- ディスカッションフォーラム（注：情報交流のための Web サイトを主催ユニットが開設）はもっと早めに公開されても良かったらう。
- 再度ポスタープレゼンテーションについて。もし3週間ずつとポスターを置いておける部屋があれば、「科学的」会話を促すのに絶好だろう。私は非科学的会話から沢山学んだけれど。
- どちらかのラボで実験的な技術を学び試せる機会があれば素晴らしいだろう。
- 忘れられない3週間をどうもありがとう！この素晴らしいサマースクールをいつも思い出すことになるだろう。この OCNC の大きな利点は、主催者は生徒達に自分でプロジェクトをさせ、最良の方法を「探求」させ、満足のいける貴重な科学的成果を出させてくれたこと。このサマースクールを成功させた更なる要因は、見事な設備（宿泊施設と機器）、素晴らしい食事、世界中から参加していた生徒とチューターと地元民との集まりだった。
- 最大の点はポスターを初日だけでなくもっと長く貼っておくこと。前述参照。
- 日本語の初級クラスが最初の週にあれば、皆ためになったと思う。（「すみません」、「お願いします」等）。
- ビーチの岩石をきれいな砂と代えてくれたら素敵。

2. 将来のコースについての提案

1. もし来年もこのようなコースが開催されたら、同僚に申し込みをするよう勧めますか？

- はい。(8)
- はい、当然。(4件)
- もちろん、はい。(3件)
- 間違いなく。(3件)
- 当然。(2件)
- 当然はい。
- もちろん。
- 当然。モデリングに興味のある人を個人的にはあまり知らないけれど、友達に教える。
- 強く勧める。
- もちろん、コースにはもう夢中。素晴らしい機会だし、これを見逃すのは残念なことだろう。
- 当然！もう既に勧めた。
- はい。でも、もし計算神経科学の知識が既に少しあって、もちろん応用数学のしっかりとした基礎力があれば、コースから得られるものは多大になるだろうと伝えたい。

2. コースの長さ

- ちょうど良い。(2件)
- 大体良い。(2件)
- 大体完璧。
- 完璧な期間。
- ちょうど良かった。
- 最適
- 問題なし。
- 3週間の終わり頃には、ものすごく長く感じた。
- 問題なかった。もっと短い期間ではモデリングプロジェクトをあまり成功させることは出来なかったらうと思う。
- 幅広い種類の講義を受け、私達のプロジェクトを順調に進めるには、ちょうど充分だったと思う。
- 私のプロジェクトについては、良い監督が付いていれば2週間で大丈夫。他の方はどうか分からない。でももしが、もし講義内容の密度がとても濃く、講義の数とトピックの範囲が今回のようだったら、3週間より少ないと大変に厳しいだろう。
- 3週間で十分だった。
- 3週間で良い。もし長くなるなら、土曜日は休日にすべき。
- いつも充分ということはないが、問題ない。
- もし生徒のプロジェクトのことを考えるなら、短くも長くもない。だが、もし実験家向けの数学クラスにもっと時間を割いたら、とても助けになったらう。
- 構成としてはちょうど良い。
- 私の意見では、少なくともプロジェクトについては、少し短すぎ。結果が最後の週にだけ出始めてきたので、焦りを感じて、もう1週間あればより高い成果が得られたかもしれない。
- 長過ぎず、短過ぎず。3週間は私にとって最適だった。
- 長い、必要。
- 私は自分のしたいようにしていられたので、長さは大変良かった。
- もっと長くても良かった！
- 家族と遠く離れているには長かった。皆と一緒にいるには短かった。
- コースの長さはちょうど良かった。
- 大体ちょうど良かった。

3. 招聘講師とは十分に交流が持てましたか？

- はい。(7)
- 講師の方々がもう少し長くシーサイドハウスに留まるか、夜に生徒達と過ごす時間を持つかしていただければもっと良かったらう。
- 講義の後の日中に何人かの講師の方々とお話することができ、また、生徒達に対する彼らの対応には感謝している。
- 個人的には十分には交流できなかったが、最も関心を抱く先生とはお話しすることが出来た。自分自身を売り込むための更なる交流を持つことは考えていないけど、もし誰か他にそう考えてい

- るなら、試してみるのには良いアイデアかもしれない。
- 生徒達と先生方の宿泊先が異なり残念だった。私にとっては、一日の課題が終わり全ての考えがまとまる夜にテラスでする議論が一番有意義だったから。
- 夜も何日かは一緒に過ごすことができればもっと良かったかもしれない。
- はい、交流の機会は十分にあった。各講師がどの程度滞在するか分かるようスケジュールを公表してあっても良かったのかも。
- はい！どうもありがとう。
- はい、何人かの講師と素晴らしい議論をすることが出来た。
- 交流の多い講師とそうでない講師がいた。概ね、はい。
- ほとんどの講師が接触しやすかった。
- はい。ただ、講師の方々は時々サーサイドハウスを随分早めに出て自分達のホテルへ帰ってしまったのが、少し悩ましかった。
- そんなになかった。自分が彼らの話についていけなかったから。
- もっと交流がある方が良い。
- 講師達が講義中やその後に多くの時間を私達のために割いてくれ、ものすごく満足している。ほとんどの方々が生徒達の研究にも興味を持ってくれたようだった。何名かの講師とお話し出来た。彼らの優しさ丁寧さに感謝する。
- 講師によるけれど、大体は、はい。
- 交流の多い講師とそうでない講師あいた。サーサイドハウスとホテルを結ぶ交通手段の時間の都合で、講師の方達は私達との交流の時間が制限されていたようだ。

4. 今後取り上げるテーマや招聘講師の提案

- 私はモーターコントロールを専門的とする実験心理学者なので、Emo Todorov や Reza Shadmehr のような講師に会い、感覚運動のシステムレベルモデルについて話が聞きたかった。Konrad Koerding が参加されなかったのは残念！
- 銅谷賢治さんが導入部分の講義に加えて、彼の研究についてお話しして下さったのが嬉しかった。この分野（レートコード、バーコード等々）で長年合意のなかったトピックや討論に興味がある。概観を理解し意見を組み立てるのは難しいことだろうが、反対意見を述べる招聘講師とのパネルディスカッションのようなことをすると大変面白いだろう。いつも専門家達のやりとり（とケンカ）を見ると啓発される。
- 今年もそうだったように、広く豊富な多様な多様性を保ってほしい。
- 大学に所属している以外の講師が良いかと思う。どなたか神経科学者のための異なるキャリアの道についてお話しできる方。
- 計算認知神経科学のトピックについてもっと。講演者の例：Randall C. O'Reilly。
<http://psych-www.colorado.edu/~oreilly/>
- 講義の順番は内容が最初の週に導入、初級のものから、段々と難しいものになっていくように再構成する方が良いかもしれない。
- 実験的計測技術のチュートリアルがあると良いと思う。
- 意思決定。Paul Glimcher, Brian Knutson, Daeyeol Lee, John O' Doherty。
- 私のデータ解析のためにこのような段階のことを知っておく必要があったので、イオンチャンネルから行動までのトピックが面白かった。銅谷先生のスペシャルトークの中以外ではfMRI トピックが出なかったの、特にfMRIを専門にしている方々には、fMRIとモデルを組み合わせるお話しができる講師の方々がいると良いかもしれない。
- 今年のようなトピックは、モデルに関して全く分からない沢山の方々にとって、一般観念や感じ方、観点を得る助けになった。具体的なトピックが彼らの研究をもっと助けられるのでは。
- Gareth Leng - エディンバラの神経内分泌学者で計算モデルや実験をしている。Daniel Durstewitz (私のスーパーバイザー)は実験とモデリングをしている。Wolfram Schultz, Jonathan Cohen, Eve Marder、他の良い実験者の方々。生徒達を奇抜なアイデアで刺激し挑発する方なら誰でも。抜本的な問題について、特に教授陣を巻き込んで討論すれば良い刺激となるだろう。
- ミズーリ大学セントルイス校神経力学センターのS. Baharさんを推薦したい。彼女は私の論文のスーパーバイザーで、とても興味深い研究者で、生徒達と議論するのが好き素晴らしい人物である。彼女はラットの脳新皮質のてんかん性の行動と神経システムにおける同期化の計算研究の生体イメージを一体化している。<http://www.umsl.edu/~neurodyn/faculty/bahar.html>
- 行動モデル、精神物理学、fMRI方法。
- 講演は大変良かった。私はこの分野には馴染みがないと思うが、満足と呼べる以上のものを見ることが出来た。

- ・ 神経科学システムについての講義をもう少し聞きたかった。

3. OISTについて

1. OIST への求人応募を検討しますか？

- ・ はい。(4件)
- ・ いいえ。(2件)
- ・ はい、予約したい。
- ・ そう思う。
- ・ 多分。
- ・ 今はない。
- ・ 今は、いいえ。
- ・ 今はないが、多分将来的には。
- ・ キャンパスが完成したら。
- ・ ニューヨークに数年いるつもりなので、今すぐにはない。
- ・ Ph. D. の最初の年なので考えるには早いですが、こちらの研究成果と施設の質の高さに驚いている。
- ・ ドイツでの3年契約が決まったばかり。
- ・ OIST は研究のための設備がしっかり整っていて素晴らしい場所。
- ・ 銅谷先生といつか一緒に研究したい。
- ・ もし私自身ももっと確立して他候補者の方達と競えるぐらいになったら、まだポジションが空いていれば、イエス。
- ・ 今から3年以上先なら考えられる。
- ・ はい、できる。この島は全く孤立しているにも関わらず、ここでの生活は大変快適そう。
- ・ はい！もしできれば。
- ・ はい。私は猿を取り扱う実験研究者なので、もしそのようなポジションに求人があれば応募する。
- ・ 今、沖縄に来てみて、ポジションへの応募を検討することもあり得ると思う。ただ、個人的には長期間住める土地ではないと感じる。

2. 沖縄に移る、または移らない、もっとも重要な要因は何ですか？

- ・ 孤立 — ここは極めて人里離れていると感じる。言葉の壁もあるので、沖縄に働きに来ることはかなり慎重に考えなければならない。
- ・ 私の夫がここで仕事を探せるかどうか。
- ・ 私にとって一番の難点は、この地が比較的孤立しているという事実。
- ・ 私の伴侶や子供にとって、仕事が探せるか、生活、発展の可能性。神経科学以外に、自分の好きなことが出来る、私の人生のバランスを実現させられるか。
- ・ 気候。私の体には厳しかった。
- ・ 機外での言葉の壁。残念ながら島のほとんどの人は英語が話せない。
- ・ 言葉、家族。つまり、私のパートナーも沖縄で仕事が探せるかどうか。
- ・ 施設の拡充。
- ・ 資産は素晴らしく思う。考えなければならない最大の要因は、家族や友達と離れ、孤立すること。
- ・ 利点：自然、財源。難点：孤立（地理的・社会的）。家族にとって不利（例、インターナショナルスクールの不足）。
- ・ 共同研究のために同一分野での主要研究者がいるかどうか。
- ・ 利点：現在の研究メンバー、立地、休日のアクティビティ。難点：沖縄はどこからでも大変遠く、那覇は私にとって十分な大きさではない。雪がなく、沖縄ではスキーが出来ない。
- ・ 孤立感…
- ・ どんなに施設や研究者達の専門知識が素晴しくても、孤立した立地が私にとって唯一 OIST への応募を止める理由。全体的なインフラが上がれば、この地も活気づくかもしれない。
- ・ 文化の違いというものは橋を架けられるものだと分かること。だからこそ、コース終了後に個人的に、地方文化と交流し、土地を知る機会があるのが良い。もしこうする機会がなければ、OIST は沖縄から孤立しているかのように感じ、もし来るなら社会の輪はとても小さなものになるという印象を与える。
- ・ 研究以外で楽しめる活動は十分にあるだろうか。文化的な生活、旅行する可能性…。研究者は小さい家族を養えるぐらいの収入はあるのだろうか。または、同伴者に仕事はあるのだろうか。
- ・ 状況。私の故郷であるフランスから遠い。

- ・ 沖縄の文化。
- ・ 移りたい重要な要因としては、センターは素晴らしく、銅谷先生の研究も好きで、日本の文化も素晴らしい。移らない主な要因としては、この辺りはとても孤立していて、私の妻にとっては大変難しいだろうということ。
- ・ 移りたいけれど、数年間だけ（例えば、ポスドクの間）。文化が違い過ぎて長く住むことは出来ないと思う。
- ・ 交通の不便さ。
- ・ 交通（旅行）。科学的なコミュニティの質が重要ではあるけれど。
- ・ 距離、孤立、子供達の学校。
- ・ 気候が私には暑過ぎるし、信じられないほど孤立していると感じる。

3. OIST のプロジェクトに関して他の意見やリクエストは？

- ・ 銅谷賢治先生の研究には、報酬に基づく学習やソーシャルロボットの両方とも、とても興味がある。
- ・ OIST には異なる視点から脳幹神経節の研究に携わっている方が大勢いるという点が気に入った。このラボとの協力によって OIST から素晴らしい論文がたくさん出されるのを期待している。
- ・ 素晴らしいアイデア！
- ・ また将来いつか訪れることができたら良いと思う。
- ・ 今回の分野は私にとって新しいものだったので、新しい可能性が開けた。
- ・ OIST プロジェクトの成功を切望している。
- ・ 多くの可能性があり大変面白いアイデアだ。特に、ケンジ（銅谷先生）、エリック（デ・シュッター先生）のような才能ある PI をもっと採用すればと思う。どのように発展するか楽しみにしている。

4. 全体的なコメント & 提案

- ・ 本当に楽しい 3 週間だった。時々ちょっと孤立しているように感じたが、満喫した。新しい人々に会ったり沖縄の生活を疑似体験したりと、コースの全てに渡って大変満喫した。OCNC2008 の参加者に私を選んでくれて本当にありがとう。（日本語で）「ありがとうございました。」
- ・ この 3 週間で学んだ全てのことに感謝したい。高いスキルがある頼もしいチューターの指導の下でモデリングプロジェクトを始める機会が得られ、とても嬉しい。このプロジェクトでこの数ヶ月間に興味深い研究成果を挙げられるよう願っている。
- ・ コースは本当に楽しかったし、沢山の新しい友人や将来的に共同研究者となる可能性のある方々に会えたり、モデリングのことも学べた。
- ・ この素晴らしい 3 週間でありがとう！！
- ・ サマーコース全体が良く準備されていたし、3 週間で十分に学べたと思う。素晴らしい経験だった。ありがとう。
- ・ OCNC2008 での素敵な時間をどうもありがとう。
- ・ 素晴らしいコースと、このように楽しく忘れられない 3 週間でありがとう。沢山学び、沢山の素晴らしい方々と出会い、今まで行ったことのないような素晴らしい地を経験できた。
- ・ 生徒 30 人というのはこのコースにとって適正サイズだ。
- ・ OIST シーサイドハウスは、完璧な宿泊施設、食事、ミーティング会場を持っている。運動できるジムがあるのもっと素晴らしいだろう。公共のジムに何回か行ったが、エアコンがついてなかった。エクササイズするには湿度が高すぎるし暑過ぎた。
- ・ このサマースクールに私を生徒として迎え入れてくれ、どうもありがとう。人生の中でとても大事な経験となったし、科学と共に世界中の文化も学ぶことが出来た。
- ・ 本当に楽しかった。この機会を与えてくれどうもありがとう。
- ・ このコースはとても良く準備されていて、色々な意味でとても助けられた。これからも頑張ってください！！
- ・ 来る前は、コースが私の PhD にとってどの程役立つのか定かじゃなかった。まだ効果は出ていないが、研究コミュニティの他の人達と交流したこの機会が、家に戻ってから私の研究の質・妥当性を大いに高めてくれるだろう。もし、どんな質問が重要で、他の人達が何に取り掛かっているかを把握できなければ、良い研究成果をあげるのは難しい。このコースの格式張っていない雰囲気は、シニア研究者の方々と話し、彼らから学ぶのに、最高の機会だ。招待してくれて本当にありがとう！
- ・ 全体の印象は大変良い。ただ、旅行手配の点については検討すべき。

- ・ 前述したとおり、生徒達それぞれのプロジェクトを初期の段階でもっと明確に発表させるよう勧める。そうすれば誰が何をしているか知ることができるし、共通のテーマでのグループをもっと簡単に構成できただろう。更には、3 週間という期間で枠組を明確にし、もっと効率的な研究ができるだろう。
- ・ この素晴らしいコースを開催してくれ、どうもありがとう！！
- ・ このコースは大切なことを学ぶ良い機会を与えてくれた。この経験は貴重なものに違いない。この計算神経科学コースが沖縄の象徴となることを願う。
- ・ 全てを本当に楽しめた。どうもありがとう！
- ・ どうもありがとう！他の生徒やスタッフに会えてとても嬉しかった。私にとって大変実りのある経験だった。
- ・ 素敵な 3 週間だった。どうもありがとう。この機会を持つことができ、とても幸運に感じる。

ワークショップアンケート

Open Problems in Neuroscience of Decision Making

意思決定の神経科学における未解明の問題

日付: 2008年10月15日~10月18日

回答数 4 件 (講師 0、参加者 4、その他 0)

1. 講義内容

優良(2)、良(2)、可(0)、不可(0)

- ・ 私には大変感動的だった。

2. 会場設備

優良(2)、良(2)、可(0)、不可(0)

3. 宿泊施設

シーサイドハウス: 優良(3)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ これはとても素晴らしかった。最近オックスフォード大学に滞在する機会があったが、こちらの宿泊施設の方が遙かに良かった。

4. 食事

優良(2)、良(1)、可(1)、不可(0)

- ・ 機構の規定があるのは分かりますが一日だけではなく、アルコールの支給があれば話が弾んだかもしれません。
- ・ もう少し洋食が多くても良かったと思います。ただ、他の面やサービスは完璧でした。
- ・ すばらしいセレクションでした。きれいで、よいサービス、おいしかったです。
- ・ 素晴らしいと思う。(大袈裟に言ってるわけではない)

5. 事務局

優良(3)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ 素晴らしかった。あなた方のサポートに心からとても感謝している。

6. 沖縄の印象

優良(3)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ 一つ残念だったことは、観光する時間機会がなかったことだ。(でもこれはあなた方のせいではない!)

7. その他のご意見、ご提案

- ・ 平らな枕

ワークショップアンケート

Multi-Scale Phenomena in Biology

バイオロジーのマルチスケール現象

日付: 2008年11月4日~11月6日

回答数 17 件 (講師 6、参加者 11、その他 0)

1. 講義内容

優良(12)、良(5)、可(0)、不可(0)

- ・ 初日は過密スケジュールだった。
- ・ とても役に立った。ただ幅が広すぎて講義の約40%はほとんどの聴講者が理解できていなかった。
- ・ 時間割は完璧だった。科学分野の面白い内容がたくさん盛り込まれていた。
- ・ 発表者と質疑応答の時間が十分にあったところが良かった。

2. 会場

優良(16)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ 設備が技術的によく整っており、快適で、よく準備されたミーティングルームだった。

3. 宿泊施設

リザンシーパークホテル: 優良(5)、良(1)、可(0)、不可(0)

シーサイドハウス: 優良(9)、良(1)、可(1)、不可(0)

- ・ 部屋はちょうど良い大きさで、部屋からの景色は素晴らしく快適。必要な物全てが部屋に揃っている。

4. 食事

優良(13)、良(4)、可(0)、不可(0)

- ・ 規則に制約されているのは分かるが、アルコールがいくらあると夕食時の会話が円滑になるだろう。
- ・ 素晴らしいセレクション、清潔、良いサービス、おいしい食事。
- ・ もう少し洋食があれば良かった。でもそれ以外は、サービスは完璧だった。

5. 事務局

優良(16)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ 完璧以上でした。この組織のスタイルを故郷に持ち帰りモデルとします。
- ・ よく準備されていました。

6. 沖縄の印象

優良(13)、良(3)、可(0)、不可(0)、未回答(0)

- ・ 美しい場所、少し静かすぎる。でも残念ながら、ここの地域の人々の暮らしぶりをほとんど見られなかった。
- ・ あまり分からない。
- ・ ポストカードと郵便局の案内は?

7. 旅行手配

優良(13)、良(3)、可(1)、不可(0)

- ・ 旅行会社は3社の航空会社の予約をリンクしてくれなかったため、チェックインの手続きを3回しなければならなかった。もし私に機内預かり荷物があったら、面倒なことになっていただろう。
- ・ ユナイテッドは満足度において統計上好ましい評価がない。お薦め: コンチネンタル。

- ・ サービスは正確、迅速、全てがスムーズに運んだ。
- ・ とても助けになった。

8. その他のご意見、ご提案

- ・ 毎日の最後に全体討論の時間枠を 30 分程取る。講師全員がこの時間枠に参加する。参加者が討論に参加できるともっと良い。
- ・ 講師もシーサイドハウスに宿泊していたら恐らくもっと良かっただろう。
- ・ 「マルチスケール」の様々なトピックを取り上げるワークショップを次回計画する時には、また参加したい。
- ・ 素晴らしいワークショップ。幅広い分野の方々から話が聞け、刺激になった。
- ・ バイオロジーのマルチスケール現象を理解する上で最良のワークショップ。このワークショップに参加できて大変嬉しい。
- ・ 素晴らしいワークショップ！
- ・ 見事だった。どうもありがとう。
- ・ 講演者の時間割：講演者は、討論の前に考えをまとめるため、休憩を入れる。講義中に邪魔にならない程度のおしゃべり感覚で討論できるシステム。
- ・ 全ての参加者が数学の専門知識を持っているわけではないので、公式を説明するのではなく、基本的概念の観点からモデルを説明するよう（もしくは、せめてバランスを保つよう）講師に助言すると有益かもしれない。
- ・ このワークショップへ招待してくれどうもありがとう。興味深い方々と知り合い、興味深いトピックを議論でき、嬉しい。
- ・ 私は多くの会議に出席したが、これは群を抜いて最も良くまとめられ、よく考え抜かれた会議だ。この日本式のお手本を自分の所属機関へ持ち帰ろう！！素晴らしい仕事ぶり。会議の内容も要点を押さえていた。本当にありがとう！！A+

ワークショップアンケート

Gradients and Signalling: from chemotaxis to development

勾配と情報伝達: 化学走性から発生まで

日付: 2008年11月17日~11月21日

回答数 46 件 (講師 17、生徒 28、その他 1)

1. 講義内容

優良 (35)、良 (11)、可 (0)、不可 (1) ※参加者の内 1 名は複数回答

- ・ トピックは良い。スケジュールはもっとコンパクトでもよい。午後の休憩が長すぎた。
- ・ 講演の時間の長短のコンビネーションが良く、また、とても興味深い関連性のある幅広いトピックがカバーされていた。
- ・ 講演とディスカッションの時間のバランスがよく取れていた。招待講演者にはもっと長い時間 (40 分間の全部の時間) を割り当ててもよい。講演者たちとのディスカッションは休憩中や食事中など十分な時間があった。
- ・ 異なるトピックの講演開始前に導入部分が無かったので、研究分野の異なるプレゼンテーションについていきにくい時があった。
- ・ 講演者の中にはその分野の専門でない参加者にとって聞きやすくするための配慮をしていない場合があった。略語ばかりの講演は私にとって時間の無駄に感じた。他の講演者の講演はすばらしく、それぞれの研究分野を興味深くプレゼンしてくれた。※この参加者は「優良」と「不可」の複数回答
- ・ トピックはとても面白かったが、分野の幅の広さを考えると講演者は背景と内容の情報をもっと提供してもよかったのでは。
- ・ 1 時間の講演は長い様に思う。長くても 40 分/人でいいかもしれない。
- ・ 幅広い分野のすばらしいトピックが講演者たちによって話されていた。
- ・ 講演の内容が似通っていたものがあった。
- ・ 招待講演者たちのレベルは素晴らしい。
- ・ 少しトピックが片寄っている気がした。ハエが多かったような。
- ・ 講演者、トピックともに素晴らしい。
- ・ あのような広範囲にわたる分野の中で、最高に多様性に富んだ興味深いものだった。とても勉強になり、また刺激を受けた。
- ・ 内容やコンセプトに関して、今まで参加した会議の中で最も良いものひとつだった。スケジュールもとても良かった。
- ・ トピックが幅広く、また多様だった。話される分野や課題についての概要紹介がもっとあれば良かった。
- ・ 休憩時間はもう少し短くてもよい。イブニングセッションの開始を早め、ディナーはセッション後でもよい。
- ・ 自分とは異なる分野の人々との交流は本当に良い刺激となった。多くを学んだ。

2. 会場設備

優良 (41)、良 (5)、可 (0)、不可 (0)

- ・ 複数のコンピューターが接続できるように、スイッチングハブが必要。
- ・ ひとつだけ残念だったのは、ポスターセッションが同じフロアでなく、1 階と 3 階の二つに分かれていたこと。
- ・ 素晴らしい会場！
- ・ 素晴らしい施設だった。
- ・ 会場の座席の配置は理想的ではなかった。両サイドの椅子の数が多すぎ、端に十分なスペースが

- なく、それが原因で参加者は一定の角度からスクリーンを観なければならなかった。
- 会場は講演には理想的ではなかった。スクリーンを観るのが困難な席が多くあった。
- 学術的なニーズを満たすにも相応しかったし、また、美しくリラックスできる環境だった。

3. 宿泊施設

リザンシーパークホテル：優良(16)、良(0)、可(0)、不可(0)

シーサイドハウス：優良(24)、良(3)、可(3)、不可(0)

- 清潔で、景色は素晴らしく、人々もとても協力的、デスクも仕事がしやすかった。
- 素晴らしい宿泊施設。
- 部屋がとても清潔。
- きれいで過ごしやすかった。部屋からの sea view がすばらしかった。
- どんな科学者でも会議中のここの滞在を喜ぶだろう。
- ひげそりがあればよかった。
- シャワー室が狭い。

4. 食事

優良(37)、良(7)、可(2)、不可(0)

- 日本食自体にあまり馴染みがない。
- とても美味しく、バラエティーに富んだ料理だった。沖縄料理も口に合った。
- とても美味しかった。
- もっと沖縄料理が食べたかった。
- 種類、味ともに満足。多少でも沖縄料理があれば、もっとよかった。
- 内容はホテルのものも良かったが、朝にごはんも食べたかった。
- 時々脂っこく感じた。

5. 事務局

優良(40)、良(5)、可(1)、不可(0)

- よく手伝ってくれたし、友好的だった。
- とても優しく、能力もあり、能率の良いスタッフだった。みんなに御礼を言いたい。
- サポートは素晴らしかったが、事前の情報は不完全だった。私戻しに関する情報はまとまりが無かった。
- とても役に立ち、気配りをしてくれた。
- とても友好的で協力的なスタッフだった。最高！
- 日帰り旅行のタクシー手配など、非常に助かった。晴れていない日の過ごし方の提案がもっとあればよかった。
- スタッフのサポートに感謝している。
- スタッフはとても助けてくれたし、良かった。
- 素晴らしいという言葉以上に素晴らしかった。際立ったサービスだった。
- 全員とてもよくサポートしてくれた。
- OIST のホームページに、この場所が、白雲荘前と書いてあったが、Seaside House 前ではないか？

6. 沖縄の印象

優良(35)、良(10)、可(0)、不可(0)、未回答(1)

- 思ったより肌寒かった。
- 観る時間が無かった。私が観たものと言えば、那覇空港の綺麗な蘭！
- 海外のクレジットカードが利用できる ATM が必要！
- 今まで訪れた中で、もっとも景色が素晴らしい場所。
- とても良い所。今度はおそらく夏に、(観光客として) 来たい。
- 景色が素晴らしい。
- 前半、ずっと曇りだったので。
- 講演の合間にもっと島を観光する時間があればよかった。
- 美しい島と人々。
- 良い。OIST に行く交通手段が少ないのが大変な点。

7. その他ご意見、ご提案

- 各セッションの議長はそれぞれの分野について最大 5 分間の導入説明があればよかった。そうすることでその分野の専門でない参加者にも主な課題が理解できる。
- あらゆる面で素晴らしかった。
- ポスターセッションの時間帯が、午後の真ん中の時間帯ではなく、昼食のすぐ後またはディナーのすぐ前だと良かった。
- すばらしいワークショップだった。主催者と事務局に感謝したい。1 時間の講演は長すぎるので、長くても 40 分がよい。
- 素晴らしいワークショップだった。とても楽しかった。
- 主催者たちのもてなしは素晴らしかった。
- シャワーに加えてお風呂があればよかった。
- すべてがとても良かった。今まで参加した中で最も良い会議の中の一つだった。
- 科学分野の中でキャリアを始めたばかりの学生にとっては、この会議は本当に良い刺激と科学における自信を高めてくれた。
- 素晴らしいワークショップを開催してくれ、ありがとう。
- このような素晴らしいワークショップを手配してくれ、ありがとう。とても楽しかった。
- シャトルバスについて、夜間の運行がもっと多くあれば社会的イベントがもっとできただろう。
- シーサイドハウスの場所が沖縄の繁華街から比較的遠いので、自由時間を効率よく過ごせなかった。
- 将来また会議で沖縄を訪問できることを楽しみにしている。この会議から私が受けた全体の印象は、興味深い科学がここで起きているということだ。
- この場所で、私の研究発表をする機会をくれ、ありがとう。おそらく今まで参加した中で最も興味深いワークショップだ。講演者たちのホテルへのアクセスがもっと便利ならばよかった。そうすればイブニングディスカッションの参加がもう少し増えたと思う。
- 講師がイブニングディスカッションに残って貢献できるよう、ホテルへのシャトルバスの頻度を夜は増やすように提案したい。
- 発表会場の机の配置が(スクリーンを)少し見にくい。
- 素晴らしいワークショップだった。見事！
- ディナー後のイブニングセッションは少し困難。午後の遅い時間(5時30分か6時)でディナーの前には？

ワークショップアンケート

OIST Winter Course "Evolution of Complex Systems" 2008 (OWECS 2008)

2008 年度ウィンターコース「複合システム進化コース」

日付: 2008 年 12 月 8 日~12 月 14 日

回答数 20 件 (講師 1、生徒 12、その他 7 [参加者 6、OIST スタッフ 1])

1. 以下の点に関して、コースの印象はいかがでしたか。

1. 講義内容

優良 (11)、良 (7)、可 (0)、不可 (0)、未回答 (2)

- 生徒達のプレゼンテーションの時には講師の方々に講師を努めてほしい。または同じような研究的関心・モデル生物の講師の後に生徒のプレゼンをさせる。
- ワークショップのみ参加した。(評価の未回答者より)
- とても有名で、ためになる講演者だった。レヴィン先生とマクギニス先生の講義は素晴しかった。
- 実験的な研究があればもっと良かった。
- 一般的には、講義は素晴らしかった。改善できるとすれば、もう少し講義に一貫性を持たせる点だろう。そうすれば単独の講義より「講義シリーズ」になり、まとまってくるだろう。発達胎生学と進化はもう少し詳しく説明しても良かった。例えば、単一生物として取り上げるより、比較手法を用いて、シグナル経路や形質の出現を議論する等。
- 講義内容はもっと実用的なセッション、つまり、講師と生徒がもっと密接に交流できるセッションを含むべきと思う。
- トピックはとても興味深いものだった。講義は明瞭、有益だった。
- 良い講義。進化と発達の背景から高度なトピックまで良く理解できる。推薦レポートの序論に感謝している。
- 説明はとても良く、よく理解できた。

2. 会場設備

優良 (19)、良 (1)、可 (0)、不可 (0)

- 建物は豪華で、素敵な立地だった。
- ラボ以外は、会議に相応しい場所。

3. 宿泊施設

未回答 (1)

シーサイドファカルティハウジング: 優良 (1)、良 (0)、可 (0)、不可 (0)

シーサイドハウス: 優良 (16)、良 (2)、可 (0)、不可 (0)

- 素晴らしい宿泊施設。予想していたより遙かに良かった。日本人のルームメイトと過ごせて満喫した。彼女と出会えて良かった。
- 宿泊施設に何も問題はなかった。
- 個人的に自然が大好きなので、この宿泊場所は私には大変良かったようだ。
- 清潔。私にとって外国人と部屋をシェアできるのは良い機会だった。

4. 食事

優良 (18)、良 (2)、可 (0)、不可 (0)

- 驚き。素晴らしい食事。
- この一週間のとても素晴らしい食事には嬉しい驚きだった。
- 食事の種類も豊富さもサービスも素晴しかった。
- 良かったが、もしカレーがあれば私にはもっと楽しめました。
- 美味しかったし、沖縄の食べ物は私には興味深かった。

5. エクスカーション

優良 (10)、良 (4)、可 (1)、不可 (0)、未回答 (5)

- 参加しなかった。
- キャンパスサイトを短時間視察できるのも面白いだろう。
- 素晴しかった、水族館が気に入った。
- 瀬底研究所と美ら海水族館に行くことができ、とても嬉しかった。
- 良かったけれど、時間がとても短かったので、イルカショーが見られなかった。「ザンネンでした。(日本語)」
- 沖縄の生活を垣間見ることができ、良い機会だった。

6. 事務局

優良 (16)、良 (4)、可 (0)、不可 (0)

- いつもその日に何が予定されているかよく分かった。
- 「参考文献」が「良」だった。
- すべてがよく準備されていて何のトラブルもなかった。素晴らしい。
- 参考文献リストをもっと早くもらいたかった。
- スケジュールや観光地インフォメーション提供を親切に対応してもらい感謝している。

7. 旅行の手配

優良 (15)、良 (1)、可 (2)、不可 (0)、未回答 (2)

- 各 2 回の乗り換えがなければ良かったのに。旅程は往復とも 27 時間ずつかかった。でも全体的には良かった。
- 手配にも少し自由があるといい。沖縄にもう数日滞在したかった。1 日遅く出発するのに少し余分に料金がかかっても、多くの人は差額を支払っただろう。それでも、全ての旅程が負担してもらえたことは大変に感謝している。
- 迅速な手配だった。
- とてもよく手配されていたので、OIST シーサイドハウスまで何のトラブルもなく辿り着いた。
- OIST まで簡単に行けると感じる。

8. 沖縄の印象

優良 (14)、良 (5)、可 (1)、不可 (0)

- 沖縄を見て回る時間がほとんどなかった。
- 見事なところ。
- 快適な気候だった。
- 沖縄を訪れるのは初めてだったが、私は同じ天気・気候の国の出身なので、私には第二の故郷のように感じられた。
- とても良い気候だと感じた。
- 良いところ。自然が豊富。食事が美味しい。研究環境を整備するのは難しいかもしれないと感じる。

9. その他のご意見、ご提案

- 2~3 日間沖縄を観光するため滞在を延長するのに、フライトを自己負担しなければいけない、ということではなければ素晴らしいだろう。
- 旅費規程について全般コメント: 主催者側は会議の参加者に対して、会議の前後に自由に休暇を取れるようすべき。特に参加者が海外からの場合には、これは、欧米の研究者は日本人と比べて時間の価値観が決定的に異なるので、彼らを引き付けられるとても些細な条件の一つ。だから、会議の前日から参加して会議の最終日には出発しなければ経済的サポートを与えないというのは、私の意見では、海外からの訪問者に日本の科学や文化を紹介するに当たって全く非効率的な方法でしかない。
- 1つか 2つの午後セッションを夜のセッションとして移動すれば、シーサイドハウスの立地の利点を参加者が活かせる。夜の活動、ディスカッションはいつも良いものではあるが、数晩あると

同じだった。OISTの研究者も同様に口頭発表をさせては、OISTで現在進められている研究活動を知ることができるのは興味深いだろう。

- このコースに申し込んだとき、プログラムの詳細を見つけれなかった。だから、ワークショップの期間中に講師が講演をしないことが分からなかった。それが唯一残念な点。もし機会があれば、次回はコース全体に参加したい。
- 私は日本に住んでいるので、日曜の夜に出発できて丁度良かった。ただ、他の何名かの人達は（フライトを自己負担しなければ）日本にもう1日長く旅行で滞在することも出来ず、残念がっていた。欧米文化では研修・研究目的の出張と休暇を組み合わせるのはとても一般的。生徒・講師がここにいる間にもっと日本を発見できる機会を与えることをお勧めする。例えば何日間か長く自費で滞在しても、フライトは負担してあげれば、実現できる。
- スケジュールがかなり過密だった。個人的なレクリエーション活動ができるよう午後一回自由時間を取り入れては。例えば、那覇市や沖縄市へ行く、シュノーケリングやダイビング、文化遺産を訪問、おみやげを買う。
- 将来沖縄に住み、研究できる機会があれば、とても嬉しい。
- このロケーション、機構、サポート、食事は、これ以上良くしようがない。ただ一つ残念なのは、日本の旅費規程がとても厳しいことで、それゆえ旅費は唯一「可」としたが、それでOISTが責められるべきではない。空港からへの送迎サービスは素晴らしい。

2. 将来のコースについての提案

1. もし来年もこのようなコースが開催されたら、同僚に申し込みをするよう勧めますか？

- はい。(4)
- はい!!!
- はい、する。
- 必ず。
- 絶対!
- おそらく同僚に申込みを勧めるだろう。
- はい。たくさん学ぶことができ、周囲の環境は美しく、もてなしは比類ない。もしこのコースを知っていて、申し込まない方がいるというのは考えられない。
- はい、このコースに参加するよう強く勧めたい。
- 当然。もう既に他の人達に勧めた。
- はい。素晴らしい会議が開催される、訪問するのに素晴らしい場所だと伝える。
- はい。大規模な会議と重複しないようにしてほしい。
- もちろん、将来のキャリアに関する知識を豊かにする特別な何かを学べる、誰にも与えられた素晴らしいチャンスだから。
- 間違いなく！私が見たように、このコースは、発生物学者だけでなく、色々な分野の多くの生徒や研究者に適している。
- はい。このウィンターコースは、よく構築されたトピックの講義を聴き、外国研究者と交流できる、貴重な機会だ。
- もちろん、勧める。
- はい。このコースを勧める。
- はい、自分の同僚に勧めたい。

2. コースの長さ（6日間は長いですか、短いですか？）

- ちょうど良い。
- 適正。
- ラボコースがあれば素晴らしい。参加者によっては6日間で良いだろう。私の場合は、自分のラボを10日間以上不在には出来なかったと思う。
- ワークショップだけ参加した。丸2日間だったらもっと良いと思う。
- コースの内容にとっては、長さは良かった。
- ワークショップのみに参加したが、6日間は講義、ワークショップ、フリーディスカッションにとって良いと思う。
- 6日間は生徒達にとっては良かったが、ポスドクにとっては長過ぎたと思う。なので、長いかわいさを言うのは難しい。
- 少しだけ長過ぎたと思う。

- コースの長さは適当だと思う。
- 内容面で長さは適正だったと思うが、私の前述コメントも見てほしい。
- 短い。最低でももう1週間は延長すべき。
- 6日間はとても短い。もっと学びたい生徒にとってはもっと時間があるほうが良い。
- たぶん一日多かった。
- 私の印象では、この講義の量に対して、コースの長さはちょうど良かった。
- ちょうど良い長さだった。
- 6日間は適当だと思った。
- 6日間はぴったりだと思う。
- ノーコメント。

3. 招聘講師（生徒）とは十分に交流が持てましたか？

- はい。(4)
- 参加者間には確かに力強い交流があり、講師と交流する機会も十分にあった。
- 講師はワークショップ期間中は不在だったので、生徒と講師の交流はほとんどなかった。
- はい、十分な時間があつたので、他のラボで講師や生徒とよく議論した。それが一番良いことだった。
- たぶん。
- はい。マイク・レヴィン先生の“ホット・ボックス”が気に入った。会議室がもう少し大きくなかったのが残念。
- はい、十分だったし、雰囲気は本当に良かった。
- はい、食事を一緒に取れるのがとても良かった。おかげで、もっと話を聞きたい時はいつでも講師に近づくことができた。
- はい。私は英語が流暢でないで、講師の話についていくのが少し難しい。
- はい、とても良い交流が持て、ためになった。
- 海外からの偉大な教授陣は常に一緒に行動して、日本の若い生徒達と交流を図ろうとしていなかったように私には思えた。でも、これは彼らだけの責任ではないかもしれない。
- はい、お互いに接触するのに最低限の十分な時間はあった。
- これは最も重要な質問だと思う。英語を母国語とする講演者はもっとゆっくりと話し、教えるべき。
- はい、規模は最適だった。
- はい。講師に質問し、話す機会は十分にあった。食事中や他の空いた時間など、皆がシーサイドハウス周辺にいて対応してくれたので。特に長時間のディスカッションはとても良かった。
- 講師と生徒は丁寧に話してくれた。それが良い点だった。貴重な時間を過ごすことができた。
- 私は普段は英語を使わないので、私にとって良い機会だった。海外の生徒達と積極的に話すよう頑張った。

4. 今後取り上げるテーマや招聘講師の提案

- トピックは良い。エイリオン・ファーロングのゲノミクスや、ハマダ・ヒロシのマウス早期胎生学も、もう少し取り入れても良いかも。
- ほ乳類の発達はおそらく十分に説明されていなかった。
- 小進化やスペシエーションを研究している方も候補だと思う。例えば、洞窟魚、カプトガニ、シクリッド魚を研究している方も良いと思う。
- システム生物学—小進化、プラント、エンコード・プロジェクトからの人々を招待してはどうか。
- 統合進化生物学（分子進化、古生物学、発生物学などの統合）
- このコースは「ウッズ・ホール胎生学コース」のようなもの発展すると聞いた。胎生学コースの部分をいくつか顕微鏡で視ることができれば良いのだが。次回講師の推薦：マーク・マーティンデル。
- 講師を何名かお勧めしたい。
マックス・J・テルフォード先生（ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ）
ショーン・B・キャロル教授（ウィスコンシン大学）
ニール・シュービン教授（シカゴ大学）
- 生物情報学？
- RNA生物学（ハルヒコ&ミキコ・シオミ、アレックス・シーア、ロナルド・ブラスターク等々）
- 環境生物学
- 将来的には、この講義シリーズは（もし多細胞性が「複合システム」の狭義の定義でなければ）真正後生動物よりもっと基礎分類学を含むよう拡大してもよいのでは。推薦したい講師は、ニコ

- ・ ル・キング。また、複合性は、単一生物から、宿主と共生生物（共生的、片利共生的、寄生性）を含んだ多重種体系のディスカッションまで、広げてよいかも。
- ・ 何名かの講師は、自分たちの研究や研究成果の発表ばかりでなく、もう少し進化のトピックに的を絞って講義をするべき。
- ・ 生物科学研究に関連する最新の情報を含んだ、新しい科学のトピックなら何でも。
- ・ （特に生徒に役立つような）生物系の研究のための新しい方法論
- ・ 進化発生学は良い。進化と発生の関連知識を考えるのは重要だと思う。だから、研究者が彼らの研究と見直しについて、最低でも二局面から、例えば発生と変形メトリクスから、講義をするのは興味深いと思う。

3. OISTについて

1. OIST をどのように知りましたか？

- ・ インターネットで見つけた。
- ・ 大学に貼ってあったポスターで。
- ・ OIST のプロジェクトについて最初に知ったのは、私が東京大学で院生だった時に、東京大学のアライ・シンイチ教授からだった。それから OIST の進捗やイベントをチェックしていた。
- ・ OIST で開催された他のミーティングに参加した友人から聞いた。
- ・ 佐藤先生を知る私の機関の誰かが、このコースを宣伝していた。
- ・ ウェブサイトで。
- ・ OIST について佐藤先生が教えてくれた。
- ・ 日本動物学会からの e-mail で。
- ・ 同僚が教えてくれた。
- ・ 主催者からの招待。
- ・ 私のアドバイザーから。
- ・ 佐藤ユニットの方と連絡を取っていたので。
- ・ 友人を通して。
- ・ インターネットと友達から。
- ・ OIST についてマイク・レヴィンから聞いた。
- ・ OIST について佐藤先生以前の生徒から教えてもらった。
- ・ 新聞のレポートから知った。
- ・ シニアリサーチャーから聞いた。
- ・ 自分が OIST スタッフ。

2. OIST の印象

- ・ 素晴らしいところ。いつでも戻ってきたい。
- ・ 第一印象が良いが、建物とラボの建設が完成し、どのように事業が進むかを見るのを待ちたい。
- ・ 類い希な教授陣のリーダーシップに支えられ、最先端の施設が計画され、国際的視野があり、独特で美しい環境。
- ・ 傑出した研究環境。
- ・ 大変恵まれている機構のように見える。
- ・ とてもプロフェッショナルで、熱心で、大望のある、一見したところ十分な資金力のある機構。
- ・ 生物多様性と海洋生物の研究をするには最高の立地と思われる。
- ・ 素晴らしい！完璧な機構！
- ・ 大きくて素敵な機構！
- ・ 極めて優れた機構になると思う。
- ・ 期待していたより遙かに素晴らしかった。施設は良く、事務局はプロフェッショナル。
- ・ OIST は良い設備を持っていると思う。
- ・ 将来の展望に感嘆し魅了されている。
- ・ 良い。
- ・ 最新の機器があり、研究にはとても良いと思う。
- ・ 研究施設を実際には見なかったが、私が出た教授陣は素晴らしかった。
- ・ 全般的に見れば、この機構は研究、コースやワークショップをするにはとても良いところと思われる。研究グループとトピックの幅広さには感銘しているし、新しいキャンパスが出来れば機構全体は更に改善され、可能性を拡大していくと思われる。

- ・ OIST は研究するのに大変快適なところ。
- ・ 良いところ。次の機会には研究施設が見学できれば良い。

3. OIST への求人応募を検討しますか？

- ・ はい。(4)
- ・ いいえ。
- ・ はい、もちろん。
- ・ 必ず。
- ・ もし貴機構が科学の観点から本当に魅力的であれば、可能性はある。
- ・ 基礎生物学に絞って研究できるなら、OIST のポジションに応募したい。
- ・ たぶん今から数年以内に。
- ・ もし機会があればポジションに応募するだろう。
- ・ はい、応募について考えている。
- ・ はい、もし私の配偶者にもポジションを用意してくれるなら。
- ・ はい、おそらくインターンシップで。
- ・ もし OIST で研究する機会が得られれば、私の研究キャリアを高めてくれる素晴らしい機会となるだろう。
- ・ いいえ、今のサンディエゴで十分過ぎるほど満足している。
- ・ 私の必要条件が全て叶うなら絶対に応募したい！
- ・ 将来 PhD を取得したら OIST のポジションに応募したい。
- ・ 良い。OIST はゲノム計画で進捗しており、興味深い。

4. もし応募する場合、沖縄に移る、または移らない、もっとも重要な要因は何ですか？

- ・ ラボスペースや高性能機器が重要な要因になる。相当離れた島ではあるが、良い生徒達を引き付ける力と、日本の科学コミュニティとの強い連携。
- ・ 沖縄は孤立しているようなので、最も重要な点は、日本や海外でなされた研究との交流の強さ。これは例えば、毎週セミナーを実施してくれる外部訪問者の存在や、日本の本島での会議に容易に参加できること。
- ・ 沖縄での生活コストと水準 VS 給与
- ・ 研究環境。例えば、施設、研究費、近接する研究分野の研究者としかに交流がとれるか、等々。
- ・ 日本のアメリカ軍。
- ・ 日本・沖縄文化が西洋人に馴染みがない点。日本は家族や故郷から遠く離れている点。どちらの問題点とも、日本のどの機関にも当てはまることだろう。
- ・ 他の日本人科学者と、(新しい技術に関連する)情報を共有し、頻りに科学的コミュニケーションを保つ点が、問題になるだろう。
- ・ 家族組織
- ・ 適切なポジションにつけるかどうか。
- ・ OIST は科学的視点ではとても魅力的だと思うが、別件で沖縄に移る予定がある。私にとって最大の問題点は、孤立、つまり都会の生活から離れていること。
- ・ 学齢期の子供達がいる。日本の本島の都市部と同等の質の教育を受けさせられるかが心配。
- ・ 特になし。
- ・ ポスドクや研究者としてなら。若手研究員として自分の研究を実施するに当たって、自身の個性とシニアスタッフからのインスピレーション・専門知識との間で、良いバランスを取れるか。
- 1. 私の計画提案に対して、研究資金や関心(すなわち機構内のアドバイスやサポート)は満足できるものか。
- 2. 給与と福利は、私と妻が生活を維持できる妥当性があるか。
- ・ 私には当てはまらない。
- ・ 第一に、私の家族が住んでいるところから離れていること、第二に、この言葉の壁があること。日常生活をしていくには日本語を勉強しなくてはならないだろう。だが、この運営陣は日本語を話さない人達への対応も準備ができており、それはとても助けになるだろうと思う。
- ・ 引越越えを考えるとできないが、一般的に言って、沖縄は日本の東京、大阪等の大都市から離れているのが一つの理由。
- ・ 研究の環境。
- ・ 前述のとおり(「今のサンディエゴで十分過ぎるほど満足している。」)

5. OIST のプロジェクトに関して他の意見やリクエストは？

- ・ 独立研究者のポジションをどうかもっと作ってほしい。

- ・ このコースはとても良かった。生徒同士でディスカッションをする時間も十分にあったし、夜のディスカッションでは皆さん自分たちの研究分野について良く説明できていた。もしかしたら JSPS の短期助成プログラムで私たちのラボに来てもらえるかもしれない!
- ・ OIST はもっと情報開示を活動的にするべき。
- ・ OIST は持っている可能性をもっと宣伝すべきで、そしてより良い給料形態をよい日本の科学者達に向けて提示するべき。
- ・ とても良い CV があればポスドクの経験がなくても調査員のポジション申請を受け付けてもらえるだろうか?
- ・ OIST プロジェクトの多大なる成功を祈っている。世界でも高い水準の研究施設になることを祈っている。
- ・ OIST のホームページから既に沢山の情報が得られている。
- ・ ホームページにある OIST プロジェクトはユニークで興味深い。このプロジェクトが前進・発達することを願っている。

4. 全体的なコメント&提案

- ・ OIST に来て本当に楽しかったし、素晴らしい時間を過ごせた。私の期待を遙かに上回っていた。招待してくれてどうもありがとう。
- ・ このコースは本当に素晴らしかった。生徒の間でも、ディスカッションには十分な時間を持てた。夜のディスカッションでは皆、自分の研究分野を詳細に説明できた。成果として、今年は JSPS の短期奨学金を利用して私たちのラボに短期プロジェクトで来る生徒がいるかもしれない!
- ・ 大変良く出来ていた。参加する機会を与えてくれてありがとう!
- ・ この会議に参加する機会を与えてくれた主催者に本当に感謝する。様々なラボからの大勢の方々と十分に話し合う時間が取れた。このような素晴らしい会が今後も続くことを願っている。OIST をもっと世の中に知ってもらうには良い方法だと思う。
- ・ もし同じようなコースが来年も公表されたら、申し込みたい。貴機構の世界規模の研究環境を目指しているポリシーに大変興味がある。貴施設はこのポリシーを達成するのにふさわしいが、情報公開が不十分だ。こちらの企画にいつか参加したいと願っている。
- ・ 周囲の美しい環境の中で、素晴らしく、また、よく計画されたコース。OIST と沖縄を訪れるこの機会を得られ、とても嬉しいし、また、OIST と沖縄の両方に大変良い印象を持っている。
- ・ トップの科学者達の講義を聴くすばらしい機会だった。OIST の PI による講義も、もっと聴きたい。
- ・ これはコースだったけれども、同時にもう少し沖縄を満喫する価値があると思う。何名かの生徒達は遙か遠方から旅してきており、彼らがここに來られる唯一の機会かもしれない。だからもう一つツアーを計画することを勧めたい。おそらく、沖縄の文化に焦点を合わせたツアー。貴機構はいくつかの重要な場所からとても離れており、自力で行くのは難しい。それ以外では、コースはとてもよく計画されていたと思う。
- ・ 沖縄の OIST で素晴らしい一週間を過ごした (2008 年 12 月 7 日~14 日)。世界でも有名な生物学者数名と会い、私の知識を豊かにすることができた。ウィンターコースの主催者、共催者、全ての関係者に、特にこのような大成功のコースとワークショップを準備した佐藤矩行先生と彼のラボ (マリングノミックスユニット) スタッフ全員に感謝したい。将来またいつかどこかで会えたら嬉しい。
- ・ コースとそれに続くワークショップとに分けた構造はとても良い。おかげで生徒は自分達の研究の印象も与えることができた。新キャンパスが出来上がればすぐに、実用的な部分も強化されるだろう。実用的部分を伴う理論的な講義は、この部分を丸一日に拡大しても良い。だからもう一日で 3 講義だろうか。でも私の意見では、そのための時間は十分にあった。このコースは進化発生生物学の基本原則と現在の論議と功績について、この分野の主要研究者から学ぶ素晴らしい機会だ。
- ・ このスクールとワークショップで素晴らしい体験をした。この機会に招いてくれたことを感謝する。
- ・ これは私にとって英語でコミュニケーションを取り、外国の生徒達と交流する良い機会だ。講義も良い。教授陣は背景から先端研究まで話してくれ、質問にも十分に答えてくれた。今度は OIST のラボを見学できると良いと思う。

Blueprint of the New Graduate University

新大学院大学の青写真

July 30, 2008

The Board of Governors

The Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation

独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構 運営委員会

新大学院大学の青写真(仮訳)

運営委員会は、大学院大学の将来に関する主な事項(青写真)について検討を行った。運営委員の合意を得たものについては、以下のとおり要約できる。

【総論的事項】

- ・ 制度的事項については、所要の法律に盛り込まれるものも含まれる。他方、特に教
学的事項については基本的に法律には盛り込まれない。

【制度的事項】

1. 大学院大学の目的
 - ・ 世界最高水準の科学技術に関する研究及び教育を実施することにより、沖縄の自
立的発展と、世界の科学技術及び経済社会の向上に寄与すること。これらの目的
は以下の理念に基づくものである。

世界最高水準 (Best in the World)
柔軟性 (Flexible)
国際性 (International)
世界的連携 (Global Networking)
産学連携 (Collaboration with Industry)

大学院大学の設立に当たっては、これらの目的を尊重する必要がある。

2. 大学院大学の名称
 - ・ 英語の名称については、現在と同じ名称 (Okinawa Institute of Science and
Technology (OIST)) とし、副称 (International Graduate University) を検討する。
3. 大学院大学の設置形態
 - ・ 大学院大学の法的な位置づけについては、大学院大学の自主性と運営の柔軟性
を尊重する観点から、「特別な学校法人」により設置される新たな形態の大学とす
る。
4. 法人の管理組織
 - ・ 大学院大学の監督主体として、ボード(理事会)が最高意思決定機関としての役割
を担う。
 - ・ 理事会の役割と最高執行責任者 (CEO) であるプレジデント (理事長・学長) の役割
は明確に区別される。理事会は、プレジデント (理事長・学長) の選任・解任及び寄
附行為の変更を含む重要事項の決定を行う。
5. 国の支援と関与
 - ・ 本大学院大学が、沖縄の振興と世界の科学の発展に寄与する世界最高水準の大
学院大学となるためには、長期にわたる政府による高水準の財政支援が不可欠で
あり、特別の財政支援の仕組みの検討を要請する。

- ・ 運営委員会は、国の特別の財政支援に伴い、税金の効率的・効果的な使用について説明責任・透明性の確保の仕組みが必要であることを了解する。
- ・ なお、政府における具体的検討においては、大学の自立性・柔軟性や学問の自由を損なわないよう留意することを求める。

6. 新法人の設立

- ・ 新法人の円滑な設立のため、大臣が設立委員を任命する。沖縄機構と新法人の継続性の観点から、運営委員を実質的に設立委員とする必要がある。

7. プレジデントの選考

- ・ 大学院大学のプレジデント(理事長・学長)の候補者の選考を直ちに開始する必要がある。
- ・ プレジデントは国際的な学術コミュニティから選ばれる必要がある。

【教学的事項】

8. 教育研究活動

- ・ 大学院大学の教育研究活動は、生命科学、物質科学、応用科学を含む学際的で先端的なものとする。

9. 教育研究組織

- ・ 約50PIs規模での設置認可・開学が前提とされていることを踏まえ、1研究科と4程度の専攻とすることが考えられる。
- ・ 長期的には300PIs程度を理想形とし、その際の研究科や専攻について将来検討される必要がある。
- ・ 教員のテニュア(終身在職権)と定年については、引き続き検討する。

10. 教育課程

- ・ 博士課程
- ・ 学位はPh.D(博士)
- ・ 教育課程編成の基本方針、修了単位数、授業科目の概要等は引き続き検討する。

11. 学生募集

- ・ 国際的な入学時期を勘案し、入学は4月と9月の年2回可能とする。ただし、入学者の審査・選抜については、学生の質の均一性を維持するため、各受験生共通の手続きにより年1回行われるべきである。

12. 他の研究機関との連携

- ・ 他の機関との連携の具体的あり方について引き続き検討する。

13. その他

- ・ 公用語は英語とする。
- ・ 教員と学生の少なくとも半数を外国人とすることを目指す。

開学までに必要となる手続き

※運営委員会としては、学生の実質受入れを、2010年9月から開始することが必要と考える。

大学院大学の青写真の検討；制度的事項および教学的事項

↓

次期中期目標 (2009年度～2011年度)

次期中期計画 (2009年度～2011年度)

内閣における法案の準備

国会における審議

↓

設立委員の任命、学校法人の設立準備

- ・ 学校法人の寄附行為
- ・ 大学の名称・目的
- ・ 研究科・専攻の名称
- ・ 教育課程の概要
- ・ ボードメンバー(理事)の選任
- ・ 理事長・学長、副学長、研究科長等の氏名
- ・ 教員名簿

↓

学校法人の設立認可・大学院大学の設置認可申請(毎年3月)

↓

大学設置・学校法人審議会における審査(約7ヶ月)

↓

文部科学大臣による認可(毎年10月)

↓

開学準備(第1回理事会の開催、学生の募集等)

↓

大学院大学開学

最低1年

検討すべき事項

- ・ 大学院大学の青写真の一部は、2009年度から始まる次期中期目標・中期計画に盛り込まれる。
- ・ 国際的評価を短期間に確立することは困難であり、長期間の政府の支援が必要であるが、特別の財政措置の仕組みの検討に当たっては、国際的評価の確立状況を考慮する必要がある。
- ・ 自立的運営に向け、競争的資金を含めた外部資金の充実のための努力が必要である。
- ・ 説明責任・透明性の確保の仕組みについては、以下の観点がある。
 - * 私学補助に係る憲法上の「公の支配」の要請
 - * 補助金の適切な執行(事業計画・成果の審査、報告徴収、是正措置、財務諸表の公開、外部監査、監事の任命等)
 - * 沖縄振興や科学技術振興の政策目的の観点からの政策対話の仕組み(連絡協議会等)
- ・ 設立委員には運営委員以外の者が含まれることも想定される。
- ・ 機構から新法人への業務、財産、職員等の承継方法を法律に規定する。
- ・ 各時期の実際の規模については、採用活動の状況、競争的研究資金の獲得を含めた国際的評価の状況を踏まえて検討される必要がある。
- ・ 相互の利益に資する分野において琉球大学との協力を促進する必要がある。

<添付資料#12-2>

The Activities of outline of the Graduate University
Preparation Group in FY2008

平成20年度大学院大学設置準備グループの活動概要

(As of the end of March 2009)

平成21年3月現在

- Five meetings--May 8, Sep 30, Dec 2, Jan 27, and Mar 24
(5月8日、9月30日、12月2日、1月27日、3月24日の計5回開催)
- Discussion issues (検討事項)
 - ✓ Basic structure of the Graduate University
(大学院大学の基本的な姿)
 - ✓ Survey of non-Japanese Graduate Universities
(海外の大学院大学についての調査)
 - ✓ Survey of graduate S&T programs
(科学技術大学院プログラムに関する調査)
 - ✓ Next steps in implementing graduate program
(大学院プログラムの実施)
 - ✓ Preparations for accepting graduate students at OIST in 2010
(平成22年に機構に学生を受入れるための準備)
 - ✓ Future tasks for Graduate Committees
(大学院コミッティの今後の業務)
 - ✓ Future tasks for Graduate University Preparation Group
(大学院大学設置準備グループの今後の業務)
 - ✓ Deliberations on the following items
(下記の事項に関する審議)
 1. By-laws and University rules
寄附行為と学則
 2. The number of officers (Vice President (s), etc) and job description of those officers
役員(副学長等)の数及びそれらの業務
 3. Types of *Kenkuka* (graduate school(s) and *Senko* (major(s)))
研究科の種類(研究科と専攻)
 4. Admission capacity/ Enrollment capacity
入学定員/収容定員
 5. Tuition and stipend
授業料及び奨学金
 6. * Important issues related to accreditation
認可に関する重要事項
 - ✓ Time schedule of Graduate Committees' activities in FY 2009
(大学院コミッティの活動スケジュール)

OIST Graduate Committees (大学院コミッティ)

PI Name (代表研究者氏名)	Neuroscience (神経科学)	Molecular Sciences (分子科学)	Mathematical & Computational Sciences (数学・計算科学)
Arbuthnott	X		X
Brenner		X*	X
DeSchutter	X		X*
Doya	X*		X
Endo	X	X	
Masai	X	X	
Maruyama	X	X	
Miller			X
Naito	X		
Price		X	
Samatey		X*	
Satoh		X	
Sinclair			X
Stiefel	X		X
Takahashi	X		
Tonomura		X	
Tripp	X		
Wickens	X		X
Yanagida		X	
TOTAL	11	9	8

* Chair or Co-Chair

Survey of Universities and Graduate Schools

大学・大学院等に関する調査

< Objective 本調査の目的 >

The objective of this survey is to collect information concerning universities and graduate schools in order to contribute to the preparative work for the establishment of the Graduate University by Okinawa Institute of Science and Technology (hereafter OIST).

本調査は、大学及び大学院等に関する情報を収集し、独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構（以下、機構と称す）における大学院大学の設立準備に資することを目的とする。

< Survey items 本調査の内容 >

- Education and research fields
教育・研究分野
- Organization structure, regulations, bylaws, etc.
組織体制、各種規定等
- Personnel system for faculty and researchers
教員、研究者の人事制度
- Finance, including revenue / expenditure; remuneration structure of presidents, other officers, professor, and researchers; and student support.
財務（収入・支出を含む）、報酬制度（学長、大学役員、教員及び研究者、各種給付金、手当を含む）、学生支援制度

The information was collected preliminarily from each institution's websites and other sources, followed by the on-site interviews with appropriate officers / staff of each institution.

調査にあたっては、各種情報をそれぞれの調査機関のウェブサイト等より収集した。予備調査を行った上で、対象機関の担当者にはアヒリング調査を実施した。

< Target universities 対象機関 >

- *Massachusetts Institute of Technology (MIT)* マサチューセッツ工科大学
- *California Institute of Technology (Caltech)* カリフォルニア工科大学
- *Stanford University* スタンフォード大学
- *University of Cambridge* ケンブリッジ大学
- *University of Tokyo* 東京大学大学院新領域創成科学研究科
- *Tokyo Institute of Technology* 東京工業大学大学院理工学研究科
- *Keio University* 慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻

Table of Contents 目次

1. Introduction 序
 - 1.1 Objective 本調査の目的
 - 1.2 Survey items 本調査の内容
 - 1.3 Target universities and graduate programs 調査対象大学・大学院プログラム
2. Education and research fields 教育・研究分野
 - 2.1 Outline of the target universities and graduate programs 調査対象大学・大学院プログラムの概要
 - 2.2 Graduate programs 大学院プログラム
 - 2.2.1.1 Degree conferment 学位授与
 - 2.2.1.2 Admissions 入学
 - 2.2.1.3 Master's programs 修士課程
 - 2.2.1.4 Doctoral programs 博士後期（後期博士）課程
 - 2.3 Evaluation of education and research activities 教育・研究活動評価
3. Organization Structures; regulations, bylaws, etc. 組織体制・各種規定等
 - 3.1 Organization structures 組織体制
 - 3.1.1 Number of members involved 人数構成
 - 3.2 Regulations, bylaws, etc. 規則・規程など
4. Personnel system for faculty and researchers 教員・研究者の人事制度
 - 4.1 Legislation and practices affecting personnel system 人事制度についての法令
 - 4.2 Personnel system for faculty members 教員の人事制度
 - 4.3 Personnel system for researchers 研究者の人事制度
 - 4.4 Personnel system for administrative staff 職員の人事制度
5. Finance, remuneration structure, student support 財務、報酬制度、学生支援
 - 5.1 Finance 財務
 - 5.1.1 Revenue 収入
 - 5.1.2 Expenditure 支出
 - 5.2 Remuneration system, including benefits and welfare 報酬制度（手当、福利厚生含）
 - 5.2.1 summary まとめ
 - 5.2.1.1 Compensation 給与
 - 5.2.1.2 Benefits and welfare 福利厚生・手当
 - 5.3 Student Support 学生支援
 - 5.3.1 Financial Support 経済支援
 - 5.3.2 Other Support その他の支援

<添付資料 #12-4>

大学院大学開学に関する追加資料

1. 調査対象とした大学等のリスト（19年度、20年度、21年度（予定を含む））

【平成19年度】

前中期計画において大学院大学の良きモデルとして掲げた4機関を含む、設立当初は研究のみを実施しその後大学院としての地位を獲得した以下の8機関

ロックフェラー大学
スクリプス研究所
コールド・スプリング・ハーバー研究所
ウッズ・ホール海洋生物学研究所
ソーク研究所
ジェネリア・ファーム研究所
ヨーロッパ分子生物学研究所
MRC分子生物学研究所

【平成20年度】

国内を含め、学部を持つ世界最高水準の名声のある科学技術系の伝統的な以下の7機関

マサチューセッツ工科大学
カリフォルニア工科大学
スタンフォード大学
ケンブリッジ大学
東京大学大学院新領域創成科学研究科
東京工業大学大学院理工学研究科
慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻

【平成21年度（予定を含む）】

シンガポールでは平成19年にA-STAR大学院及びシンガポール国立大学、平成20年にナンヤン工科大学を訪問した。これらの機関のうち一つと平成22年に向けて連携大学院協定を締結すべく交渉を続けているところ。香港では平成20年に香港科学技術大学を訪問した。連携協定の推進についてより深い議論が計画されている。平成20年には台湾国家科学委員会と韓国デジューンのソルブリッジ国際大学から科学政策に関わる職員の訪問を受け入れ、連携協定の推進について可能性を探った。これらの機関との関係を構築することにより、優秀な教授陣や学生の採用、奨学金、報酬及びアジアの大学院教育プログラムについての情報を収集する機会を作ることができた。今年度中は、引き続き、ベンチマーキングの対象として、アメリカ、ヨーロッパのみならず、アジアの大学を含め機構のスタッフが訪問調査を実施する予定。

2. これまでの調査結果から得られたインプリケーション（大学院大学の開学に向けて何を読み取ったか）

これまでの調査結果から得られるテニユア、給与、手当、定年、業績評価のための服務内容を含む教員及び事務職員の任用の仕組みや、新大学院大学の教育課程等についてのインプリケーションについては、これまでの調査結果を整理した要約情報、要約データ、表などの背景資料を用いて、10月の機構運営委員会で吟味する予定。過去の調査結果から得られたいくつかのインプリケーション、サマリーは以下のとおり。

【大学院プログラム】

調査対象とした全大学に博士課程が設置されている。そのうちMITのCSBi、Caltech 応用物理、博士号を取得することを目指す学生しか受け入れていない。これらのプログラムでは博士課程の学修課程で要件を満たせば修士号の修得も可能となっている。ケンブリッジ大学のDepartment of Physicsには、Master of Philosophyの課程は設置されているが、受入学生数は限定的である。また、同Departmentでは、論文の質および独創性において博士号に求められる水準には達しない場合等には、Master of Science²の学位が授与されることもある。それに対し、スタンフォード大学のBioengineeringと日本の大学には修士課程があり、学生はまず修士課程の修了要件を満たした後、正式に博士課程に進むこととなる。博士課程の標準年数はアメリカの大学で5年、ケンブリッジ大学では4年である。

【人数構成】

MIT、Caltech、スタンフォード大学では、大学院学生数が学部学生数を上回っている。大学全学レベルでの教員一人あたりの学生数（大学院生）は2.1人から2.9人である。国内と海外における1教員あたりの学生数は、全学レベルで比較すると海外は2~6人、国内は2~3人であり、海外（特にアメリカ）のほうが1教員あたりの人数が若干多めである。

【教員の人事制度】

米国における教員の職級は professor (full-professor)、associate professor、assistant professor となっている。テニユア（終身在職権）は一般に full-professor と一部の associate professor に与えられている。assistant professor はテニユア・トラック（将来テニユア獲得につながる可能性のある職位）の対象となる。テニユアを未獲得ではあるがテニユア・トラック上にいる教員は、テニユア・トラックの職位への就任後、通常7年以内にテニユアのポジションを取得しなければならない。通常、テニユア付きの職位への採用または昇任の際は、それ以外の職位に比べて特に厳しい条件のもとで評価されている。英国では、研究や教育に従事している職員を academic staff と称する。この academic staff には professor、reader、lecturer という職級がある。英国では、academic staff は定年年齢に達するまで在籍する権利を持つが、たとえ教員であっても余剰人員整理などで解雇される可能性があるという点では、米国のテニユア付き職位とは若干異なる。通常、日本の大学の常勤教員には定年制度が

適用され、本調査対象の各大学においても規程を定めて実施している（東京大学、東京工業大学では定年は65歳と規定している。慶應義塾大学では定年に関する規程は確認できなかった）。しかし、一部の部局では人材の流動性を向上させることを目的とし任期制を導入しつつある。英国ケンブリッジ大学では、米国で一般的に採用されているような Tenure 制度と全く同様のものはない。また定年は67歳としているが、Employment Equality (Age) Regulations2006 において、教員が雇用期限を延長できる権利を定めており、大学は教員から雇用の延長要望があった場合に考慮することとなっている。但し、大学側には必ずしも当該要望を受入れる義務はない。

【財務】

各大学における主な財源では、いずれの大学も補助金等による収入や資産関連収入が収入全体の大半を占めており、学生からの納付金（授業料、入学料等）の収入は収入全体の10%前後の大学が多い。

【給与】

米国3機関の学長の給与は約600,000ドル（社会保険等除く）である。ケンブリッジ大学の支給額は米国と比較して低くなっている（ただし、過去1年における英ポンドの大幅な下落の影響を受け、米ドルに換算した場合低めとなることも一因である）。学長クラスの給与を国内と海外で比較したところ、国内2大学は海外における学長クラスの給与よりもいずれも低い水準にあった。慶應義塾大学の学長の給与情報は非公開である。

国内と海外の教員の給与を比較すると、Professor、Associate Professor クラスの給与は国内2大学よりも海外3大学の給与水準が高いが、下位の職位の教員（海外：Instructor、国内：助教（Assistant Professor））の給与は国内が海外の教員給与水準を上回っている。

【学生の経済支援】

各大学の学生への経済支援制度は大きくわけて、(1)学費等免除制度、(2)奨学金（給付金）等支給制度、(3)RA/TA等の労働による給与、(4)旅費等研究助成となっている。海外と国内の経済支援制度を比較した場合、海外の大学では個別の研究機関で学生に対して支援を行っていることがあるが（CSBi, Applied Physics (Caltech), Bio-x (スタンフォード大学)、国内の大学でも寄附金による研究科独自の奨学金制度（慶應義塾大学大学院理工学研究科）はあるものの、個別の専攻やプログラム単位での奨学制度はない。奨学金等に関しては、特に海外大学で奨学金（給付金）による支援（フルサポート）制度が非常に充実しているのが特徴的である（CSBi (MIT) のPh.Dプログラムの学生については基本的に全ての学生が支援（フルサポート）の対象となっている）。

President Search Log 学長人選についてのこれまでの経緯(2009/08/10)

	English (英語)	Japanese (日本語)
2008/07	The 6 th BOG Meeting that discussed about "Blueprint of the New Graduate University", in that, governance and the role of President were stipulated.	第6回運営委員会において、ガバナンスや学長の役割について言及している「新大学院大学の青写真」について議論を行った。
2009/02	The 7 th BOG Meeting that discussed about the Medium Term Objective's attachment, in that governance and role of President were stipulated.	第7回運営委員会においてガバナンスや学長の役割について言及している中期目標別紙「沖縄科学技術大学院大学の開学時の姿」について議論を行った。
2009/03	Executive Search Firm determined with competitive bidding (Egon Zehnder International)	エグゼクティブサーチ会社の入札選定 (エゴンゼンダーインターナショナル)
FYI. (参考)		
2009/06	The BOG Working Group Meeting that discussed about: (1) Qualification of the president (2) Search procedure (3) Search committee member (Drs. Wiesel, Arima, Friedman, Lee were nominated and agreed to have representation of all continents concerned)	運営委員会ワーキンググループの開催と下記の議論及び決定がなされた。 (1) 学長の資質 (2) 人選プロセス (3) サーチコミッティ (すべての大陸をカバーするため、ウィーゼル博士、有馬博士、リー博士、フリードマン博士がコミッティメンバーに決定)
2009/08	Public announcement of the President search (See attachments) (1) OIST website (2) Press release (through CAO, MEXT, Okinawa Prefecture, and Foreign Press Club) (3) Major Journals (Nature and Science)	学長公募を開始し、下記を通して広報を行った。(別添参照) (1) OIST ウェブサイト (2) プレスリリース (内閣府/文科省/沖縄県の関連記者クラブ、外国人記者クラブを通じて) (3) 主要な科学雑誌掲載 (ネイチャー及びサイエンス)

公募 沖縄科学技術大学院大学 学長

背景: 沖縄科学技術大学院大学 (OIST: <http://www.oist.jp>) は、沖縄において国際的な科学技術に関する研究を行う新しい大学です。OISTは、科学技術振興のための国際レベルの大学院大学で、アジア太平洋地域における真のセンターオブエクセレンスを創設するとともに沖縄の持続可能な発展に寄与する事をその目的としています。そのため、世界的なネットワークや産業界との連携はOISTの重要な要素です。前身組織である沖縄科学技術研究基盤整備機構理事長であるシドニー・ブレナー博士とその運営委員のリーダーシップの下、大学キャンパスの一部を2010年初頭に供用開始する予定です。現在、既に21の研究ユニット(11名の外国人主任研究者ユニットと10名の日本人主任研究者ユニット)が組織されており、160名以上の研究者(50名は外国人研究者)が暫定的な研究施設で研究活動を行っています。2010年からは連携大学院協定により他大学の学生の受入れを開始します。今後2012年までに50研究ユニットの設立と大学院大学の認可を視野に更なる発展を目指します。設立当初の研究分野は、神経科学、分子科学、数学計算生物科学及び環境科学を予定していますが、研究の目的は生物学、化学、物理学、コンピューター・情報科学、数学、工学等の分野を統合する真に学際的な研究を推進することにあります。国際的な研究を推進するという目的に照らし、共通言語は英語で、教授、研究者及び学生の半数は外国籍の者で構成される予定です。当初は日本政府からの財政支援の下、研究活動を行います。独立した財政体制も徐々に確立してゆきます。大学キャンパスは沖縄西海岸に位置した恩納村の亜熱帯森林に囲まれた美しい海岸を見下ろす85ヘクタールの土地に建設され、所要のハウジングや近隣にはインターナショナルスクールも整備される予定です。

職務と役割:

1. 学長は5年間の常勤職で、更新可能です。
2. 学長は、OISTの理事会によって任命されます。理事会は大学の財務と役員員の任命責任を担います。学長と理事会の密接な協力体制は大学の成功に不可欠な要素です。
3. 学長はその職に2011年後期から2012年初頭に就任する事を想定しています。今回選ばれる学長候補は、それまでの間、設立委員のメンバーとして他のメンバーとともに2012年の開学のためのキャンパス整備、大学発展のための指揮、国際的な評価の高い研究者のリクルート活動等、世界最高水準の大学設立のために活動していただきます。
4. 学長は沖縄科学技術大学院大学運営の全責任を担い、大学役員及び幹部職員と密接に業務を遂行する事が求められます。具体的には、優秀な教授及び研究者の採用、大学の基本的な戦略の企画立案、研究活動、学術活動、財務活動の監督がその業務に含まれます。その他、他の大学や産業界との連携体制の確立、沖縄の地域社会との友好な協力体制の確立も業務となります。
5. 国際的な採用活動や資金調達のため、随時出張することが予想されます。そのような条件の中でも、OISTの日々の運営業務をこなす能力が求められます。

条件:

OIST学長には下記の資格が必要です。

1. 世界最高水準の教授や研究者の採用及び他の大学や研究機関との協力体制構築を可能とする優秀な学術上の功績を有すること。
2. 大学にとって可能な資源を有効かつ効率的に活用することができる大学運営及び教育に関する実績を有すること。
3. 国際的な環境での業務の経験を有すること。
4. 科学者、政府機関及び地域との友好関係の構築に必要なコミュニケーションスキルを有すること。
5. 年齢や国籍は問いません。

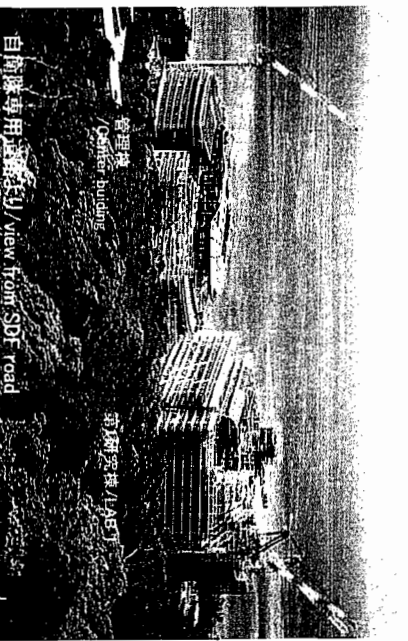
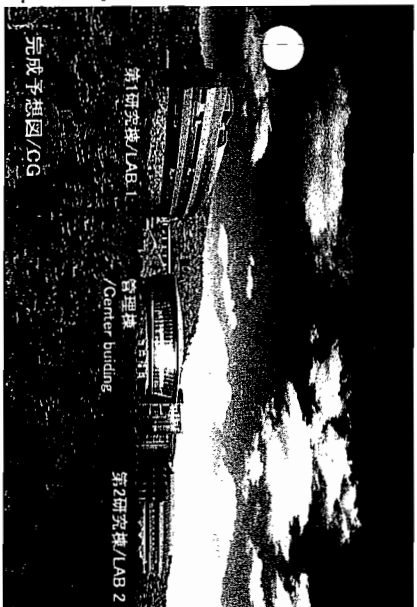
応募方法: (1) OIST サーチコミッティ宛のカバーレター、(2) 履歴書、(3) 自身の興味、研究成果、管理業務実績をまとめた文書、(4) 5名ほどの照会者連絡先を、oistpresidentsearch@oist.jpまでお送り下さい。郵送の場合は、〒904-0411沖縄県国頭郡恩納村字恩納7542、OIST President Search宛にお送り下さい。応募はその都度検討され、候補者が決まるまで応募の受付は続きます。

恩納村キャンパス施設整備状況(2009年3月) / OIST Onna campus progress March 2009



<添付資料#15-2>

ラボゾーン施設整備状況(2009年3月) / Lab zone construction progress March 2009



第2.3研究棟建設地より /view from LAB2&3 site

自衛隊専用道路(SJ) /view from SJF road

<添付資料#16>

フレカルティ宿舎利用状況

(1) 供用開始時期

A棟～D棟 20年12月1日
E棟～H棟 21年 5月1日

(2) 利用状況

1) 平成20年度

A棟～D棟 短期入居

	12月	1月	2月	3月
① 利用者数	5人	・	・	25人
② 利用目的	ワークショップ参加	・	・	ワークショップ参加
③ 利用回数	33日	・	・	85日
④ 利用料	12,700 円/泊	・	・	1人棟 9,000 円/泊 2人棟 6,300 円/泊 3人棟 5,400 円/泊
⑤ 稼働率	18.5%	0%	0%	30.6%

2) 平成21年度

A棟～C棟 長期入居 PI及U理事

	4月	5月	6月	7月
① 利用者数	1	1	1	1
② 利用目的	長期入居	長期入居	長期入居	長期入居
③ 利用回数	30日	31日	30日	31日
④ 利用料	200,000 円/月	200,000 円/月	200,000 円/月	200,000 円/月
⑤ 稼働率	100%	100%	100%	100%

D棟 長期入居 P I

	4月	5月	6月	7月
① 利用者数	0	2	2	2
② 利用目的	・	長期入居	長期入居	長期入居
③ 利用回数	0日	20日	30日	31日
④ 利用料	0円	129,032 円/月	200,000 円/月	200,000 円/月
⑤ 稼働率	0%	64.5%	100%	100%

E棟 長期入居 P I

	4月	5月	6月	7月
① 利用者数	-	2	2	2
② 利用目的	-	長期入居	長期入居	長期入居
③ 利用回数	-	16日	30日	31日
④ 利用料	-円	103,225円/月	200,000円/月	200,000円/月
⑤ 稼働率	-%	51.6%	100%	100%

F棟 短期入居

	4月	5月	6月	7月
① 利用者数	-	2	2	2
② 利用目的	-	赴任	ワークショップ参加	研究事業へのアドバイス
③ 利用回数	-日	9日	5日	4日
④ 利用料	-円	2人/棟 6,300円/泊	0円/日 (旅費宿泊費で相殺)	0円/日 (旅費宿泊費で相殺)

⑤ 稼働率	-%	29.0%	16.7%	13.3%
-------	----	-------	-------	-------

G棟 短期入居

	4月	5月	6月	7月
① 利用者数	-	0	0	0
② 利用目的	-	-	-	-
③ 利用回数	-日	0日	0日	0日
④ 利用料	-	-	-	-
⑤ 稼働率	-%	0%	0%	0%

H棟 短期入居

	4月	5月	6月	7月
① 利用者数	-	0	1	1
② 利用目的	-	-	研究参加	研究参加
③ 利用回数	-日	0日	16日	31日
④ 利用料	-	-	0円/日 (旅費宿泊費で相殺)	0円/日 (旅費宿泊費で相殺)
⑤ 稼働率	-%	0%	53.3%	100%

平成20年度 職員研修リスト

日程	研修プログラム	主催	参加者
2008/6/30	単品スライド条項の運用に関する説明会	国土交通省	2
2008/7/25	公共調達説明会	文部科学省	1
2008/7/25, 2008/8/29, 2008/9/26 2008/10/3, 2008/11/21 2008/12/19, 2009/1/23	労働法セミナー	株式会社 シー・イー・アイ	8
2008/9/18	平成21年度科学研究費補助金公募要領等説明会	文部科学省 日本学術振興会	4
2008/9/29	国立大学法人施設系セミナー	文科省	1
2008/10/2	公共工事と会計検査講習会	財団法人経済調査会	2
2008/10/13	DNAシーケンシング・マイクロアレイ実験法セミナー	アジレント(株)	10
2008/10/10-2009/1/30 (毎週金曜)	公開講座：企業の社会的責任・コンプライアンス応用	琉球大学	2
2008/10/14-2008/10/22	ロッシュ社FLX・DNAシーケンサー 操作トレーニング	OIST・DNAシーケンシングセンター / ロッシェ社	13
2008/10/23	独立行政法人等における内部統制構築に当たって	新日本有限責任監査法人	2
2008/11/17	知的財産権制度説明会 (実務者向け)	内閣府沖縄総合事務局	2
2008/11/21	高齢者雇用推進講習	(社) 沖縄雇用開発協会	2
2008/12/5	政府出資法人等の調達担当者を対象とした入札談合問題に関する研修会	OGB/内閣府沖縄総合事務局	2
2008/12/8-2009/3/24	日本語研修	日本語研修 異文化間コミュニケーションセンター	31
2008/12/10	知財セミナー	深見特許事務所	31
2008/12/10	独立行政法人等における内部統制システムの導入に向けて	新日本有限責任監査法人	1
2008/12/23-12/25	IBM ロ-双 ドミ システム マネジメント 1.2	IBM	2
2009/1/5-2009/3-31	内閣府本府行政実務研修	内閣府	1
2009/1/9, 2009/1/15, 2009/1/16 2009/2/2-2009/2/3, 2009/2/24	ファイルメーカー	ジュッポー	20
2009/1/20	情報公開、個人情報保護法	総務省	3

日程	研修プログラム	主催	参加者
2009/1/23	安全保障貿易管理 (外為法) 説明会	琉球大学産学官連携推進機構	2
2009/2/9-2/10	Leopard Help Desk	マイクロメイツ東京トレーニングセンター	3
2009/2/27	申請取次と出入国事務	(財) 入管協会	3
2009/3/4-3/6	IBM ロ-双 ドミ システム マネジメント 3	IBM	1
2009/3/6	グリーン購入法基本方針説明会	環境省	2
2009/3/9-2009/3/13	ロッシュ社FLX Titanium・DNAシーケンサー 操作トレーニング	OIST・DNAシーケンシングセンター/ロッシュ社	9
2009/3/10	平成20年度浄化槽設置者講習会	社団法人 沖縄県環境整備協会	1
2009/3/11	特別研究員募集等に関する説明会	日本学術振興会	1
2009/3/13	DNA断片化装置コバリスS2操作研修	OIST・DNAシーケンシングセンター/エムエス機器(株)	9
2009/3/17-2009/3/19	イルミナ社DNAシーケンサーGA-II 操作トレーニング	イルミナ(株)	15

研修合計： 30件

参加人数： 186名

<添付資料 #19-2>

新入職員オリエンテーションプログラム

目的： 機構の概要周知及び当機構の規程に準じた事務手続きを
習得することで、事務職・研究補助職業務を遂行していく

- ・対象者： 2007年1月～2008年4月以降採用された事務職員及び研究補助職員を対象とする
- ・開催日： 2008年4月1日、3日、11日、18日
2008年11月4日、5日
2008年12月24日、25日
- ・概要： OIST, P.C. 発足から大学院大学開学に向けての構想及び機構全体の
組織についてプレゼン形式の説明*
各部署の所属長より挨拶と部署の役割と機能についての説明
各部署の担当者より実務に関する説明
施設案内、キャンパスツアー、ラボ見学
研究者によるラボに関する説明
- ・受講者数： 8名

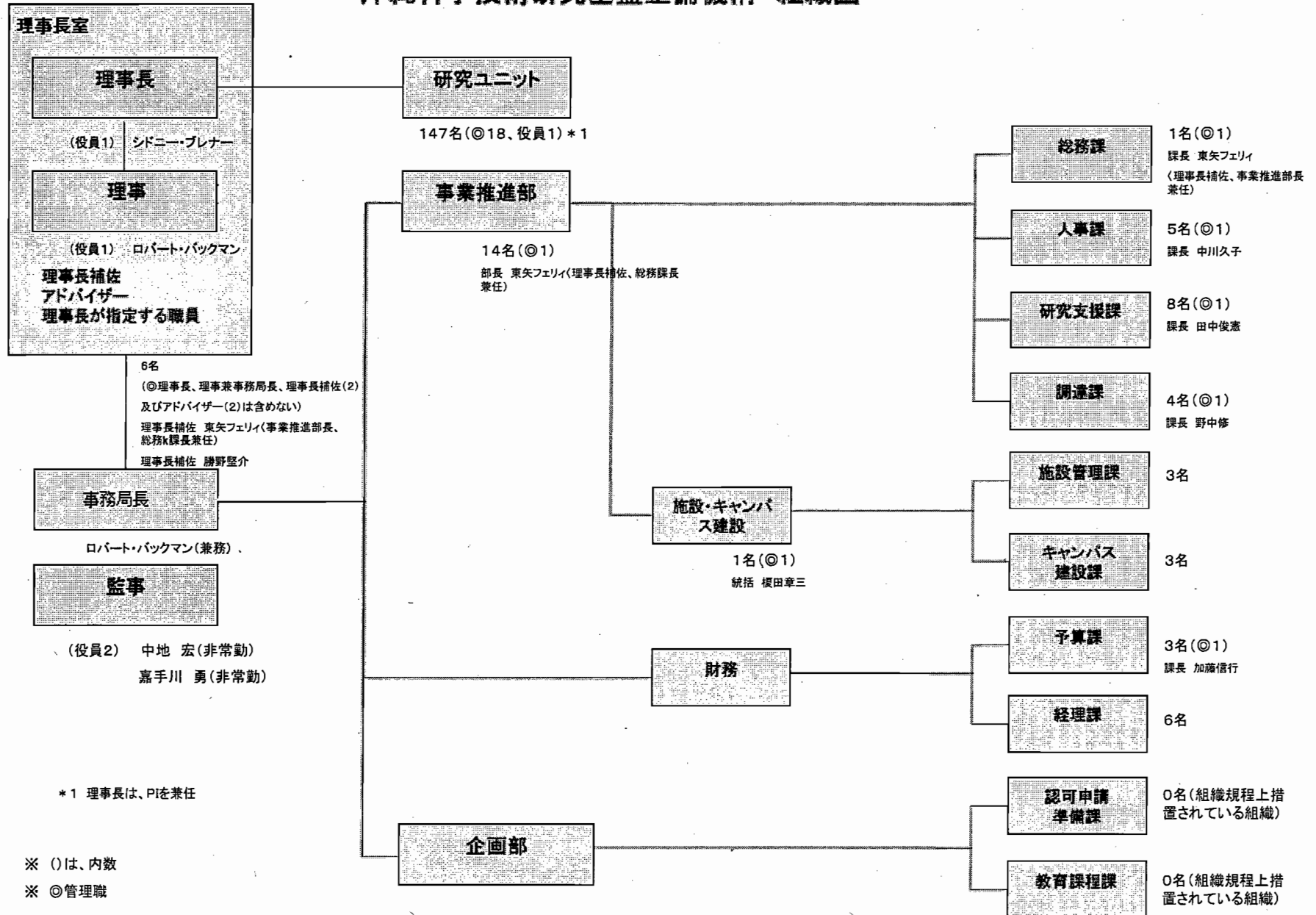
<スケジュール>

		担当	場所
1日目			
9:00	集合		SH
9:05	機構概要・説明	事業推進部長	
10:10	ワークショップ及びセミナーに関して	ワークショップ担当	
11:15	調達課	調達課長	
13:20	人事課 人事手続き等、 個人情報取扱いについて	人事課担当者	
14:00	施設グループ キャンパス建設について	施設グループ担当者	
2日目			
9:30	人事課：勤怠システム管理	人事課 担当者	
10:40	サイエンティフィック・ コンピューティング	IT 担当者	
3日目			
10:00	コミュニティ・リレーションズ	コミュニティ・リレー ションズ 担当	
11:10	大学院大学設置準備に関して	担当者	

4日目			
10:30	人事課 旅費システム管理	人事課 担当者	
11:00	事業推進部 購入依頼システム管理	担当者	
13:00	研究支援課 ラボ視察	研究支援課 担当者	
5日目			
10:00	総務課 文書管理について	担当者	
13:00	予算課	予算課 担当者	
6日目			
13:00	経理課	経理課 担当者	

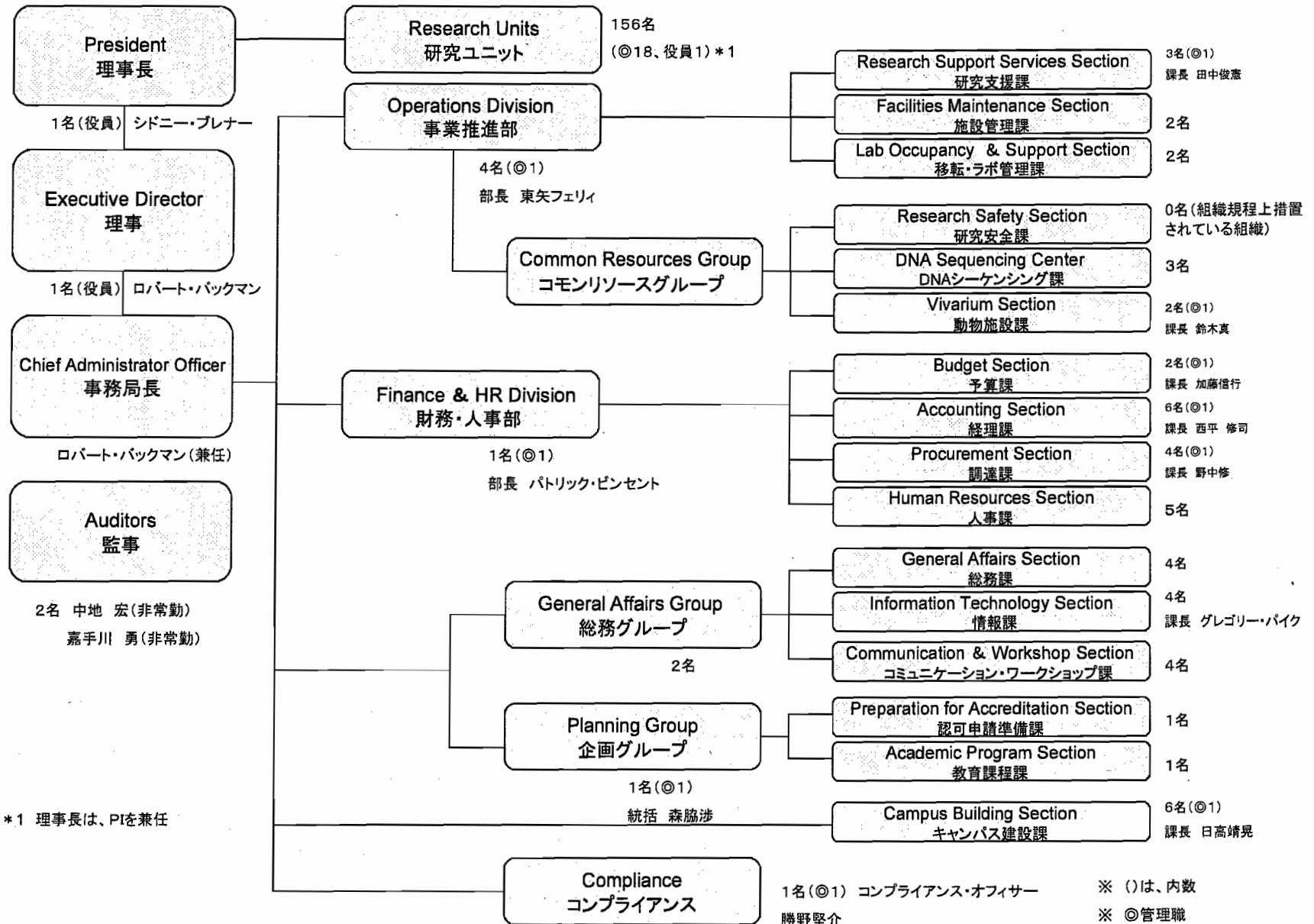
独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構 組織図

平成20年4月1日



OIST Organization Chart OIST 組織図

April 1, 2009



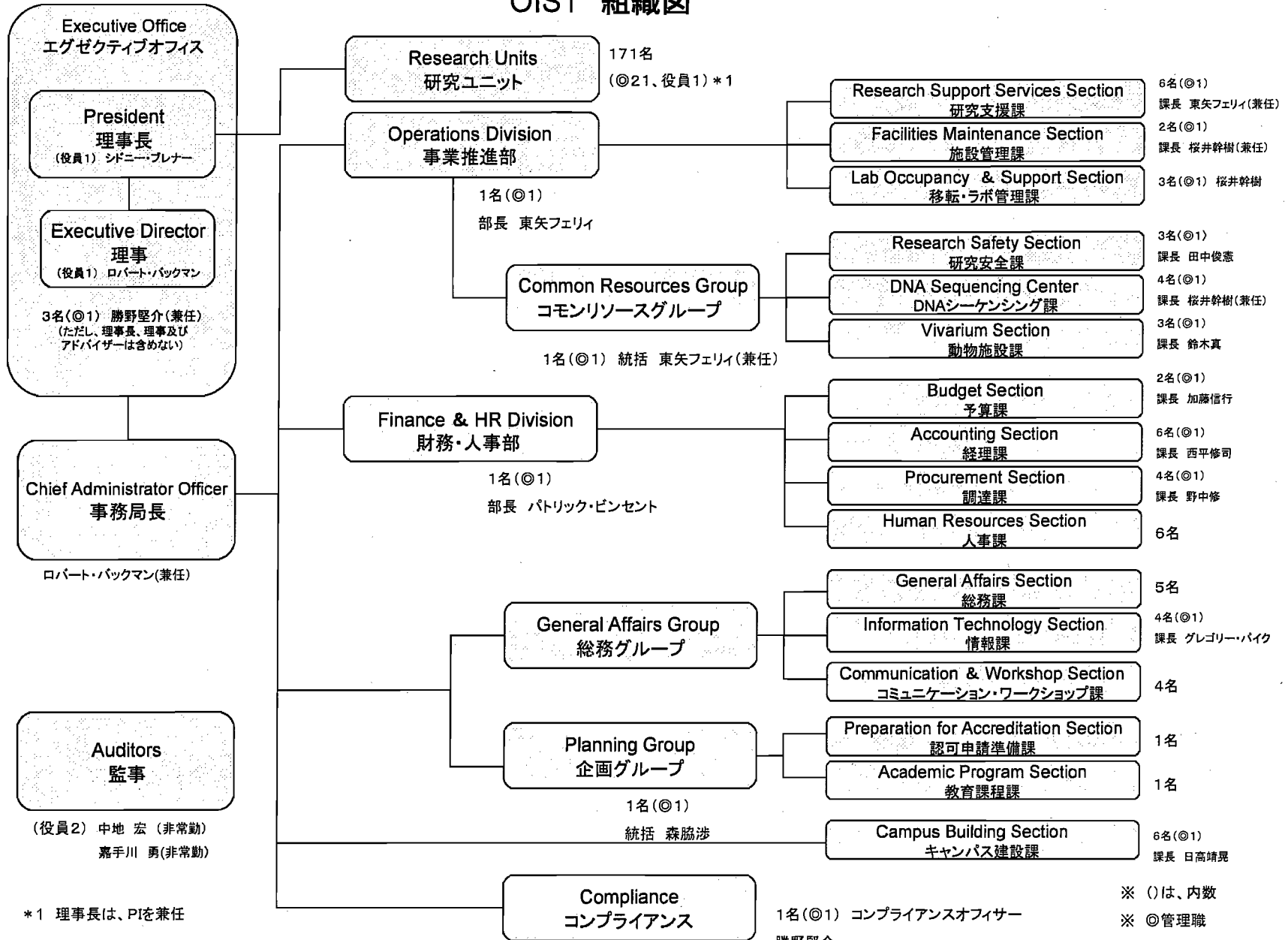
*1 理事長は、PIを兼任

1名(◎1) コンプライアンス・オフィサー
勝野堅介

※ ()は、内数
※ ◎管理職

OIST Organization Chart OIST 組織図

August 1, 2009



*1 理事長は、PIを兼任

※ ()は、内数
※ ◎管理職

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構における監事監査実施状況

1. 基本方針

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構の監事監査は、機構の業務の安定的推進に貢献する観点に立脚し、独立行政法人通則法の諸規定の遵守、管理運営業務の適正執行、大学院大学関連施設の整備および先行的研究事業の円滑な推進に留意して実施される。

2. 目的及び対象範囲

監事監査は、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第19条第4項の規定に基づき、機構の業務の適正かつ能率的な運営を確保するとともに、会計経理の適正を期することを目的とし、その範囲は、機構の業務全般を対象とした。

3. 監事の役割分担及び実施方法

会計監査は、主に中地監事が担当し、業務監査は、主に嘉手川監事が担当した。監査の実施方法は、平成20年度監事監査計画に基づき、年4回の機構における実地監査をベースに、電話及びメールによるヒアリング、さらに必要に応じ担当職員を東京に呼ぶ等により行われた。

4. 事務補助体制

監事監査規定第8条に基づき理事長が任命した監事付職員が監事の事務補助業務にあたった。具体的には、実地監査等の日程調整、監査対象事項の資料、情報の収集及びその報告等の業務を行った。

5. 監査計画に基づく監査及び臨時監査の実績

平成20年度は、年度監査計画に基づき、下記の日時及び項目で監査を行った。

- 平成20年4月16日～平成20年4月18日
- ① 平成20年4月の会計検査院検査概況について
- ② 平成20年度予算及び平成19年度予算執行状況について
- ③ 平成19年度計画事項別「中期計画」達成状況について
- ④ 平成19年度施設整備進捗状況について
- ⑤ 平成19年度第3四半期決算、第4四半期決算について
- ⑥ 調達・契約の状況について
- ⑦ OIST事務局の組織変更及び各部署業務分担について
- ⑧ 平成20年度計画について
- ⑨ 内部統制について

- 平成20年6月25日～平成20年6月27日

- ① 支払手帳及び証憑書類、調達に係る承認手続き等について
- ② 平成19年度財務諸表について
- ③ 調達に関する第三者委員会の設置、目的及び構成員等について
- ④ 平成19年9月に行われた業務運営の点検結果への取組状況について
- ⑤ 平成20年度予算及び予算執行計画、平成21年度予算概算要求構想について
- ⑥ 大学院大学新キャンパス整備の全体スケジュール及び進捗状況、民間資金活用によるビレッジゾーン住宅整備について

- 平成20年9月24日～平成20年9月26日

- ① 平成21年度予算概算要求について
- ② 法人税等の修正申告について
- ③ 平成20年度第1四半期決算、第2四半期決算について
- ④ 公共調達の適正化について
- ⑤ 第1回調達に関する第三者委員会の議事要旨について
- ⑥ 大学院大学新キャンパス建設工事進捗状況について
- ⑦ 平成21年度施設整備補助金概算要求について

- 平成21年1月27日～平成21年1月29日

- ① 平成21年度予算及び平成20年度第2次補正予算（内示）概要について
- ② 平成20年度予算執行状況について
- ③ 平成20年度計画進捗状況及び第1次中期計画進捗状況について
- ④ 第2次中期計画策定準備状況及び平成21年度計画準備状況について
- ⑤ 旅費の支給手続き及び執行状況について
- ⑥ 随意契約見直し計画の履行状況及び平成20年度第2四半期、第3四半期の随意契約状況について
- ⑦ 平成20年度第2四半期決算、第3四半期決算について
- ⑧ 内部統制・ガバナンスの現況について
- ⑨ 大学院大学新キャンパス建設現場視察

- 平成21年3月5日

- ① 運営費交付金・施設整備補助金の入金及び支払の資金の流れについて
- ② 出入金時及び収益化の処理について
- ※ サンプル調査を行い、規定に基づき、交付金・補助金の交付申請がなされているか、またその執行が適正に行われているか、さらに実在性、網羅性の観点から取引が財務諸表に適正に反映されているか等の確認を行った。

また臨時監査として下記の監査を行った。

- 平成20年12月9日

- ① 理事長の旅費支出について

<添付資料#20-3>

国民からの意見募集について

独法行政法人整理合理化計画により、「各独立行政法人は、その業務・マネジメントに関し国民の意見募集を行い、業務運営に適切に反映させる」こととしている。

OISTでは、平成20年7月、機構のホームページに、国民のご意見・ご要望を聞くコーナーを設けた。平成20年度においては6件のメールが届き、ほとんどが採用の照会で、また研究者連絡先の照会等であった。この他、主任研究者による講演後にアンケートを取るなどして、意見の収集を行っている。これらの取組により得られた業務・マネジメントに関する意見については、内容に応じて、適切に業務運営に反映することとしている。

<添付資料#20-4a>

理事長室 & エグゼクティブオフィス所掌業務

- 理事長のサポート体制について 日程管理・日程調整、旅費の精算手続き等のサポート業務は、理事長室で行われていた。その決定文書はないが、規程第7条2項に定めるとおり、理事長室には、理事長、理事、第9条に規定する理事長補佐及び第10条に規定するアドバイザーが所属しており、理事長のサポート業務についても他の所属役員と同様に同室所属職員で行ってきたものである。

資料 組織規程（平成20年3月31日 第7条 理事長室の組織及び所掌業務）

- 理事長室及びエグゼクティブオフィスの所掌事務について

資料

組織規程（平成20年3月31日 第7条 理事長室の組織及び所掌業務）

組織規程（平成21年7月23日改正 第8条 エグゼクティブオフィス）

(Organization and the matters under the jurisdiction of Office of the President 理事長室の組織及び所掌事務)

Article 7 第 7 条

- 1 Office of the President shall be established in the Corporation.
機構に理事長室を置く。
- 2 President, Executive Director, Executive Assistants to the President as stipulated in Article 9 and Advisers as stipulated in Article 10 shall belong to Office of the President. Employees designated by the President can also belong to Office of the President.
理事長室には、理事長、理事、第 9 条に規定する理事長補佐及び第 10 条に規定するアドバイザーが所属するものとし、また理事長が指定する職員が所属できるものとする。
- 3 Office of the President shall be responsible for the following matters.
理事長室は、次の業務をつかさどる。
 - (1) Planning and policy making of corporate strategies of the Corporation.
機構の経営戦略に関する企画及び立案に関すること
 - (2) Basic administrative policies of the Corporation
機構の業務の基本的な運営方針に関すること
 - (3) Liaison business for Board of Governors
運営委員会との渉外業務に関すること
 - (4) Matters related to the research evaluations
研究評価に関する事項
 - (5) Matters related to the compliance
法令順守に関する事項
 - (6) Matters related to the public relations
広報に関する事項
 - (7) Other matters decided by the President
前各号に定めるもののほか理事長の定める事項

(Post 職制)

Article 8 第 8 条

- 1 Division, Group and Section shall respectively have Director, Senior Manager and Manager.
部、グループ及び課にそれぞれ部長、統括及び課長を置く。
- 2 Division, Group and Section shall be able to have Specialists.
部、グループ及び課に調査役を置くことができる。
- 3 Section shall be able to have Assistant Managers.
課に課長補佐を置くことができる。
- 4 Directors shall instruct the staff members and manage the business of Divisions
部長は、所属の職員を指揮監督して部の事務を掌理する。
- 5 Senior Managers shall instruct the staff members and manage the business of Groups
統括は、所属の職員を指揮監督してグループの事務を掌理する。
- 6 Managers shall assist the Directors and Senior Managers, instruct the staff members and manage the business of the Sections.
課長は、部長及び統括を補佐し、所属の職員を指揮して課の事務を掌理する。

- 8 Duties of Campus Building Section and Sections provided by Paragraph 3 and Paragraph 5 shall be stipulated separately.
キャンパス建設課並びに第 3 項及び第 5 項に規定する課の行う業務は別に定める。

(Post 職制)

Article 7 第 7 条

- 1 Division, Group and Section shall respectively have Director, Senior Manager and Manager.
部、グループ及び課にそれぞれ部長、統括及び課長を置く。
- 2 Section shall be able to have Assistant Managers.
課に課長補佐を置くことができる。
- 3 Division, Group and Section shall be able to have Specialists.
部、グループ及び課に調査役を置くことができる。
- 4 Directors shall instruct the staff members and manage the business of Divisions
部長は、所属の職員を指揮監督して部の事務を掌理する。
- 5 Senior Managers shall instruct the staff members and manage the business of Groups
統括は、所属の職員を指揮監督してグループの事務を掌理する。
- 6 Managers shall instruct the staff members and manage the business of the Sections.
課長は、所属の職員を指揮して課の事務を掌理する。
- 7 Assistant Managers shall assist Managers, and perform the duties of managers on their behalf in the event they are unable to act.
課長補佐は、課長を補佐し、課長に事故があるときはその職務を代理する。
- 8 Specialists shall be in charge, upon instruction of the supervisors, of matters requiring expertise.
調査役は、上司の命を受け、専門的知識を必要とする事務の処理に当たる。
- 9 Posts other than those prescribed in the preceding paragraphs could be established if necessary.
前各項に定める職のほか必要な職を置くことができる。

(Executive Office エグゼクティブオフィス)

Article 8 第 8 条

- 1 Executive Office shall be established in the Corporation.
機構にエグゼクティブオフィスを置く。
- 2 President, Executive Director, and Advisers as stipulated in Article 9 shall belong to Executive Office. The Executive Director shall be the manager of the Executive Office.
エグゼクティブオフィスには、理事長、理事及び第 9 条に規定するアドバイザーが所属するものとする。理事は、エグゼクティブオフィスの事務を掌理する。
- 3 Executive Office shall be responsible for the following matters.
エグゼクティブオフィスは、次の業務をつかさどる。
 - (1) Planning and policy making of corporate strategies of the Corporation.
機構の経営戦略に関する企画及び立案に関すること

- (2) Basic administrative policies of the Corporation
機構の業務の基本的な運営方針に関すること
- (3) Liaison business for Board of Governors
運営委員会との渉外業務に関すること
- (4) Matters related to the research evaluations
研究評価に関すること

- 4 Employees of the corporation designated by the President can belong to the Executive Office.

理事長の指定する機構の職員は、エグゼクティブ オフィスに所属できるものとする。

(Advisers to the President アドバイザー)

Article 9 第9条

- 1 The Corporation shall be able to have Advisers who advise the President on the fundamental matters related to the business of the Corporation.
理事長に機構の業務に関する基本的事項について助言するため、機構にアドバイザーを置くことができる。
- 2 Advisers shall be appointed by the President, and shall be called Senior Adviser or Special Adviser.
アドバイザーは理事長が委嘱するものとし、シニアアドバイザー又はスペシャルアドバイザーとする。
- 3 The President shall determine the matters Advisers should be in charge of.
アドバイザーが担当する事項については理事長が定める。

(Research Organization 研究組織)

Article 10 第10条

- 1 Research Projects shall be conducted at Research Units. Principal Investigator and Independent New Investigator shall represent the unit and overview the research.
研究事業は研究ユニットを単位として行い、代表研究者及び若手代表研究者が研究ユニットを代表し総括するものとする。
- 2 In addition to the Principal Investigators and Independent New Investigator, Research Units shall be able to have Group Leaders, Researchers, Technical Staff and Research Administrators.
研究ユニットには代表研究者及び若手代表研究者のほかグループリーダー、研究員、技術員及び研究補助員を置くことができる。
- 3 In addition to the positions in the preceding paragraph, Research Units shall be able to have Graduate Student Research Assistants, Graduate Students and Visiting Researchers.
前項の規定による職に加え、研究ユニットには準研究員、研修生、客員研究員を置くことができる。
- 4 Group Leaders shall assist the Principal Investigators and be engaged in research.
グループリーダーは代表研究者を補佐し研究に従事する。

平成 21 年 8 月 11 日

<添付資料 #20-5>

調達課を財務・人事部の下に置く考え方

調達課は次のとおり、機構全体の契約の適正化に関する管理的な業務を担当している。

【業務内容】

- (1) 物品、役務の購買（一般競争入れ、企画競争等の入れ手続き・執行等）
- (2) 契約実績の定期的な開示
- (3) 随意契約見直し計画の推進
- (4) 契約規則及びマニュアルの管理・整備
- (5) 固定資産管理・実査
- (6) 調達に関わる第三者委員会の事務局

このように調達課の所掌事務は、契約の適正化及びそれに伴う予算実績管理・コスト管理等、機構全体の管理的な業務が多いことから、調達課の業務を事業推進部の所掌とするよりも、財務・人事部の分掌とする方が、管理的な業務を組織としてより合理的かつ効率的に実施できると考えている。

なお、調達プロセスに関わる内部統制の観点から、購入申請と発注（契約）は、それぞれ独立した部署において担当しており、職務の分離を適切に確保している。

（参考）調達プロセス

- | | |
|-----------|---------------------|
| a. 購入申請 | 購入要請部署（各ユニット、研究支援課） |
| b. 発注（契約） | 財務人事部調達課 |
| c. 物品の検収 | 購入要請部署及び調達課 |
| d. 支払い | 財務人事部経理課 |

<添付資料#20-6>

競争的資金の獲得業務体制

財務・人事部長が競争的資金については全体の責任を持つこととする。一貫性と品質管理のため、すべての申請書は財務部門を通すことになっている。また申請書類を用意するなど主任研究者とともに実働するスタッフが必要である。そのスタッフは事業推進部の置くことができ、財務部門とは一線を画さなければならない。企画グループにおいてはこの業務に関与しないこととする。

<添付資料#21-1>

平成20年度における随意契約見直し計画のフォローアップ

平成21年5月

随意契約見直し計画と平成19年度、平成20年度に締結した契約の状況

(単位：件、億円)

	平成18年度		平成19年度		平成20年度		見直し計画	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(16.2%) 42	(52.3%) 25,72	(37.8%) 79	(89.0%) 79,69	(76.4%) 149	(91.4%) 73,61	(88.4%) 229	(68.6%) 33,63
企画競争・公募	(0%) 0	(0%) 0	(4.3%) 9	(2.3%) 2,06	(6.2%) 12	(4.7%) 3,75	(2.3%) 6	(11.9%) 5,84
競争性のある契約(入札)	(16.2%) 42	(52.3%) 25,72	(42.1%) 88	(91.3%) 81,75	(82.6%) 161	(96.1%) 77,36	(90.7%) 235	(80.3%) 39,47
競争性のない随意契約	(83.8%) 217	(47.7%) 23,45	(57.9%) 121	(8.7%) 7,78	(17.4%) 34	(3.9%) 3,17	(9.3%) 24	(19.7%) 9,71
合計	(100.0%) 259	(100.0%) 49,17	(100.0%) 209	(100.0%) 89,53	(100.0%) 195	(100.0%) 80,54	(100.0%) 259	(100.0%) 49,17

1

図表 随意契約見直し計画と平成19年度、平成20年度に締結した契約の状況

【18実績】	【19実績】	【20実績】	【見直し計画】 ※見直し結果を18年度実績に当てはめたもの
一般競争入札・指名競争入札等 25,72 億円 (42 件) 競争性のある契約方式合計 金額 25,72 億円 (52.3%) 件数 42 件 (16.2%)	一般競争入札・指名競争入札等 79,69 億円 (79 件) 競争性のある契約方式合計 金額 81,75 億円 (91.3%) 件数 88 件 (42.1%)	一般競争入札・指名競争入札等 73,61 億円 (149 件) 競争性のある契約方式合計 金額 77,36 億円 (96.1%) 件数 161 件 (82.6%)	一般競争入札・指名競争入札等 33,63 億円 (229 件) 競争性のある契約方式合計 金額 39,47 億円 (80.3%) 件数 235 件 (90.7%)
競争性のない随意契約 金額 23,45 億円 (47.7%) 件数 217 件 (83.8%)	企画競争・公募 2,06 億円 (9 件) 競争性のない随意契約 金額 7,78 億円 (8.7%) 件数 121 件 (57.9%)	企画競争・公募 3,75 億円 (12 件) 競争性のない随意契約 金額 3,17 億円 (3.9%) 件数 34 件 (17.4%)	企画競争・公募 5,84 億円 (6 件) 競争性のない随意契約 金額 9,71 億円 (19.7%) 件数 24 件 (9.3%)

2

〈添付資料 #21-2〉 Attachment #21-2

● 一覧表

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 平成20年度における調達について(一覧表)

契約担当官の指名並びにその所属する部局の名称及び住所(独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 理事長 シドニー・ブレナー 沖縄県国頭郡恩納村字恩納7542)

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	落札率%	契約者の名称及び住所	随契とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ再就職した役員数	備考
1	DNAシーケンサー保守	平成20年4月1日	7,938,000	一般	7,938,000	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応れできないため。		
2	動物施設の環境検査	平成20年4月1日	3,465,000	一般	3,762,798	92.1%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	2			
3	沖縄科学技術研究・交流センター、沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター及び工業技術センターの建物管理及び清掃業務	平成20年4月1日	42,840,000	一般	43,831,828	97.7%	日本総合警美株式会社 那覇市若狭2丁目3番15号	-	1	本契約は実験室の温度、空調など総合的な実験設備の管理も含むものであり、供給者が交代した場合、社員教育などを新規の業者の負担において行うことになり、新規の業者が努力、資金の提供に消極的になってしまうため。		
4	cDNA配列クラスターシステムH20年度保守契約	平成20年4月1日	4,672,500	一般	4,672,500	100.0%	三菱スペース・ソフトウェア株式会社 兵庫県尼崎市塚口本町5丁目4番36号	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応れできないため。		
5	透過電子顕微鏡システム保守契約	平成20年4月1日	4,069,800	一般	4,240,950	96.0%	日本電子データム株式会社 福岡市博多区博多駅前2-1-1 福岡朝日ビル	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応れできないため。		
6	Web of Science(学術文献引用データベース)の利用権許諾一式の購入	平成20年4月1日	7,843,500	一般	10,269,000	76.4%	株式会社紀伊圖書店 九州営業部 福岡県福岡市博多区博多駅中央街2番1号 福岡交通センター7F	-	2			
7	生物顕微鏡TIRF-C1Si 保守契約	平成20年4月1日	1,995,000	一般	1,995,000	100.0%	株式会社ニコンインステック 神奈川県川崎市川崎区東田町8番地	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応れできないため。		○
8	LMDレーザーマイクロディセクション保守	平成20年4月1日	1,050,000	一般	1,050,000	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応れできないため。		○
9	計算機システム管理及びプログラム開発業務	平成20年4月1日	11,340,000	一般	11,340,000	100.0%	NECソフト沖縄株式会社 沖縄県那覇市久米2丁目3番15号	-	1	前年度からの継続案件で、専門性の高い業務請負契約であり、他の業者が消極的になってしまったため。		
10	走査型多光子レーザー顕微鏡システムの保守点検	平成20年4月1日	3,402,000	一般	3,402,000	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応れできないため。		
11	ハイブリット型質量分析装置(QSTAR)の保守点検	平成20年4月1日	1,575,000	一般	1,575,000	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応れできないため。		○
12	実験動物飼育管理委託業務	平成20年4月1日	38,324,370	一般	38,324,370	100.0%	株式会社ケー・エー・シー 京都府京都市中京区西ノ京西月光町40	-	1	本契約は動物施設の維持管理、実験機器の操作等も含むものであり、供給者が交代した場合、社員教育などを新規の業者の負担において行うことになり、新規の業者が努力、資金の提供に消極的になってしまうため。		
13	自動細胞解析分離装置(BD FACSaria)の保守点検	平成20年4月1日	1,554,000	一般	1,554,000	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応れできないため。		○
14	カルツァイス社製顕微鏡の保守点検	平成20年4月1日	5,216,400	一般	5,216,400	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応れできないため。		
15	SINETネットワーク回線サービス	平成20年4月1日	6,010,200	一般	6,014,988	99.9%	株式会社NTT西日本-沖縄 沖縄県浦添市城間4丁目35番1号	-	2			

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	落札率%	契約者の名称及び住所	随契とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ再就職した従業員数	備考
16	セキュアリモートアクセス認証サービス	平成20年4月1日	5,186,160	一般	5,207,160	99.6%	エヌ・ティ・エム・コミュニケーションズ株式会社 東京都千代田区内幸町1丁目1-8	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。		
17	OIST SeasideHouse内ネットワーク機器保守 一式	平成20年4月1日	1,286,250	一般	1,286,250	100.0%	エヌ・ティ・エム・コミュニケーションズ株式会社 東京都千代田区内幸町1丁目1-8	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。		○
18	統合業務システム保守・運用サービス	平成20年4月1日	6,552,000	一般	6,720,000	97.5%	NECネットワークソリューションズ株式会社 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。		
19	1MV電子顕微鏡操作業務及びデータ収集業務委託	平成20年4月1日	2,462,806	一般	2,462,806	100.0%	株式会社日立ハイテクノロジーズ 東京都港区西新橋1丁目24番14号	-	1	当該1MV顕微鏡を操作できる者が(株)日立ハイテクノロジーズ以外にいないため、同社しか応札できない。		○
20	実験動物(マウス・ラット)用飼料の購入	平成20年4月1日	3,990円/1袋	一般	3,990円/1袋	100.0%	有限会社琉球バイオテック 沖縄県浦添市牧港1丁目83番14号 三重城興産ビル3-8	-	1	実験動物用の飼料であり、実験結果に影響をあたえないよう厳重な品質管理が要求される。候補の要求する仕様を満たす業者は有限会社琉球バイオテックのみであるため。		○
21	実験動物(マウス)用床敷の購入	平成20年4月1日	2,982円/1袋	一般	3,300円/1袋	90.3%	エデストロムジャパン株式会社 東京都港区赤坂1丁目11番28号	-	1	実験動物用飼育ケージの床敷であり、実験結果に影響をあたえないよう厳重な品質管理が要求される。候補の要求する仕様を満たす業者はエデストロムジャパン株式会社のみであるため。		○
22	特別管理産業廃棄物(感染性産業廃棄物)の収集・運搬・処理業務	平成20年4月1日	動物死体190円/Kg 動物死体以外150円/Kg 収集運搬費2,000円	一般	動物死体225円/Kg 動物死体以外225円/Kg 収集運搬費1,300円	69.1%	沖縄県産業廃棄物処理共同組合 沖縄県西原町字小那覇1061の1	-	3	-		○
23	遺伝子改変マウスのSPF化及び飼育管理業務	平成20年4月1日	維持管理及び飼育管理 157,500円/ラック 遺伝子マウスのSPF化 157,500円/系統	一般	維持管理及び飼育管理 219,049円/ラック 遺伝子マウスのSPF化 160,512円/系統	72.3%	オリエンタル酵母工業株式会社 大阪府吹田市南吹田4丁目4番1号	-	3	-		
24	研究交流センター プロパンガスの購入	平成20年4月1日	249円/1立方メートル	一般	332円/1立方メートル	75.0%	株式会社リゅうせき 沖縄県浦添市西洲2-2-3	-	2	-		
25	物品の保管	平成20年4月1日	保管料1,431円/月 入庫料1,050円/月 出庫料1,050円/月	一般	保管料4,200円/月 入庫料1,081円/月 出庫料1,081円/月	34.7%	琉球物流株式会社 沖縄県那覇市港町2丁目17番13号	-	1	供給者が交代した場合、既に入庫されている物品の移動が必要となるため、新規の供給者が移動に伴う労力の提供、資金の負担に消極的になってしまったため。		
26	沖縄科学技術研究基盤整備機構(サイトハウス)清掃業務	平成20年4月1日	3,150,000	一般	4,672,500	67.4%	新報警備保障総合ビル管理株式会社 沖縄県沖縄市中央四丁目13番1号	-	5	-		
27	沖縄科学技術研究基盤整備機構(サイトハウス)警備業務	平成20年4月1日	5,166,000	一般	5,237,400	98.6%	沖縄県ビルメンテナンス協同組合 沖縄県那覇市曙2-27-14	-	5	-		
28	(独)沖縄科学技術研究基盤整備機構(サイトハウス)緑地管理業務	平成20年4月1日	2,520,000	一般	3,244,500	77.7%	株式会社 真栄田造園 沖縄県国頭郡恩納村字喜瀬原314番地の1	-	5	-		
29	H20年度沖縄科学技術・研究交流センター賃貸借	平成20年4月1日	85,130,204	随意	85,130,204	100.0%	財団法人 垂熱帯総合研究所 沖縄県那覇市旭町1番地沖縄県南部合同庁舎11階	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 研究実施場所の賃貸借契約であり、当該賃貸借物件でなければ研究目的を達成できないため	-	-		
30	H20年度沖縄県健康バイオテクノロジーセンター賃貸借	平成20年4月1日	6,804,563	随意	6,804,563	100.0%	沖縄県 新産業振興課 沖縄県うるま市州崎12-22	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 研究実施場所の賃貸借契約であり、当該賃貸借物件でなければ研究目的を達成できないため	-	-		
31	H20年度沖縄県工業技術センター賃貸借	平成20年4月1日	28,364,491	随意	28,364,491	100.0%	沖縄県 工業技術センター 沖縄県うるま市州崎12-2	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 研究実施場所の賃貸借契約であり、当該賃貸借物件でなければ研究目的を達成できないため	-	-		
32	日立製作所内研究所賃貸借	平成20年4月1日	1,627,452	随意	-	-	株式会社日立製作所 基礎研究所 埼玉県比企郡鳩山町赤沼2520番	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 研究実施場所の賃貸借契約であり、当該賃貸借物件でなければ研究目的を達成できないため	-	-		○

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	落札率%	契約者の名称及び住所	随契とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ再就職した応募者数	備考
33	4月柳田ワークショップ宿泊	平成20年4月1日	1,390,200	随意	1,390,200	100.0%	リザンコーポレーション株式会社 沖縄県国頭郡恩納村字谷茶1498	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		○
34	脱臭装置内脱臭剤交換再生保管	平成20年4月1日	2,681,700	随意	2,708,000	99.0%	有限会社ナンセイアクアテックサービス 沖縄県浦添市宮城1丁目14番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		○
35	中央監視装置の保守点検業務	平成20年4月1日	3,139,500	随意	3,144,000	99.9%	株式会社沖縄計装 沖縄県那覇市泊3丁目5番地7号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		
36	ガラマダ-系統維持の請負業務	平成20年4月1日	5,496,750	随意	5,496,750	100.0%	有限会社土浦観賞魚 茨城県土浦市蓮河原新町2-12	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		
37	ハイブリッドフーリア変換型質量分析装置他一式の保守	平成20年4月1日	9,513,000	随意	9,513,000	100.0%	株式会社ウインクス 京都府宇治市伊勢田町名木2丁目1番地の233	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		
38	リース(映像機器他)	平成20年4月1日	1,257,480	随意	-	-	株式会社おきぎんリース 沖縄県那覇市前島2丁目21番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 単年度契約の更新による複数年度(18ヶ月)契約を前提にしているため	-	-		○◎
39	図書(電子ジャーナルElsevier ScienceDirect)	平成20年4月1日	23,659,043	随意	23,659,043	100.0%	Elsevier B.V. 1043NX Amsterdam, Netherlands	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該電子書籍はオランダ・エルゼビア・ピープイ社のみから提供されているため	-	-		
40	質量分析装置LQ他点検保守	平成20年4月1日	2,787,800	随意	2,787,800	100.0%	株式会社ウインクス 京都府宇治市伊勢田町名木2丁目1番地の233	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		○
41	業務車両の賃貸借(スパンオ)	平成20年4月1日	819,000	随意	-	-	株式会社トヨタレンタリース沖縄 沖縄県那覇市赤嶺2-13-1	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 単年度契約の更新による複数年度(36ヶ月)契約を前提にしているため	-	-		○◎
42	業務車両の賃貸借(モビリオ)	平成20年4月1日	1,540,980	随意	-	-	株式会社おきぎんリース 沖縄県那覇市前島2丁目21番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 単年度契約の更新による複数年度(25ヶ月)契約を前提にしているため	-	-		○◎
43	リース(総合業務システム用ハードウェア式)	平成20年4月1日	1,837,815	随意	-	-	三井住友ファイナンス&リース株式会社 東京都千代田区一橋2-1-1	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 単年度契約の更新による複数年度(36ヶ月)契約を前提にしているため	-	-		○◎
44	業務車両の賃貸借(プリウス)	平成20年4月1日	1,471,680	随意	-	-	株式会社琉球リース 沖縄県那覇市久茂地1丁目7番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 単年度契約の更新による複数年度(17ヶ月)契約を前提にしているため	-	-		○◎
45	財務会計業務に関するコンサルタント業務(平成20年度分)	平成20年4月1日	2,940,000	随意	2,940,000	100.0%	新日本監査法人 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 前年度、前々年度の決算において、コンサルタントとして決算業務に關与しており、当該種の財務会計に最も慣熟している唯一の業者であるため。	-	-		○◎
46	沖縄科学技術大学院大学(仮称)環境モニタリング調査(平成20年度)	平成20年4月1日	40,950,000	公募	42,420,000	96.5%	日本工営(株)・(株)イーエーシー共同代表者 日本工営株式会社沖縄営業所 沖縄県那覇市金城5-5-8	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (簡易公募型プロポーザル方式による随意契約)	-	-		
47	沖縄科学技術大学院大学(仮称)施設整備等総合アドバイザー業務(平成20年度)	平成20年4月1日	44,000,000	公募	44,215,500	99.5%	ボヴィス・レンドリース・ジャパン株式会社 東京都文京区後楽2-3-21	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (簡易公募型プロポーザル方式による随意契約)	-	-		
48	研究交流センター 電気料4月分	平成20年4月1日	3,128,206	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
49	国際サマースクールOCNC2008開催支援業務(航空券)	平成20年4月24日	9,625,200	一般	10,858,478	90.3%	株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル 東京都品川区東品川2-3-11 JTBビル15階	-	2	-		

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	着札率%	契約者の名称及び住所	随入とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ高取理した役員数	備考
50	モータードライブマイクロコンピュータの購入	平成20年4月28日	5,565,000	一般	5,565,000	100.0%	株式会社フジオテック 東京都千代田区岩本町1丁目6番3号	-	1	(株)フジオテックは目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		
51	沖縄科学技術大学院大学設立準備会開催支援業務	平成20年4月28日	3,016,315	随意	3,026,000	99.7%	株式会社ホテルオークラ東京 東京都港区虎ノ門二丁目10番四号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		
52	沖縄科学技術研究基盤整備機構(ウーサドハウス)点検等及び保守業務	平成20年4月30日	6,079,500	一般	6,205,500	98.0%	株式会社国際ビル産業 沖縄県浦添市勢理客3丁目9番11号	-	4	-		
53	遺伝子改変マウスの飼育管理業務	平成20年5月1日	3,989,991	一般	3,990,000	100.0%	三協ラボサービス株式会社 東京都江戸川区西一之江2丁目13番16号	-	1	供給者が交代した場合、既に飼育管理が行われているマウスの移動が必要となるため、新規の供給者が移動に伴う労力の提供、資金の負担に消極的になってしまったため。		
54	研究交流センター 電気料5月分	平成20年5月1日	3,717,505	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
55	1MeVおよび350keV冷陰極電界放射顕微鏡の賃借	平成20年5月14日	12,133円/時間 726円/時間	一般	12,133円/時間 692円/時間	100.0%	株式会社日立製作所基礎研究所 埼玉県比企郡鳩山町赤沼2520番地	-	1	当該1MV顕微鏡及び350keV顕微鏡は(株)日立製作所内のみが存在するため、同社しか応札できない。		
56	遺伝子発現解析請負業務	平成20年5月15日	176,400円/サンプル	企画	200,000円/サンプル	88.2%	倉敷紡績株式会社 大阪府大阪市中央区久太郎町2-4-31	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (企画競争コンペティション方式による随意契約)	-	-		
57	沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟新営電気設備工事(その1)	平成20年5月19日	1,396,500,000	一般	1,598,100,000	87.4%	東光電気工事株式会社沖縄営業所 沖縄県那覇市宇国場1185番5号	-	6	-		▲
58	SEM等移設業務	平成20年5月26日	1,176,000	一般	1,183,129	99.4%	株式会社レキオメディカル 沖縄県浦添市仲西1丁目22番9号	-	1	精密な研究用機器の移動、設置に係る契約であり、既存の機器の納入元以外の業者が積極的にならないうため。		○
59	国際ワークショップのケータリング手配業務	平成20年5月28日	1,600円/食 2,800円/食 4,800円/食 7,920円/食	一般	1,640円/食 2,560円/食 4,877円/食 8,096円/食	99.6%	株式会社パノラマ・ホテルズ・ワン 東京都渋谷区恵比寿4-20-3	-	1	国際ワークショップの参加者への食事の提供業務であり、ベジタリアン、アレルギー対応など当業種の要求する仕様を満たすことができる業者は同社のみである。		○
60	沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟新営機械設備(空調)工事(その1)	平成20年5月30日	1,604,400,000	一般	2,242,800,000	71.5%	ダイゲン株式会社九州支社 福岡市中央区誓園三丁目1番24号	-	6	-		▲
61	研究交流センター 電気料6月分	平成20年6月1日	4,631,725	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
62	沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟新営その他機械設備(衛生)工事(その1)	平成20年6月13日	397,950,000	随意	398,895,000	99.8%	三晃・ヤシマ特定建設工事共同企業体 代表者(株)三晃空調沖縄営業所	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		▲
63	沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟新営実施設計業務(その3)	平成20年6月16日	24,990,000	随意	25,305,000	98.8%	日建設計/コンパネ・アソシエイツ/国建 共同代表者 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3	設計原簿第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 本業務は設計意図に従った業務であり、設計行為の延長である。設計上の責任を明確にし、設計意図を正確に伝えることが出来るのは、設計業務受注者のみである。	-	-		
64	沖縄科学技術大学院大学(仮称)施設整備に係る工事監理業務(その2)	平成20年6月25日	38,220,000	随意	38,535,000	99.2%	日建設計・国建 共同代表者 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号	会計原簿第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 元業務を公募型プロポーザル方式により業者選定する際に、元業務に直接関係する業務として本業務を含めて選定を行っている。	-	-		
65	CCDイメージングシステムの購入	平成20年6月27日	3,297,000	一般	3,298,050	100.0%	株式会社フジオテック 東京都千代田区岩本町1丁目6番3号	-	1	(株)フジオテックは目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		
66	走査型多光子レーザー顕微鏡システムの保守点検(高橋ユニット他分)	平成20年6月27日	3,150,000	随意	3,150,000	100.0%	株式会社中央医療器 沖縄県島尻郡南風原町字神里409番地の5	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	落札率%	契約者の名称及び住所	随受とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ再就職した役員数	備考
67	走査型多光子レーザー顕微鏡システムの保守点検(Arbuthnottユニット分)	平成20年6月27日	4,123,875	随意	4,123,875	100.0%	株式会社中央医療器 沖縄県島尻郡南風原町宇神里409番地の5	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		
68	沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟内実験室実施設計に係る条件設定業務	平成20年7月1日	47,250,000	公募	47,460,000	99.6%	日建設計/コンバーク・アソシエイツ/国建 共同体 代表者 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目16番3	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (参加者確認型公募による随意契約)	-	-		▲
69	研究交流センター 電気料7月分	平成20年7月1日	5,455,989	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
70	リアルタイムPCRシステムの購入	平成20年7月3日	2,693,250	一般	2,693,250	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原市津嘉山1582	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		○
71	機能的磁気共鳴画像装置(MRI)の賃借	平成20年7月4日	188,000円/単位	一般	188,000円/単位	100.0%	株式会社ATR-Promotions 京都府相楽郡精華町光台二丁目二番地	-	1	当該MRI装置は(株)ATR-Promotionsのみに存在するため、同社しか応札できない。		○
72	S.pomba.変異体菌株セットの購入	平成20年7月18日	2,271,108	随意	2,271,109	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原市津嘉山1582	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		○
73	沖縄科学技術大学院大学(仮称)開発行為変更許可申請等業務	平成20年7月24日	25,200,000	公募	25,777,500	97.8%	株式会社 オオバ 東京都目黒区青葉台四丁目4番12-101号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (参加者確認型公募による随意契約)	-	-		▲
74	マイクロアレイ解析システム保守	平成20年7月28日	1,725,499	一般	1,725,499	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原市津嘉山1582	-	1	輸入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。		○
75	税務顧問業務	平成20年8月1日	1,155,000	一般	1,316,000	87.8%	山内公認会計士事務所 沖縄県那覇市久茂地1丁目7番1号 琉球リース総合ビル9階	-	2	-		○
76	研究交流センター 電気料8月分	平成20年8月1日	5,371,808	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
77	DNAシーケンシング用試薬一式の購入	平成20年8月8日	7,980,000	一般	7,984,700	99.8%	トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
78	4連サーマルサイクラーの購入	平成20年8月20日	7,831,950	一般	7,834,050	100.0%	トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
79	電子顕微鏡における電子銃部修理	平成20年8月26日	1,554,000	随意	1,554,000	100.0%	株式会社日立ハイテクフィールドディング 東京都新宿区四谷4-28-4	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 日立ハイテク社製造電子顕微鏡の電子銃部の液漏が発生し、緊急修理を実施したため。本件修理には極めて特殊な技術が必要であり、実施できる唯一の業者であるため。	-	-		○◎
80	国際ワークショップ「Gradients and Signalling」開催支援業務(航空券)	平成20年8月29日	11,227,800	一般	12,546,905	89.5%	株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル 東京都品川区東品川12-3-11 JTBビル5階	-	3	-		
81	平成20年度沖縄科学技術大学院大学(仮称)土木工事監理業務	平成20年9月1日	25,200,000	公募	25,305,000	99.6%	社団法人 沖縄建設弘済会 理事長 古木 守晴	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (簡易公募型プロポーザル方式による随意契約)	-	-		▲
82	研究交流センター 電気料9月分	平成20年9月1日	4,903,257	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
83	DNAシーケンシング用試薬一式の購入	平成20年9月8日	2,005,500	一般	2,009,700	99.8%	トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		○

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	落札率%	契約者の名称及び住所	随契とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ再就職した役員数	備考
84	沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1新営エレベーター工事	平成20年9月9日	108,150,000	一般	142,800,000	75.7%	沖縄電機ビルシステム株式会社 沖縄県那覇市久茂地1丁目3番1号	-	6	-		▲
85	国際ワークショップ「Multi-Scale Phenomena」開催支援業務(航空券)	平成20年9月11日	9,121,430	一般	11,495,044	79.4%	株式会社日本旅行 東京都港区新橋2丁目20番15号	-	3	-		
86	ゲノムシーケンサーシステムの移設	平成20年9月11日	3,066,000	一般	3,070,725	99.8%	トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	精密な研究用機器の移動、設置に係る契約であり、既存の機器の納入元以外の業者が消滅的になってしまったため。		
87	沖縄科学技術大学院大学(仮称)基幹整備(エネルギーセンター棟等)新営電気設備工事	平成20年9月29日	598,500,000	一般	716,100,000	83.6%	東光電気工事株式会社沖縄営業所 沖縄県那覇市国場1185番5号	-	8	-		▲
88	沖縄科学技術大学院大学(仮称)シーサイド・ファカルティハウジング置き家具調達	平成20年9月30日	11,550,000	一般	12,526,500	92.2%	高島屋スペースクリエイト株式会社 九州営業所 福岡県福岡市博多区上呉服町11-16	-	3	-		
89	カールツアイス社製顕微鏡(LSM510)の保守点検	平成20年10月1日	2,338,875	一般	2,338,875	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。		○
90	沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟内実験室実施設計業務	平成20年10月1日	67,935,000	公募	68,145,000	99.7%	日建設計/コンパネ/アソシエイツ/国建 共同体 代表者 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (参加者確認型公募による随契契約)	-	-		▲
91	研究交流センター 電気料10月分	平成20年10月1日	4,175,382	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
92	沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究実験施設等実施設計業務(その4)	平成20年10月6日	5,250,000	随意	5,880,000	89.3%	日建設計/コンパネ/アソシエイツ/国建 共同体 代表者 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 本業務は設計意図伝達業務であり、設計行為の延長である。設計上の責任を明確にし、設計意図を正確に伝えることが出来るのは、設計業務受注者のみである。	-	-		
93	沖縄科学技術大学院大学(仮称)施設整備に係る工事監理業務(その3)	平成20年10月6日	13,650,000	随意	14,595,000	93.5%	日建設計・国建 共同体 (代表者 日建設計)東京都千代田区 飯田橋2丁目18番3号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 本業務を公募型プロポーザル方式により業者選定する際、元業務に直接関係する業務として本業務を併せて選定を行っている。	-	-		
94	沖縄科学技術大学院大学(仮称)基幹環境整備(1号棟上部工)	平成20年10月7日	366,450,000	一般	488,040,000	75.1%	株式会社横河ブリッジ那覇営業所 沖縄県那覇市前島2丁目9番5号	-	4	-		▲
95	High Performance Computerの調達	平成20年10月10日	65,885,400	一般	134,287,170	49.1%	新日鉄ソリューションズ株式会社 東京都中央区新川12-20-15	-	4	-		
96	倒立顕微鏡 一式の購入	平成20年10月10日	2,575,650	一般	2,575,650	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		○
97	沖縄科学技術大学院大学(仮称)シーサイド・ファカルティハウジング カーテン・ブラインド調達	平成20年10月10日	3,979,500	一般	6,867,000	58.0%	総合インテリアマイハウス 代表者 岸良 博和 沖縄県沖縄市知花5丁目13番18号	-	8	-		
98	沖縄科学技術大学院大学(仮称)エネルギーセンター棟新営その他工事	平成20年10月10日	227,839,500	一般	296,415,000	76.9%	南洋土建 株式会社 沖縄県那覇市与儀1丁目5番2号	-	12	-		▲
99	沖縄科学技術大学院大学(仮称)シーサイドハウジング造り付け内装工事	平成20年10月16日	17,325,000	一般	22,255,800	77.8%	琉帝建設株式会社 沖縄県うるま市与那城鶴辺102番地の3	-	8	-		
100	情報学的解析の計算用機器 一式の購入	平成20年10月17日	1,543,500	一般	1,933,491	79.8%	株式会社コンピュータ沖縄 沖縄県うるま市州崎7番地7	-	1	当機種の要求する仕様を満たすことのできる業者が他になく、結果的に1者による応札となったもの。		○

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	落札率%	契約者の名称及び住所	随契とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ再就職した役員数	備考
101	2009年外国逐次刊行物の購入(Aグループ)	平成20年10月20日	8,259,300	一般	8,775,637	94.1%	株式会社紀伊國屋書店 九州営業部 福岡県福岡市博多区博多駅中央街2-1	-	2	-		▲
102	2009年外国逐次刊行物の購入(Bグループ)	平成20年10月20日	5,078,850	一般	6,129,375	82.9%	株式会社紀伊國屋書店 九州営業部 福岡県福岡市博多区博多駅中央街2-1	-	2	-		▲
103	2009年外国逐次刊行物の購入(Cグループ)	平成20年10月20日	6,195,000	一般	6,875,400	90.1%	丸善株式会社 沖縄出張所 沖縄県那覇市泉崎1丁目12番7号	-	2	-		▲
104	ウインターコース開催支援業務(国際航空券)	平成20年10月31日	4,866,300	一般	6,167,458	78.9%	株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル 東京都品川区東品川2-3-11 JTBビル15階	-	3	-		
105	DNAシーケンシング用試薬一式の購入	平成20年10月31日	7,502,250	一般	7,506,450	99.9%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
106	沖縄科学技術大学院大学(仮称)シーサイド・ファカルティハウジング家電製品調達	平成20年10月31日	2,881,200	一般	3,662,400	78.7%	株式会社沖縄ヤマダ電機具志川営業所 法人事業部 沖縄県うるま市宇前原167-1-1	-	4	-		
107	研究交流センター 電気料11月分	平成20年11月1日	3,405,818	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
108	官報公告掲載料	平成20年11月5日	1,395,360	随意	-	-	沖縄県官報販売所 沖縄県那覇市久茂地1丁目1番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		○
109	沖縄科学技術研究基盤整備機構(シーサイドハウス・交流センタ)施設警備業務委託	平成20年11月10日	10,479,000	一般	12,075,000	86.8%	沖縄ビルメンテナンス株式会社 沖縄県那覇市囃2丁目8番18号	-	4	-		
110	遺伝子発現解析用試薬一式の購入	平成20年11月10日	2,872,800	一般	3,024,000	95.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
111	生体分子精製用クロマトグラフィシステム一式の購入	平成20年11月10日	1,682,100	随意	1,682,100	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		○
112	諸外国における大学院大学等に関する調査業務	平成20年11月12日	19,982,863	企画	19,982,863	100.0%	株式会社三菱総合研究所 東京都千代田区大手町2-3-6	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (企画競争コンペティション方式による随意契約)	-	-		
113	電子顕微鏡用EELSシステム一式の購入	平成20年11月17日	62,604,150	一般	62,605,725	100.0%	株式会社日立ハイテクノロジーズ 東京都港区西新橋1丁目24番14号	-	1	既設の顕微鏡の機能付加を行うものであり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
114	普通乗用自動車一式の購入	平成20年11月17日	2,137,267	一般	2,683,021	79.7%	日産プリンス沖縄販売株式会社 沖縄県浦添市宇城間2693番地	-	2	-		○
115	沖縄科学技術大学院大学(仮称)シーサイドハウスラボサーバ室増設工事(設備)	平成20年11月17日	20,895,000	一般	31,395,000	66.6%	株式会社久米電装 沖縄県那覇市久米2-16-25	-	6	-		
116	沖縄科学技術大学院大学(仮称)基幹環境整備(道路埋設配管等)工事(その1)	平成20年11月27日	173,250,000	一般	216,405,000	80.1%	株式会社 波嘉敷組 沖縄県名護市大東3丁目21番6号	-	8	-		▲
117	フレンチプレス細胞破砕機一式の購入	平成20年11月28日	4,110,750	一般	4,110,750	100.0%	株式会社ロジックナカイ 大阪府堺市中区小阪399-1	-	1	(株)ロジックナカイは目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	落札率%	契約者の名称及び住所	随契とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ再取 置した位 置数	備考
118	リサーチ用高性能凍結ミクローム 一式の購入	平成20年11月28日	7,140,000	一般	7,205,170	99.1%	株式会社レキオメディカル 沖縄県浦添市仲西1丁目22番9号	-	1	(株)レキオメディカルは目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		
119	神経生物学研究用試薬 一式の購入	平成20年11月28日	4,421,550	一般	4,421,550	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		
120	多機能オートサンブラー 一式の購入	平成20年11月28日	3,990,000	一般	4,003,555	99.7%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		
121	走査型電子顕微鏡用クールステージシステム 一式の購入	平成20年11月28日	4,725,000	一般	4,771,725	99.0%	株式会社レキオメディカル 沖縄県浦添市仲西1丁目22番9号	-	1	(株)レキオメディカルは目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		
122	DNAシーケンシング用試薬一式の購入	平成20年11月28日	29,190,000	一般	29,198,865	100.0%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		
123	研究交流センター 電気料12月分	平成20年12月1日	3,131,989	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
124	移転準備支援業務委託	平成20年12月5日	4,998,000	企画	4,998,000	100.0%	オリエンタル技研工業株式会社 東京都千代田区神田錦町2-11-3	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (企画競争コンペティション方式による随意契約)	-	-		
125	タンパク質-タンパク質相互作用解析業務	平成20年12月10日	2,918,475	一般	2,919,000	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる解析の実施業者の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		○
126	沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟その他新築工事(その2)	平成20年12月11日	519,750,000	一般	578,025,000	89.9%	株式会社 國場組 沖縄県那覇市久茂地三丁目21番1号	-	4	-		▲
127	第7回運営委員会開催支援業務	平成20年12月11日	5,342,535	随意	5,448,425	98.1%	株式会社ホテルオークラ東京 東京都港区虎ノ門二丁目10番四号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		
128	沖縄科学技術大学院大学(仮称)造成工事(三工区)	平成20年12月16日	59,745,000	一般	76,125,000	78.5%	有限会社 ツナミ組 沖縄県名護市字為又864番地5	-	15	-		▲
129	高精細3次元画像構築・解析ソフト 一式の購入	平成20年12月19日	2,803,500	一般	2,809,989	99.8%	株式会社池田理化 東京都千代田区鍛冶町1丁目8番6号	-	1	(株)池田理化は目的となるソフトウェアの販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		○
130	ゲノムシーケンサー用クラスターサー 一式の購入	平成20年12月19日	13,765,500	一般	13,808,970	99.7%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	既設の機器(DNAシーケンサー)の機能付加を行うものであり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		
131	高速菌体移設装置 一式の購入	平成20年12月19日	16,989,000	一般	16,993,200	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	2	-		
132	S.pombe 菌株セットの購入	平成20年12月19日	32,497,500	一般	32,497,500	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		
133	ゲノム解析コンピュータ 一式の購入	平成20年12月19日	180,026,953	一般	195,856,529	91.9%	日本SGI株式会社 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号	-	1	当機種の要求する仕様を満たすことのできる業者が他になく、結果的に1者による応札となったもの。		
134	短鎖読取型次世代DNAシーケンサーシステム 一式の購入	平成20年12月22日	64,260,000	一般	64,260,000	100.0%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。		

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	落札率%	契約者の名称及び住所	随契とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ再募集した回数	備考
135	同時通訳システム 一式の購入	平成20年12月22日	27,972,000	一般	34,379,825	81.4%	光通信工業株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目4番10号	-	2	-		
136	蛍光灯微鏡 一式の購入	平成20年12月25日	12,579,000	随意	12,579,000	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため	-	-		
137	沖縄科学技術大学院大学(仮称) 研究棟2内中央実験施設等実施設計に係る条件設定業務	平成20年12月26日	53,865,000	公募	54,495,000	98.8%	日建設計/コンパネ/アソシエイツ/国建 共同体 代表者 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (参加者確認型公募による随意契約)	-	-		▲
138	研究交流センター 電気料1月分	平成21年1月1日	3,040,654	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
139	財務会計業務に関するコンサルタント業務	平成21年1月5日	1,575,000	公募	1,575,000	100.0%	新日本有限責任監査法人 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (参加者確認型公募による随意契約)	-	-		○ ▲
140	図書(OJCLC NetLibrary 電子書籍)の購入	平成21年1月5日	4,793,188	随意	4,793,188	100.0%	株式会社紀伊國屋書店 福岡県福岡市博多区博多駅中央街2-1	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該電子書籍は株式会社紀伊國屋書店のみから提供されているため	-	-		
141	沖縄科学技術大学院大学(仮称) 施設設備に係る工事監理業務(その4)	平成21年1月7日	8,295,000	随意	8,505,000	97.5%	日建設計/国建 共同体 (代表者 日建設計)東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 元業務を公募型プロポーザル方式により業者選定する際に、元業務に直接関係する業務として本業務を含めて選定を行っている。	-	-		
142	沖縄科学技術大学院大学(仮称) 研究実験施設等実施設計業務(その5)	平成21年1月9日	5,166,000	随意	5,250,000	98.4%	日建設計/コンパネ/アソシエイツ/国建 共同体 代表者 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 本業務は設計意図伝達業務であり、設計行為の延長である。設計上の責任を明確にし、設計意図を正確に伝えることが出来るのは、設計業務受注者のみである。	-	-		
143	事務用パソコン 一式の購入	平成21年1月16日	3,024,000	一般	4,731,652	63.9%	新日録ソリューションズ株式会社 東京都中央区新川2-20-15	-	5	-		
144	ルミノイメージアナライザー 一式の購入	平成21年1月16日	4,179,000	一般	4,185,720	99.8%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	2	-		
145	パッチクランプアンプ 一式の購入	平成21年1月16日	5,617,500	一般	5,617,500	100.0%	株式会社フジオテック 東京都千代田区岩本町1丁目6番3号	-	1	(株)フジオテックは目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
146	DNAシーケンシング用試薬一式の購入	平成21年1月16日	19,755,750	一般	19,759,950	100.0%	トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目8番2号	-	1	トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
147	分裂酵母変異株の変異部位(SNPs)解析業務	平成21年1月19日	420,000円/解析	一般	577,500円/解析	72.7%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる解析の実施業者の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
148	募集広告掲載業務	平成21年1月19日	5,758,200	一般	7,329,000	78.6%	株式会社オーシーオー 沖縄県浦添市勢理客四丁目15番15号	-	6	-		
149	沖縄科学技術大学院大学(仮称) 研究棟1・センター棟家具設計業務	平成21年1月19日	37,296,000	公募	38,640,000	96.5%	株式会社日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (閉集公募型プロポーザル方式による随意契約)	-	-		
150	神経細胞電気活動測定システムの購入	平成21年1月23日	22,207,500	一般	22,225,968	99.9%	トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
151	Web of Science Beck File の購入	平成21年1月23日	10,143,000	一般	11,688,500	86.8%	株式会社紀伊國屋書店 九州営業部 福岡県福岡市博多区博多駅中央街2-1	-	1	(株)紀伊國屋書店は目的となる出版物の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	落札率%	契約者の名称及び住所	随契とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ再取 置した役 員数	備考
152	ユニット評価委員会開催支援業務	平成21年1月26日	2,776,006	一般	2,789,638	99.5%	株式会社コングレ 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル	-	1	当見積の要求する仕様を満たすことのできる業者が他になく、結果的に1者による応札となったもの。		○
153	沖縄科学技術大学院大学(仮称)TTC実験室増設工事(設備)	平成21年1月29日	11,550,000	一般	12,180,000	94.8%	ヤマ工業株式会社 沖縄県那覇市久米2丁目16番25号	-	1	当見積の要求する仕様を満たすことのできる業者が他になく、結果的に1者による応札となったもの。		
154	研究用保冷庫他 一式の購入	平成21年1月30日	3,034,500	一般	3,044,475	99.7%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
155	マルチディスプレイ制御ソフトウェア 一式の購入	平成21年1月30日	1,942,500	一般	1,994,916	97.4%	小原医科産業株式会社 東京都中野区江古田4-28-16	-	1	既設の機器(8角形オペラント実験システム)の機能付加を行うものであり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		○
156	細胞外電位記録システム 一式の購入	平成21年1月30日	10,857,000	一般	10,862,250	100.0%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
157	事務用パソコン(Macintosh)一式の購入	平成21年1月30日	1,958,250	一般	2,217,354	88.3%	株式会社コンピュータ沖縄 沖縄県うるま市州崎7番地7	-	4	-		○
158	ESIPロボットイオン源 一式の購入	平成21年1月30日	15,120,000	一般	15,120,000	100.0%	有限会社アクア 沖縄県浦添市城間2丁目2番12号	-	1	(有)アクアは目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
159	研究交流センター 電気料2月分	平成21年2月1日	3,268,543	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
160	電動倒立顕微鏡システム 一式の購入	平成21年2月6日	12,201,000	一般	12,205,663	100.0%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	2	-		
161	実体顕微鏡 一式の購入	平成21年2月6日	1,920,450	一般	1,921,115	100.0%	株式会社中央医療器 沖縄県島尻郡南風原町字神里409番地の5	-	1	(株)中央医療器は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		○
162	分裂酵母変異株の変異部位(SNPs)解析業務	平成21年2月8日	420,000円/解析	一般	630,000円/解析	66.6%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
163	高速/高感度CGDイメージングシステム 一式の購入	平成21年2月6日	2,928,450	一般	2,928,523	100.0%	株式会社フィジオテック 東京都千代田区岩本町1丁目6番3号	-	2	-		○
164	沖縄科学技術大学院大学(仮称)基幹整備(エネルギーセンター棟等)新当電気設備工事(その2)	平成21年2月9日	378,000,000	一般	394,800,000	95.7%	株式会社 関電工 沖縄県那覇市久茂地2-12-21	-	5	-		▲
165	募集広告掲載業務	平成21年2月13日	4,388,450	一般	5,622,750	78.2%	株式会社宣伝 沖縄県浦添市勢理客四丁目15番15号	-	3	-		
166	安全キャビネット性能検査	平成21年2月13日	4,683,000	一般	4,685,650	99.9%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	納入元による保守(検査)が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。		
167	蛋白質同定システム 一式の購入	平成21年2月13日	2,625,000	一般	2,643,648	99.3%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		○
168	DNAシーケンシング用試薬(IIImlna GA II用) 一式の購入	平成21年2月13日	6,951,000	一般	6,958,350	99.9%	トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	薄札率%	契約者の名称及び住所	随契とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ専任した役員数	備考
169	バイオアナライザ 一式の購入	平成21年2月13日	2,970,450	一般	2,971,080	100.0%	トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		○
170	共焦点レーザー顕微鏡 一式の購入	平成21年2月13日	13,108,820	一般	13,114,531	100.0%	株式会社中央医療器 沖縄県島尻郡南風原町字神里409番地の5	-	1	(株)中央医療器は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
171	沖縄科学技術大学院大学(仮称)シーサイドファカルティハウジング 置き家具調達	平成21年2月13日	11,235,000	一般	12,568,500	89.4%	高島屋スペースクリエイツ株式会社 東京都中央区日本橋茅場町2丁目12番7号	-	2	-		
172	沖縄科学技術大学院大学(仮称)シーサイドファカルティハウジング カーテン・ブラインド(E~H棟)調達	平成21年2月13日	2,257,500	一般	3,689,700	61.2%	株式会社サンスイ 沖縄県那覇市宇国場116番地	-	5	-		
173	酵母ライブラリー作成請負業務	平成21年2月18日	5,512,500	一般	8,288,750	66.7%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる解析の実施業者の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
174	沖縄科学技術大学院大学(仮称)基幹環境整備(道路埋設配管等)工事(その2)	平成21年2月24日	98,910,000	一般	113,400,000	87.2%	仲程土建株式会社 沖縄県宜野座村惣慶1771番地の9	-	11	-		▲
175	沖縄科学技術研究・交流センター空調機用冷凍機整備工事	平成21年2月25日	5,754,000	一般	7,245,000	79.4%	園和設備工業株式会社 沖縄県那覇市港町3丁目7番58号	-	7	-		
176	透過型検出器システム 一式の購入	平成21年2月27日	6,300,000	一般	6,382,703	98.7%	株式会社中央医療器 沖縄県島尻郡南風原町字神里409番地の5	-	1	(株)中央医療器は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
177	超遠心機用ロータ 一式の購入	平成21年2月27日	1,988,028	一般	1,988,028	100.0%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		○
178	DNAシーケンシング用試薬一式の購入	平成21年2月27日	20,307,000	一般	20,307,000	100.0%	トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
179	DNAシーケンシング用試薬(Illumina GA II用)一式の購入	平成21年2月27日	17,188,500	一般	17,191,650	100.0%	トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
180	神経細胞電気活動測定システム 一式の購入	平成21年2月27日	25,777,500	一般	25,782,674	100.0%	トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
181	共用電子計算ストレージシステム 一式の購入	平成21年2月27日	15,540,000	一般	26,106,777	59.5%	株式会社アルゴグラフィックス 東京都中央区日本橋箱崎町5-14	-	3	-		
182	沖縄科学技術大学院大学(仮称)センター棟新営エレベータ工事	平成21年2月27日	61,950,000	一般	106,050,000	58.4%	株式会社 沖縄日立 沖縄県那覇市おもろまち1-3-31	-	4	-		▲
183	研究交流センター 電気料3月分	平成21年3月1日	3,313,719	随意	-	-	沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号	会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため	-	-		
184	DNA断片化装置 一式の購入	平成21年3月2日	8,313,900	一般	8,316,000	100.0%	トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号	-	1	トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
185	マイクロプレートリーダー 一式の購入	平成21年3月2日	8,990,100	一般	8,998,373	99.9%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		

番号	件名	契約日	契約金額(円)	契約の種類	予定価格(円)	落札率%	契約者の名称及び住所	随契とした根拠規定と理由	応札者数	一者応札の場合、一者応札となった理由	契約先へ再就職した役員数	備考
186	TTCインフラ設備のサポート 一式の購入	平成21年3月2日	12,600,000	一般	13,983,811	90.1%	日本SGI株式会社 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号	-	1	当機構の要求する仕様を満たすことのできる業者が他にない、結果的に1者による応札となったもの。		
187	サイエンティフィックコンピューティングリソース 一式の購入	平成21年3月2日	9,345,000	一般	9,396,450	99.5%	株式会社アルゴグラフィックス 東京都中央区日本橋箱崎町5-14	-	1	当機構の要求する仕様を満たすことのできる業者が他にない、結果的に1者による応札となったもの。		
188	公用車(福祉車両 セダンタイプ)の購入	平成21年3月5日	3,330,000	一般	3,578,427	93.1%	沖縄トヨタ株式会社 浦添市勢理客4丁目18番1号	-	1	仕様を満たす自動車を提供できるのは沖縄トヨタ(株)のみであり、同社しか応札できない。		
189	公用車(ミニバンタイプ 後席サイドリフトアップシート装着車)の購入	平成21年3月5日	2,218,027	一般	2,889,329	76.8%	ネットトヨタ沖縄株式会社 沖縄県浦添市宇港川1247番地	-	2	-		○
190	公用車(ミニバンタイプ 助手席サイドリフトアップシート装着車)の購入	平成21年3月5日	3,424,665	一般	3,805,262	90.0%	ネットトヨタ沖縄株式会社 沖縄県浦添市宇港川1247番地	-	1	仕様を満たす自動車を提供できるのは沖縄ネットトヨタ沖縄(株)のみであり、同社しか応札できない。		
191	公用車(福祉車両 ステーションワゴンタイプ)の購入	平成21年3月5日	2,041,285	一般	2,425,983	84.1%	日産プリンス沖縄販売株式会社 沖縄県浦添市宇城間2693番地	-	2	-		○
192	沖縄科学技術大学院大学(仮称) 研究実験施設等実施設計業務(その6)	平成21年3月11日	4,053,000	随意	4,515,000	89.8%	日建設計/コンパネ/アソシエイツ/国建 共同体 代表者 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3	会計規程第17条 契約事務取扱規則第31条1項第1号 本業務は設計業務に属する業務であり、設計行為の延長である。設計上の責任を明確にし、設計業務を正確に伝えることが出来るのは、設計業務受注者のみである。	-	-		
193	沖縄科学技術大学院大学(仮称) 施設整備に係る工事監理業務(その5)	平成21年3月12日	7,350,000	随意	8,295,000	88.6%	日建設計/国建 共同体 (代表者 日建設計)東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号	会計規程第17条 契約事務取扱規則第31条1項第1号 元業務を公募型プロポーザル方式により業者選定する際に、元業務に直接関係する業務として本業務を含めて選定を行っている。	-	-		
194	沖縄科学技術大学院大学(仮称)シーサイド・ファカルティハウジング家電製品調達	平成21年3月16日	2,011,800	一般	2,105,250	95.6%	株式会社ベスト電器 天久店 沖縄県那覇市天久1丁目1-1	-	5	-		○
195	過酸化水素ガス発生装置 一式の購入	平成21年3月23日	13,230,000	一般	13,555,500	97.6%	沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原宇津嘉山1562	-	1	沖縄メディックス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。		
	合計		8,054,498,985									

(注)1 調達基準(随意契約によることのできる場合):

- 予定価格が250万円を超えない工事又は製造をさせるとき
- 予定価格が160万円を超えない財産を買い入れるとき
- 予定買借料の年額又は総額が60万円を超えない物件を借り入れるとき
- 工事又は製造の請負、物件の買借以外の契約でその予定価格が100万円を超えないものをするとき

(注)2 公表基準:

① 公共工事(公共工事に係る調査及び設計業務等を含む。)の名称、場所、期間及び種別又は物品等若しくは役務の名称及び数量

② 契約担当官等の氏名並びにその所属する部局の名称及び所在地

③ 契約を締結した日

④ 契約の相手方の商号又は名称及び住所

⑤ 一般競争入札又は指名競争入札の別及び総合評価方式による場合は、その旨(随意契約を行った場合を除く。)

⑥ 契約金額

⑦ 予定価格(公表したとしても、他の契約の予定価格を類推されるおそれがないと認められるもの又は国の事務又は事業に支障を生じるおそれがないと認められるものに限る。)

⑧ 落札率(契約金額を予定価格で除したものに百を乗じて得た率。予定価格を公表しない場合を除く。)

⑨ 随意契約によることとした会計法令の根拠条文及び理由(理由は、具体的かつ詳細に記載すること。また、企画競争又は公募手続きを行った場合には、その旨を記載すること。)

⑩ 所管する公益法人と随意契約を締結する場合に、当該法人に国の常勤職員であったものが役員として、契約を締結した日に在職していれば、その人数

⑪ その他必要と認められる事項

(予定価格が法令第99条第2号、第3号、第4号又は第7号のそれぞれの金額を超えないものを除く)

(注)3 契約の種類欄については、一般競争=「一般」、指名競争=「指名」、随契のうち企画競争=「企画」、随契のうち公募=「公募」、その他の随契=「随契」について記入する。

(注)4 調達基準及び公表基準を国の基準に合わせることであり、当一覽表に掲載されることとなったものについては、備考欄に○を付す。

(注)5 随意契約の見直しにより、21年度以降、一般(又は指名競争入札)に移行するものについては、備考欄に◎を付す。

(注)6 応募に当たり、当該契約内容に関して実務経験者の在籍の有無又は契約(請負)実績の有無を条件としたものについては、備考欄に▲を付す。

(注)7 調達公益法人との契約については、備考欄に「調達」と記載する。

1者応札の割合 平成20年度		単位:件、円	
1者	件数	81	60.00%
	金額	931,028,779	13.48%
2者以上	件数	54	40.00%
	金額	5,976,342,609	86.52%

<添付資料# 21-3>

「随意契約見直し計画」の達成状況について

平成20年度の「競争性のない随意契約」の実績は、「見直し計画」の24件、9.71億円に対し34件、3.17億円となっており、金額ベースでは達成したものの、件数ベースでは未達成になっている。

件数ベースにおいて、計画を達成していない要因と取組方針は以下の通り。

・要因：

「随意契約見直し計画」において、「随意契約によらざるを得ない」として整理済みのもの(19件、199,319千円)以外のものについて、下記の理由で随意契約せざるを得なかったことによる。

1. 単年度契約の更新を前提とした複数年年度契約

リース契約等、単年度契約の更新を前提とした複数年年度契約を締結していたため、競争入札に移行するには契約更改時期を待たざるを得なかったもの

・・・6件、9,867千円

2. 電子顕微鏡の緊急修理

故障発生時の対応など、機器の保守契約の仕様を検討中であり、平成20年度は随意契約とせざるを得なかったもの

・・・1件、1,554千円

3. 研究実験施設等実施設計業務

前年度以前に公募型プロポーザル方式により業者選定された契約と密接に関連する設計意図伝達業務であり、随意契約とせざるを得なかったもの

・・・4件、39,459千円

4. 施設整備に係る工事監理業務

前年度に公募型プロポーザル方式により業者選定された契約と密接に関連する業務で、当該公告資料にて随意契約する対象として事前に公表済みであり、随意契約とせざるを得なかったもの

・・・4件、67,515千円

・今後の取組方針

1. について

要領「複数年契約の取扱について」を平成20年度末に整備した。平成21年度以降は、本要領を活用することにより、単年度契約の更新による複数年年度契約は原則として行わない。

2. について

機器の運用保守のあり方を引き続き検討する。

3、4. について

上記の理由から、引き続き随意契約とせざるを得ないが、仕様を検討し、関連する業務の一括発注等により契約件数の削減を図ることができないか検討する。

以上

<添付資料# 21-4>

総務省政策評価・独立行政法人評価委員会による二次評価（契約の適正化に係るもの）
（平成21年1月）の指摘内容を踏まえた対応に関して

1. 契約に係る規定類に関する評価結果

・「独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構契約事務取扱規則」（平成17年9月1日平成17年規則第4号）において、随意契約要件として「その他理事が随意契約とする特別の事由があると認めるとき」と具体的に定められていない条項がある。
→包括的随意契約条項を削除（平成21年3月31日）

・同事務取扱規則において、随意契約要件として「国、地方公共団体その他の公益法人と契約するとき」とあり、契約の内容等の範囲を限定せずに、公益法人であることのみを要件として随意契約を行うことができるとする条項がある。
→公益法人随契条項について、規定の表現を国に合わせるよう改正（平成21年5月15日）

・同事務取扱規則において、予定価格の作成の省略に関する取扱いのうち金額に係る基準（200万円未満）を国の金額基準（100万円以下）より高く設定している。
→予定価格調書の省略基準額について、規定の表現を国に合わせる（200万円未満→100万円以下）よう改正（平成21年3月31日）

2. 平成19年度における一般競争入札における1者応札件数等について

・①平成19年度における一般競争入札のうち応札者が1者の件数が2者以上の件数を超過（1者応札率が50%を超過）している、かつ、②本法人の1者応札率について本法人が該当する法人類型の平均の1者応札率を超過している。一般競争入札は契約の競争性・透明性を高めるという意義を有するものであり、特に、1者応札率が高い法人については競争性・透明性の確保の理由等の説明を踏まえた検証が必要であると考えますが、評価結果において言及されていない。

○一般競争入札における1者応札件数、金額

単位：件、千円

平成19年度		平成20年度		対前年比	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
40件	5,833,699	81件	931,029	+41件	-4,902,670
57.1%	74.2%	60.0%	13.5%	102.5%	-84.0%

2-1 1者応札となった主な要因（理由別の内訳）

平成20年度の契約実績では、競争入札に付した案件135件のうち、1者による入札が81件（割合：60.0%）であった。1者入札となった要因は次の通り。

①【研究機器類の購入 42件】

・専門的・先端的な研究機器類のメーカーは、代理店制度を採用している場合が多い。沖縄地区で代理店として指定されているのは多くの場合1者となるため、必然的に1者による入札となることがある。

②【保守契約の更新 14件】

・研究機器の保守契約については、納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できない状況にあるため。

③【研究業務委託契約等の継続案件 7件】

・前年度以前からの継続案件で、新規に参入する業者が参加に消極的になってしまうため。

④【その他の理由によるもの 15件】

・上記以外の理由（要求する仕様を満たすことのできる業者が1者のみ等）。

2-2 1者応札への対応方針

方策については、平成21年5月「1者応札・1者応募に係る改善方策について」を策定・公表した。

・公告期間の十分な確保

過去に1者応札・1者応募となった契約で、引き続き同様の結果が想定されるもの、及び、新規の案件でもあっても競争参加者が少数であると見込まれるものは、原則として、開構日で10日間以上の公告期間を確保する。

・電子入札・開札システムによる調達情報提供の推進

平成21年度中に、電子入札・開札システムを整備する。公告内容をシステムに登録することにより、応札希望者がインターネットから閲覧できるとともに、仕様書を含む入札説明書等がインターネットからダウンロードできる機能を提供、応札希望業者の利便性向上を図る。

・適切な発注単位の設定

当該業務が適切な発注単位となっているか検討を行い、区分調達への移行を検討するなど、調達コストも考慮しつつ、競争性の確保を図る。

・複数年契約の推進

設置業者・開発業者以外の参入が難しいものについては、単年契約が望ましいと認められるものを除き、リスクを考慮した上での長期的な企業判断を可能とするため、複数年契約の一層の推進を図る。

・その他

以上のほか、事業者へのヒアリングや調達に関する第三者委員会における審議を活用して、引き続き、実質的な競争性を阻害している要因の把握・分析を行い、当該要因の改善策について検討を行う。

	現行	改正
第31条	<p>(Cases when Negotiated Contracts Can Be Used 随意契約によることができる場合)</p> <p>Article 31 第31条</p> <p>1. Negotiated contracts specified in Article 17 of the Accounting Regulations can be used in the following cases.</p> <p>会計規程第17条に規定する随意契約によることができる場合は、次に掲げる場合とする。</p> <p>(1) - (12) 【省略】</p> <p>(13) In other cases when the Executive Director deems there is special reason for using negotiated contracts</p> <p>その他理事が随意契約とする特別の事由があると認めるとき</p>	<p>(Cases when Negotiated Contracts Can Be Used 随意契約によることができる場合)</p> <p>Article 31 第31条</p> <p>1. Negotiated contracts specified in Article 17 of the Accounting Regulations can be used in the following cases.</p> <p>会計規程第17条に規定する随意契約によることができる場合は、次に掲げる場合とする。</p> <p>(1) - (12) 【省略】</p> <p>(13) 号削除</p>
第33条	<p>(Omission of Estimated Price Statements 予定価格調書の省略)</p> <p>Article 33 第33条</p> <p>The provisions of Article 11 apply mutatis mutandis to negotiated contracts. However, the preparation of Estimated Price Statements may be omitted under the following circumstances.</p> <p>第11条の規定は、随意契約の場合に準用する。ただし、次に掲げる場合は、予定価格調書の作成を省略することができる。</p> <p>(1) Negotiated contracts for items for which it is deemed impossible or extremely difficult to conclude contracts without relying on a designated transaction price because the transaction price is determined by law or for other special reasons.</p> <p>法令に基づいて取引価格が定められていることその他特別の事由があることにより、特定の取引価格に上らなければ契約をすることが不可能又は著しく困難であると認められるものに係る随意契約</p> <p>(2) For negotiated contracts with an estimated price under ¥2.0 million when omitting the estimated price calculation on Estimated Price Statements or other written documents does not pose any problems.</p> <p>予定価格が二百万円未満の随意契約で予定価格調書その他の書面による予定価格の積算を省略しても支障がないと認められるもの</p>	<p>(Omission of Estimated Price Statements 予定価格調書の省略)</p> <p>Article 33 第33条</p> <p>The provisions of Article 11 apply mutatis mutandis to negotiated contracts. However, the preparation of Estimated Price Statements may be omitted under the following circumstances.</p> <p>第11条の規定は、随意契約の場合に準用する。ただし、次に掲げる場合は、予定価格調書の作成を省略することができる。</p> <p>(1) Negotiated contracts for items for which it is deemed impossible or extremely difficult to conclude contracts without relying on a designated transaction price because the transaction price is determined by law or for other special reasons.</p> <p>法令に基づいて取引価格が定められていることその他特別の事由があることにより、特定の取引価格に上らなければ契約をすることが不可能又は著しく困難であると認められるものに係る随意契約</p> <p>(2) For negotiated contracts with an estimated price under ¥1.0 million when omitting the estimated price calculation on Estimated Price Statements or other written documents does not pose any problems.</p> <p>予定価格が百万円未満の随意契約で予定価格調書その他の書面による予定価格の積算を省略しても支障がないと認められるもの</p>
第31条	<p>(Cases when Negotiated Contracts Can Be Used 随意契約によることができる場合)</p> <p>Article 31 第31条</p> <p>1. Negotiated contracts specified in Article 17 of the Accounting Regulations can be used in the following cases.</p> <p>会計規程第17条に規定する随意契約によることができる場合は、次に掲げる場合とする。</p> <p>(1) When the nature or purpose of the contract does not permit competitive bidding</p> <p>契約の性質又は目的が競争を許さないとき</p> <p>(2) When competitive bidding cannot be used because of urgent necessity</p> <p>緊急の必要により競争に付することができないとき</p> <p>-省略-</p> <p>(8) When concluding contracts with the central government, regional governments, local government bodies, or other public corporations</p> <p>国、地方公共団体その他の公益法人と契約するとき</p> <p>(9) When concluding contracts overseas</p> <p>外国で契約するとき</p>	<p>(Cases when Negotiated Contracts Can Be Used 随意契約によることができる場合)</p> <p>Article 31 第31条</p> <p>1. Negotiated contracts specified in Article 17 of the Accounting Regulations can be used in the following cases.</p> <p>会計規程第17条に規定する随意契約によることができる場合は、次に掲げる場合とする。</p> <p>(1) When the nature or purpose of the contract does not permit competitive bidding</p> <p>契約の性質又は目的が競争を許さないとき</p> <p>(2) When competitive bidding cannot be used because of urgent necessity</p> <p>緊急の必要により競争に付することができないとき</p> <p>-省略-</p> <p>(8) When concluding contracts with the central government, regional governments, local government bodies, or other public organizations</p> <p>国、地方公共団体その他の公益法人と契約するとき</p> <p>(9) When concluding contracts overseas</p> <p>外国で契約するとき</p>

新旧対照表(契約事務取扱規則)

2009年5月15日

第1回 調達に関する第三者委員会 議事要旨

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構

1. 日時 2008年6月30日 9時～11時
2. 場所 日比谷国際ビル14階 第7会議室
3. 出席委員 郷原委員、渡邊委員、楠委員、知念委員、野里委員、大久保委員
4. 議事概要

○ 委員会の設置について

事務局より、本委員会の設置趣旨・目的について説明をおこなった。

○ 委員長の互選

「沖縄科学技術研究基盤整備機構調達に関する第三者委員会設置要領」第3条第2項の規定に基づき、本委員会委員による互選を行い、郷原委員が委員長に選出された。

○ 委員長代理の指名

「沖縄科学技術研究基盤整備機構調達に関する第三者委員会設置要領」第3条第4項により、郷原委員長が委員長代理として渡邊委員を指名し、了承された。

○ 議題

(1) 機構概要について

機構概要について、事務局より説明を行った。

(2) 旧白雲荘工事の概要について

旧白雲荘の改修工事の随意契約をめぐる一連の経緯概要、その後の対応について、事務局から説明を行った。機構の契約手続きの適切性・透明性をさらに高めて行くという点について、本委員会の有効活用が確認された。また、沖縄振興と経済性の問題が議論され、そのバランスや地域経済への配慮については、十分な透明性を求められることが指摘された。

(3) 平成19年度下期の契約案件について

平成19年度下期の契約案件について、事務局より説明を行った。

① 工事関連

審議案件については以下のとおり。

- シーサイドビラ新営その他工事(その1)
- 基幹環境整備(橋梁上部工)(その2)
- 施設整備に関わる工事監理業務

✓ 「基幹環境整備(橋梁上部工)(その2)工事」について

- 総合評価落札方式によって、技術提案の評価を含めた総合点で業者を決定している。結果的に、優秀な架設計画を提案したところが総合点で落札した点について確認された。
- 総合評価方式をやったことの効果を上手に見せていくことが必要なので、初期建設費は必ずしも最低ではなかったが、トータルで見た場合、環境アセスメントの良い技術提案をしたところが落札したという点を国民が知りたいところ。プロセスと結果を積極的に公表した方がよい。

✓ 「研究棟1センター棟新営工事のその1」について

- 本件、審議案件とはなっていないが、予定価格が約50億円規模の工事が1社入札されて、そこで簡易型の総合評価方式を実施し、その1社が落札している。入札公告に対して、13社が資料要求をしているが、なぜ、1社入札になったのかの背景確認がなされた。
- 発注側としては、全部きちんと適正かつ透明なプロセスを踏み、こういう事情になったのだという所までは、説明責任がある。
- こうような50億規模で非常にウェイトが大きい、一般競争やっても1社しかなく、落札額がこれだけというようなものを見たときに、資材の高騰状況や1万5千平米相当の研究施設の実績経験を現場管理者の条件に付したことなどの経緯を聞けば、なるほどと思うが、それを聞かなければ、外部の人間はまずここに目がいくので、本委員会では、こういうところをピックアップして審議すべきである。こういう場での議論が責任説明の一環になるのでそれを公表していくべき。

② 物品・役務関連

審議案件については、以下のとおり。

- 諸外国における大学院大学等に関する調査業務委託
- 振動刀マイクローム1式の購入
- ゲノムシーケンサーシステムの購入
- 計算科学基盤支援サーバー1式の購入

✓ 「諸外国大学院大学に関する調査業務委託」について

- 企画コンペを実施しているが、結果的に1社のみの応募となっている。公告はしているものの、このようなケースでは、事前に調査可能と想定できる複数の機関に案件を連絡した方がよい。

(4)平成20年度の調達計画について

平成20年度の調達計画について、事務局から説明を行った。委員から、工事金額規模等の確認があった。

✓ 「研究棟1の新営エレベーター工事」について

- エレベーターは、民間用と公共用とでは、価格水準が違うので、予定価格の設定時は慎重に検討すること。
- エレベーター関連の契約は、これまでの事例から、エレベーターの保守が鍵となる。
- エレベーター保守の仕様書は、事故を起こしたかどうかではなく、きちんとした保守ができるか否かをチェックできるような記述にしておくことが必要。
- エレベーター保守については、独立系に任せるのがいいのか安くても、もしくは高くてもエレベーターの子会社にやらせて安全性を万全にするのがいいのか、という選択の問題になってくる。事故が起きて生命身体に大きな問題が生じてからでは遅い。

(5)次回の日程について

事務局から、次回の日程及び場所について説明を行った。場所は、沖縄恩納村、時期は、2009年2月下旬。

Third-Party Committee on Tenders and Contracts
 Proceedings of Meeting #2 (Summary)

第2回 調達に関する第三者委員会 審議概要

Independent Administrative Institution
 Okinawa Institute of Science and Technology (OIST) Promotion Corporation
 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構

- Date and time: Friday, March 6, 2009; 3:00 p.m.–5:30 p.m.
 日時 2009年3月6日(金曜) 15時～17時30分
- Location: Conference Room #1, Central Office (Onna-Son, Okinawa)
 場所 機構本部(沖縄県恩納村) 第1会議室
- Members attending: Committee Chairperson Gohara and Committee Members Chinen, Nozato, and Okubo
 出席委員 郷原委員長、知念委員、野里委員、大久保委員
- Tenders and contracts under discussion: Those from April 1, 2008, through September 30, 2008
 審議対象期間 2008年4月1日～2008年9月30日における調達案件
- No. of agenda items: 10
 審議案件 10件
- Responses to Member opinions and questions: As outlined below.
 委員からの意見・質問に対する回答等 以下のとおり。

Opinion/Question 意見・質問	Response 回答
Agenda Item 1: (General Competitive Bidding) Building management and janitorial services for the research laboratories in Uruma City 【審議案件1】(一般競争入札) うるま市研究施設の建物管理及び清掃業務	
How many companies are there in Okinawa that can handle orders for janitorial services? Why did only one company submit a tender? 県内の清掃業者で受注の可能性のある	About five companies submit tenders for general janitorial services contracts. With this contract, however, the janitorial services included special services because the facilities in

業者は、何社ぐらいあるのか。なぜ、1社 応札になったのか。	question are research facilities. My guess is that we received only one tender because these special services were required. 一般の清掃の入札では、5社ぐらい応札してきます。本件は、研究施設ですので、特殊な業務が含まれていることから、結果的に1社になったと推察しています。
Were there any inquiries regarding the tender notice? 入札公告に対する照会があったのか。	There were no inquiries except for the one from the company that submitted a tender. 応札した1社を除いてありませんでした。
Were any restrictions set on the qualifications required to participate in the bidding? 入札参加資格要件は、制限はしなかったのか。	We set the following qualification: Bid participants must have been awarded a rating of C or higher in "Provision of Services, Etc." under the Unified Qualifications for Participating in Central Government Tendering Procedures. 国の全省庁統一資格、役務の提供「C」ランク以上、という資格を設けました。
Did you consider requiring that bidding participants have experience in the maintenance of special facilities? この参加資格に、特殊な施設のメンテナンス実績のある業者という要件を設けるということは検討しなかったのか。	We were concerned that setting the requirement that service providers have experience in research facilities maintenance would narrow the qualifications for participating in the competitive bidding and thus constitute unfair restriction of competition. That is why we did not set that condition. 研究施設の整備を行った実績のある業者という条件を設定すると、競争参加資格を縛ることになり、不当な競争の制限となるのではないかと懸念し、要件は設定しませんでした。

<p>On the other hand, if a bid were tendered by a service provider that offered slightly lower-level services than the one who won the bid, it could set off a huge mess. It often happens in such a case that the price drops to about 60 percent, but then quality becomes an issue. Actually, it is said that setting appropriate specification requirements ensures conditions for proper competition. It is quite difficult to set the requirements. I cannot categorically say that you should set them immediately, but this issue needs to be carefully considered next fiscal year.</p> <p>逆に、もし落札した業者以外で、もう少し低いレベルの業者が応札してきたら、無茶な叩き合いになる。60%ぐらいまで落ちて、質が問題になることもよくある。むしろ、仕様要件が適正に設定されていた方が、競争の場が確保されるということが言える。その要件の設定の仕方は結構難しい。直ちに設定した方がよいとは断言できないが、来年度はよく検討する必要があるだろう。</p>	<p>I see. 了解しました。</p>
<p>Agenda Item 2: (General Competitive Bidding) Commissioned work in laboratory animal rearing 【審議案件2】(一般競争入札) 実験動物飼育管理委託業務</p>	
<p>Why is the ratio of the contracting price to the estimated price 100 percent when only one company tendered a bid? 1 社応札で落札率が 100%というのはなぜか。</p>	<p>This contract is for the rearing of laboratory mice since the establishment of the OIST Promotion Corporation, and it includes the mouse care supervisor and those involved in rearing the mice. The specifications</p>

	<p>are the same as in other years, and the estimated price is calculated using the same unit price and volume. As a result, the ratio is 100 percent. 機構の設立時からのマウスの飼育管理であり、マウスの取扱主任者・管理従事者を含んでいます。例年同じ仕様ですので、同じ単価、数量ベースで予定価格を積算すると、結果的に 100%となりました。</p>
<p>Having the ratio of the contracting price to the estimated price be 100 percent does not give a good impression. It would be better to create some appropriate reason and shift it to a negotiated contract if it is hard to replace a service provider once a contract is formed with them. On the other hand, if the contract is changed to bidding, the conditions must be such that other service providers can also participate. 落札率が 100%というのは印象が良くない。1 回契約すると、なかなか交代してもらおうのは難しいとすれば、それなりの随意契約理由を作って、随契にした方がよいのではないか。逆に、入札にかえるのであれば、他の業者も入ってくる条件というか、ものでないといけない。</p>	<p>We will consider your point carefully.よく検討します。</p>
<p>This bidder was successful in the second bidding. Does this service provider know at the time of the second bidding that they are the only company submitting a bid? Does the price end up staying the same because there is no competition?</p>	<p>We have bidding participants come to the Central Office in Okinawa to submit their bids. It is clear that there is only one bidder when you enter the room where the bidding is to take place. 沖縄の機構本部に来てもらって入札しています。1 社のみということは、入札会場</p>

2 回目の入札で落札となっているが、1 社しかいないということが、2 回目の時点でこの業者は分かっているのか。競争者がいないから、同じ金額になってしまうのか。	に入った時点で分かります。
Are the bids submitted on paper? Isn't there electronic bidding? 紙による入札か。電子入札ではないのか。	Bids are submitted in writing. From April 2009, we will start preparations to introduce electronic bidding with the aim of launching electronic bidding in September that year. 書面での入札です。電子入札は、2009 年 4 月から導入準備に着手し、同年 9 月開始を目途にしています。
If you make it impossible to know what companies are submitting tenders at the second bidding, the result may be that the ratio of the contracting price to the estimated price is not 100 percent. Having both paper-based and electronic bidding would be effective in this regard. 2 回目でどこが応札するか分からない環境にすれば、100%という結果にはならないかもしれない。電子入札との組み合わせは有効だ。	We agree. そのように思います。
Agenda Item 3: (Overall Greatest Value Method of Bid Evaluation) Construction work for new electricity facilities (#1) at Laboratory 1 and the Center Building of the Okinawa Institute of Science and Technology (tentative name) 【審議案件3】(総合評価落札方式) 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟新営電気設備工事(その1)	
Does this mean, then, that in the end the service provider who submitted the lowest bid ranked first under the OGVM as well? これは、結局、最終的には一番低い額で	That's right. In this case, the service provider who ranked first both in the technical hearing and based on price was the successful bidder. その通りです。本件は、技術ヒアリングの

応札した業者が、総合評価でも1位ということか。	結果も、金額の結果も、両方1位を取った業者が、そのまま落札しました。
How many service providers expressed interest in the contract? How many submitted bids? 興味を示した業者は何社か。応札した業者は何社か。	Eighteen service providers expressed interest. Seven wanted to participate. At the hearing, one service provider was disqualified because that service provider was not appropriate in terms of construction work procedure and schedule setting. 興味を示した業者は18社ありました。参加を希望した業者が7社、ヒアリングにて、1社が工事の手順・工期設定が不適切として欠格となり、最終的に6社が入札参加業者となりました。
Both single companies and joint ventures can participate in the bidding. Was it not possible to limit it to joint ventures? In light of the state of the Okinawan economy, wouldn't it be better to think about finding some way to increase opportunities for local companies to participate? 単独企業でも共同企業体(JV)でも参加可能となっているが、共同企業体に限定することはできなかったのか。やはり、沖縄経済を考えたら、何らかの格好で地元企業の参加の機会を増やすことを検討した方がいいのではないか。	Initially we considered including "must form joint venture" on the tender notice. However, materials that the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) sent to universities in fiscal 2006 and 2007 included a directive that we write not "must form joint venture" but "single companies also included." 当初、「JV を必ず組むこと」という形で公告を検討しました。その際、18年度か19年度に文科省から各大学に対して送付された資料の中で、「JV に限定した組み合わせ」ではなく、「単体も含む」という記述を含めること、という指示がありましたので、限定するのも良くないのではないかと判断し、単体でも JV でも参加可能としております。

Agenda Item 4: (Overall Greatest Value Method of Bid Evaluation) Construction work for new machinery and equipment (air-conditioning) (#1) at Laboratory 1 and the Center Building of the Okinawa Institute of Science and Technology (tentative name) 【審議案件4】(総合評価落札方式) 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟 新営機械設備(空調)工事(その1)	
Is there any comparative difference between this air-conditioning work and the electric work in the previous agenda item? この空調に関しては、比較的、差がついているのか。	The exact same method is being used here as in the previous electric construction work project. The ratio of the contracting price to the estimated price is comparatively low at 68 percent. The bidding was competitive with all six participants submitting bids that were below the reference price used for investigating low tenders. 本件は、前述の電気工事と全く同じ方式です。落札率が68%とかなり低く、6業者全てが低入札調査基準価格を下回る競争的な入札でした。
Agenda Item 5: (General Competitive Bidding) Support operations for international workshops (airline tickets) 【審議案件5】(一般競争入札) 国際ワークショップ開催支援業務(航空券)	
(No questions/opinions) (質問・意見なし)	
Agenda Item 6: (General Competitive Bidding) Construction work for new elevators at Laboratory 1 of the Okinawa Institute of Science and Technology (tentative name) 【審議案件6】(一般競争入札) 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1新営エレベータ工事	
How did you set the reference price used for investigating low tenders? 低入札価格は、どのように設定したのか。	The estimated price is the sum of the direct construction cost and miscellaneous costs. The direct construction cost is the reference price used for investigating low tenders. 直

	接工事費と諸経費を合わせたものが予定価格になるのですが、直接工事費の部分が低入札価格に相当します。
Is this contract separate from the maintenance contract? 本件は、メンテナンス契約とは別か。	Yes, it is. 別です。
Will there be bidding? 入札になるのか。	Yes. その通りです。
About five years ago, I believe, the Japan Fair Trade Commission, or JFTC, issued a cease-and-desist order against Mitsubishi Electric Building Techno-Service Co., Ltd. The JFTC also recommended to local governments and other public institutions that they use competitive bidding for elevator maintenance, rather than using negotiated contracts. There was later an elevator-related accident in Minato City, Tokyo. Because of that accident, Minato City reviewed its competitive bidding and shifted to a negotiated contract. Safety is everything. General policy, therefore, may not have changed yet, but it should be heading toward a review. Actually, it would be best to bundle elevator equipment and maintenance together and conduct bidding and contracting for them together. A contract should be formed with the cheapest service provider whenever possible, but we must look closely at the quality of the maintenance work. It is important to put care into drafting the specification requirements.	Thank you for your comment. 了解しました。

<p>確か 5 年くらい前に、公正取引委員会が三菱ビルテクノに対して、排除命令を出した。また、自治体等の公的機関に、エレベータのメンテナンスは、随意契約をせず、競争入札を行うよう勧告した。その後、東京都港区で事故が起きた。港区は、その事故を機に競争入札を見直し、随意契約にした。安全には代えられないということだ。だから、一般的な方針は、まだ変わっていないかもしれないが、見直しの方向にあるはず。本当は、設備とメンテナンスとセットで入札・契約することが一番望ましい。できるだけ、安いところと契約をしなければいけないけれども、保守業務の質を見極めること。仕様要件を工夫することが重要だ。</p>	
<p>Agenda Item 7: (Negotiated Contracts) Publications (electronic journals: Elsevier's ScienceDirect) 【審議案件7】(随意契約) 図書(電子ジャーナル:エルゼビア Scientific Direct)</p>	
<p>Elsevier is a foreign company. How is the exchange rate being calculated? 本件、海外企業だと思うが、為替はどのように計算するのか。</p>	<p>The contract is denominated in yen. 円建て契約です。</p>
<p>Of course, the estimated price should not be set at 100 percent even with negotiated contracts. 随意契約でも、予定価格を立てるときには、当然 100%ということにはならないはずだが。</p>	<p>We have no choice but to purchase electronic journals from overseas companies by negotiated contract. ScienceDirect is only distributed by Elsevier of the Netherlands so it is very hard to survey prices. As a result, we set the estimated price at the same figure as that indicated in the estimate from Elsevier. 海外との電子ジャーナルの購入は、随意契約やむなしという整理がされております。オランダにあるエルゼビア社のみか</p>

	<p>らの提供ですので、価格の調査が非常に難しく、結果的に、エルゼビア社から出てきた見積書価格をそのまま予定価格に設定しました。</p>
<p>Agenda Item 8: (Negotiated Contracts) Execution design (#3) for research laboratory facilities at the Okinawa Institute of Science and Technology (tentative name) 【審議案件8】(随意契約) 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究実験施設等実施設計業務(その3)</p>	
<p>Is this design work? Isn't it supervision work? これは設計業務ですか。監理業務ではないのか。</p>	<p>The execution design is part of supervision and control operations during the building stage. It includes communicating detailed matters regarding design intent, such as the ideas that the designer incorporates in the design drawings and specifications. Regarding execution, we decided that only the service provider who performed the design work could properly execute the design because execution is an extension of design. We applied Article 31: "Cases when Negotiated Contracts Can Be Used" of our Contract Management Stipulations. 施工段階の監理業務、監督業務の一部で、設計者が設計図書に託した考えなど、詳細な部分を伝える、「設計意図伝達業務」です。実施に当たっては、設計行為の延長として、設計業務の受託業者のみが正確に遂行できるものと判断し、契約事務取扱規則 31 条の「随意契約によることができる場合」を適用しました。</p>
<p>Does this mean it is different from regular construction work supervision?</p>	<p>It is completely different from regular construction work supervision.</p>

<p>ということは、通常の「工事監理業務」とは違うものか。</p>	<p>全く別な業務です。</p>
<p>Agenda Item 9: (Negotiated Contracts) Supervision of construction work related to facilities development (#2) at the Okinawa Institute of Science and Technology (tentative name) 【審議案件9】(随意契約) 沖縄科学技術大学院大学(仮称)施設整備に係る工事監理業務(その2)</p>	
<p>(No questions/opinions) (質問・意見なし)</p>	
<p>Agenda Item 10: (Negotiated Contracts and Public Recruiting) Setting conditions for the execution design for laboratories at Laboratory 1 and the Center Building of the Okinawa Institute of Science and Technology (tentative name) 【審議案件10】(随意契約・公募) 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟内 実験室実施設計に係る条件設定業務</p>	
<p>Until about a year ago, the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism frequently used the method of public recruiting. Now, however, it is almost never used. If you use it, it implies that the winner is completely decided and should not be challenged. It is commonly understood now that proposal competition should be used from the start. If public recruiting is good enough, then other service providers can do it. In that case, proposal competition should be used from the start. This is the way things are done nowadays. Even with this, there are many cases where only one company applies. But, public recruiting is not used now. You should look into this and consider whether it is appropriate starting from next fiscal</p>	<p>Condition setting is the stage prior to design work and is done at any time it is needed. The public recruiting-style proposal method (proposal competition) is used for one-year and other long-term contracts. For this project, the period from the issuance of the notice to contracting is short so we used the public recruiting-style method where service providers confirm their intention to participate in the bidding. We will check the situation and consider it, using your opinions as reference. この条件設定業務は、いわゆる、設計業務の事前段階としてやるものなので、その都度、必要に応じて行います。1年間等の長期で契約するものは、公募型プロポーザル(企画競争)方式を使います。本件は、公告から契約までの期間が短く</p>

<p>year. 国交省は、1年ぐらい前までは、このような公募方式を多くとっていたけれども、今はほとんどない。これをやると、完全にチャンピオンが決まっています、文句があるなら言ってこいよというような意味合いになるから、最初から企画競争をやるべきだという流れになっている。公募をするくらいだったら、他の業者でもできる。それだったら、最初から企画競争をやるというのが最近のやり方だ。それでも、1社しか応募してこない場合が多いけれども、この方式は今やっていない。そこを調べて、来年度からは適否を検討した方がよい。</p>	<p>なる、参加を確認する公募型を用いました。委員のご意見を参考にして、確認して検討します。</p>
<p>On the other hand, if indeed only that service provider can perform the work, then it should be done by negotiated contract from the start. 逆に、本当にその業者しかできないのだったら、最初から随意契約の方がよい。</p>	<p>With the public recruiting-style proposal method, forty or more days are needed from issuance of notice to contracting. With the public recruiting-style method where participation is confirmed, twenty days are needed. 公募型プロポーザル方式だと、公告～契約まで40日以上の間をとらなければならないのですが、参加公募の確認をするという方法では、20日間となります。</p>
<p>So you can cut the time in half? If that's the reason, then this kind of method is possible. It would be good to be able to reduce the time even a little. 半分に短縮できるということか。そういう理由があれば、こういう方法もあり得る。少しでも短縮できたらよい。</p>	<p>We adopted this method because the deadline for the work is set. Nonetheless, we want to consider this matter, using the opinions you expressed today as reference. 業務の締め切りが設定されている背景があつてこの方法を採用したのですが、本日の委員のご意見を参考にして検討したいと思います。</p>

契約の合規性等に係るチェックプロセスについて (契約審査・監視体制) About checking process concerning proper procedure and compliance of contracts

単位: 件
Unit: Case

審査・監視組織名 Organization name	設置時期 (年月)	構成員 Member	設置根拠規定等 Regulation	審査・監視の 対象となる契約 Kind of contracts	審査案件の全 部又は抽出審 査の別 All check or Sampling check	審査時期 Time to check	開催回数 (回/年 度) frequency	審査件数 (件/年 度) number of checking case	(内訳) 一般競争 Price Bidding	(内訳) 指名競争 Eliminated Bidding	(内訳) 総合評価 OGVM	(内訳) 企画競争 Competiti ve Bidding	(内訳) 公募 Qualified Bidder Identifica tion	(内訳) 競争性のない 議決契約 Non- competitive negotiated contract	(内訳) その他 Others	備考 Remarks
調達に関する第三者委員会 Third-Party Committee on Tender and Contracts	平成20年6 月	民間有識者 Outside learned expert	調達に関する第 三者委員会設置 要領 Detailed Stipulations for the Third Party Committee on Tenders and Contracts	機構における一般 競争入札(総合評 価方式を含む)及 び随意契約 Price bidding contracts including OGVM and negotiated contracts	抽出審査 Sampling	契約締結後 After conclude the contract	2	17	7	0	3	1	2	4	0	全契約リストから事務局が金額と形 態を考慮し審査案件候補を抽出し、 委員会開催前に委員の承認を得る。 Picked up by administrator from all contracts list considering amount and contract type, and the member approve the short list before the committee
監事監査 Auditor's Audit	平成17年9 月	監事 Auditor	監事監査規定 Audit regulations	機構における一般 競争入札(総合評 価方式を含む)及 び随意契約 Price bidding contracts including OGVM and negotiated contracts	抽出審査 Sampling	契約締結後 After conclude the contract	4	6	0	0	0	0	2	4	0	全契約リストから監事が任 意に抽出 Picked up by the auditor from all contracts list.
コンプライアンス担当 Compliance Officer	平成19年 11月	コンプライ アンス担当 Compliance Officer	組織規定 Organization Regulations	工事契約で、契約 額が1億円以上のも の Over 100Myen contracts regarding construction	対象となる もの全部 All	契約締結前 Before conclude the contract	随時 If necessary	10	5	0	5	0	0	0	0	

(OGVM: Overall Greatest Value Method)

<添付資料#2-1>

シーサイトハウス施設について

8.12.2009

開催日	期間(日数)	参加者数	シーサイトハウス 宿泊者数	シーサイトハウスの へ宿泊者数	イベント名
2008年4月6日-10日	5	66	4	28	第3回分裂と停止の細胞制御
2008年6月16日-7月3日	18	57	19	38	沖縄計算神経科学コース2008
2008年10月16日-18日	3	37	4	21	意思決定の神経科学における未解明の問題
2008年11月4日-6日	3	35	4	19	バイオロジーのマルチスケール現象
2008年11月17日-21日	5	62	6	35	勾配と情報伝達:化学定性から発生まで
2008年12月8日-12日AM	5.5	35	5	22	複合システム進化コース(コース&ワークショップ)
2008年12月12日PM-14日	2.5	41	2	28	複合システム進化コース(ワークショップのみ)
2009年3月5日-6日	2	50	2	36	MPS研究会
2009年3月9日	1	31	1	18	授業系及び観球運動系ワークショップ
2009年3月17日-20日	5	45	5	30	バイオハッカーソン2009
合計	50	459	52	275	

●建物の施設内に宿泊施設を有する理由:
 機密で主催するワークショップやセミナーは、国際的な科学者の参加を得て行われ、その研究データや講演資料、データに対応する必要があり、また学生と教員との間の集中的なやり取りが行われるものであることから、一般的な民間の宿泊施設においてサポートを提供することは困難である。上記のような条件に対応するには、7カチミツツな環境に特化した施設が最適である。シーサイトハウスは単なる宿泊施設ではなく、世界最高水準のワークショップを実現する環境を提供する本機密の基礎となる7カチミツツな施設である。

<添付資料#2-2>

主要な固定資産の状況①
 (平成20年度末)

No.	施設名等	独立行政法人名: 独) 沖縄科学技術研究基盤整備機構		所在地	合同形態	敷地	敷地面積 (㎡)	建面積 (㎡)
		区分	所 在 地					
1	シーサイトハウス	3	沖縄県国頭郡恩納村字恩納7542	1	1	51,866	1,071	
2	沖縄科学技術・交流センター改修工事(内 竣工等)	3	沖縄県うるま市州崎12-22	1	7	-	-	
3	沖縄健康バイオテクノロジー研究開発 センター(内竣工等)	3	沖縄県うるま市州崎12-75	1	7	-	-	
4	沖縄県工業技術センター(内竣工等)	3	沖縄県うるま市州崎12-2	1	7	-	-	
5	大学院大学建設予定地	3	沖縄県国頭郡恩納村(谷茶地区)	1	1	689,921	-	
6	トロピカルテラノセンター(内竣工等)	3	沖縄県うるま市州崎5-1	1	7	-	-	
7	シーサイト・ツカカサ・ハウス(内竣工)	3	沖縄県国頭郡恩納村字恩納7543	1	1	20,824	1,146	

独立行政法人会計基準及び「独立行政法人会計基準注釋」(平成17年6月29日改訂)における第11「有形固定資産」のうち、「(1)建物及び付属設備」、「(2)構築物」及び「(1)(1)土地」に該当するものに限る。18年3月31日時点(以下、別添の注がない限りすべて同様の状況について、以下の方針に基づき列挙する)と同一のNo.とする。

1. (その①)の設備は、(2)と(7)の材料費を「計」し、(2)に係る設備を「その他」、(1)に係る設備を「土地」に認識する。

2. (その②)と(7)の設備は、(1)に係る設備を「計」し、(2)に係る設備を「その他」、(1)に係る設備を「土地」に認識する。

3. 単一の区画である(7)の上に複数の(1)がある場合など、(7)を切り分けることができない場合
 ただし、この場合にも、(1)が(2)を伴う場合には、1.の処置に按ずるものとする。なお、記載にあたり、これ500㎡が記載したるものとする。

以下の番号を記入
 1: 東京都市圏内・中野区・港区区内
 2: 東京都市圏外(1)に該当するもの(東京23区外)
 3: 12及び13に該当しないもの

以下の番号を記入
 1: 敷地すべてが当該独立行政法人の保有
 2: 敷地すべてが国有
 3: 敷地の一部が国有(国有を除く)
 4: 敷地の一部を当該独立行政法人が保有し、残余は国有
 5: 敷地の一部を当該独立行政法人が保有し、残余は公有(国有を除く)
 6: 敷地の一部のみを当該独立行政法人が保有し、残余は私有
 7: 上記1~7いずれにも該当しないもの

以下の番号を記入
 1: 相互に抵当しない全ての建物等
 2: 同一所管府省内の2以上の独立行政法人が共同して使用する庁舎等
 3: 2以上の所管府省の2以上の独立行政法人が共同して使用する庁舎等

主要な固定資産の状況②
(平成20年度末)

No.	延面積 (㎡)	建築年次 (新)	建築年次 (古)	経年 (新)	経年 (古)	耐用年数	階層	法 規 制		利用率	
								用途地域	建ぺい率 容積率		
1	3,056	1991		18		35	地上3階	指定無し	指定無し	指定無し	-
2	-	-		-		4	-	-	-	-	-
3	-	-		-		5	-	-	-	-	-
4	-	-		-		5	-	-	-	-	-
5	-	-		-		-	-	-	-	-	-
6	-	-		-		15	-	-	-	-	-
7	1,388			0		47	地上2階	指定無し	指定無し	指定無し	-

「序章等主たる建築物について西暦にて記入(単一の場合、(新)の欄に記入)。建屋等のみの場合、代表的なものを記入。年次は暦年ペースとする。」

「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」(昭和四十年三月三十一日大蔵省令第15号)によるものとする

「主たる建物につき記」

「当面施設等の所在地における都市計画上の区分を記入。なお、法定容積率の異なる敷地上的庁舎については、面積による加重平均値を記入」

「延面積÷(敷地面積×容積率)の算式により機械的に算出」

主要な固定資産の状況③
(平成20年度末)

No.	合 築 等	B / S 価 格 (百万円)			正面路線 価(千円)	用途	保有目的	隣 接 庁 舎 名	耐震
		計	土地	建物					
1	-	840	249	497	94	5	1/5	1 (研究成果の普及、研究等養成活動、大学院大学設置準備活動)	-
2	-	125	-	58	67	-	9	1 (研究開発の推進)	-
3	-	25	-	25	-	-	9	1 (研究開発の推進)	-
4	-	206	-	206	-	-	9	1 (研究開発の推進)	-
5	-	1,782	1,782	-	-	-	9	1 (大学院大学施設整備)	-
6	-	16	-	16	-	-	9	1 (研究開発の推進)	-
7	-	713	100	550	63	5	8	1 (大学院大学施設整備)	-

「18年1月1日時点の粗経年総額(18年3月公算)を記入(ただし、空港等経年総額の不明な地点については、粗算経年総額を敷地面積で除した市價計算総額控除後ペースとする。」

「パラスメント(21年3月31日時点)に記載された経年の内数を記入。減価償却累計額控除後ペースとする。」

「以下に該当する場合には、3/6 といったように記入。」

1: 事務所
2: ホール
3: 会議所
4: 研修・教育施設
5: 宿泊施設
6: 展示施設
7: 未利用資産
8: 宿舍
9: 上記1~8いずれにも該当しないもの

以下に該当する場合には、3/6 といったように記入。
1: 事業用資産
2: その他の資産
また、()内に、当該資産と関連を有する事務・事業の名称を記載。

隣接する地方自治体等の庁舎等があれば記載

国土省が18年8月に公表した耐震診断結果を記入。診断を受けていない場合には空欄とする。(評定/程度)については、強度6強~、安全性の低い方から順にa, b, c, d と評定される)

<添付資料#24>

企業等からの寄附金について

1. 寄附金獲得に係る計画等記載内容

○第一期中期計画：企業等からの寄附金や競争的研究資金等の外部研究資金の獲得に努める。

○第二期中期計画：受託研究の収入や企業の寄附金の増大を図るとともに、競争的研究資金の獲得に努めるため、平成21年度より、競争的資金等の組織として獲得し得る外部資金についての合理的且つ定量的な目標を年度計画などに具体的に定め、戦略的な取組みを行なう。

○平成21年度計画：①平成21年度外部資金獲得の定量的目標

- ・ 寄附金等 2,000万円
- ・ 競争的研究資金 2,600万円
- ・ 受託研究の収入 900万円

②外部資金を獲得しようとする事務局及び主任研究者を支援するために、職員1名を専任とする。

(※競争的研究資金と受託研究に関しては、平成21年7月末現在、事業推進部研究支援課の職員2名が担当)

2. 機構に対する寄附金に係る優遇制度の概要

当機構は、平成17年度の税制改正により、設立当初より、法の定める特定公益増進法人の一つとされている。従って、当機構への寄附金は、税法上の優遇措置を受けることができる。

(個人寄附の場合)

寄附金を支出した日を含む年の確定申告の際、「寄附金振込み領収書」を提出することにより、当該寄附金の額(所得の40%を限度)から5千円を引いた額が所得税の課税所得から控除される。

(法人寄附の場合)

寄附金を支出した日を含む事業年度の確定申告の際、「寄附金振込み領収書」を提出することにより、当機構への寄附金は、他の寄附金とは別枠で損金の額に算入される。但し、限度額は(所得金額の5.0%+資本金等の額の0.25%)×1/2となる。

3. 寄附金の実績及び募集に係る取組み

現在(平成21年7月末)までのところ、寄附金募集の広報活動などの取組みは具体的には実施しておらず、収入の実績はない。

(今後の募集に係る取組みについては下記5を御参照。)

4. 今後の目標額及び具体的な取組みの方向性

第二期中期計画期間において、上記の21年度目標2,000万円に続き、22年度3,000万円、23年度5,000万円を目標としている。当面の具体的な取組みに関しては、下記5の通りであり、今後、人的体制の整備を進めつつ取組みを強化していきたい。

5. 平成21年度に実施する取組みの内容、予定時期

現在、国内外の企業や非営利組織など外部からの寄附金について、上記目標額を達成するため、当機構のユニーク性、想定されるスポンサーの属性やモチベーションを考慮し、機構を寄附先として魅力あるものとするための方途を検討中である。それを踏まえ、速やかに積極的なコミュニケーション活動を開始することとしている。その一つの手段として、21年度10月を目処に機構のウェブサイト寄附金募集の掲載を予定している。

6. 寄附金獲得に係る取組体制

所管部課：財務・人事部予算課

担当者：予算課長 予算課職員1名

〈添付資料#25-1〉

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

項目		内容	
指数の状況		対国家公務員 132.7	
	参考	地域勘案 学歴勘案 地域・学歴勘案	143.1 127.7 141.9
<p>国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由</p> <p>1. 本機構は、大学院大学の設置準備を主たる目的とし、大学院大学が設置された時には解散することとなっている過渡的な組織であることから、平成17年の設置以来、派遣職員、任期付職員等の活用により組織のスリム化に努めている。このため、限られた定年制職員については、基幹となる職員を中心に充て、定年制職員全体の給与水準は高くなる傾向にあった。</p> <p>2. 本機構は世界最高水準の自然科学系の大学院大学の設置準備を目的としており、理事長および運営委員にノーベル賞受賞の外国人を迎えている他、外国人研修者を多く採用している。このため、基幹となる職員には、英語能力や国際的水準の専門能力を有する人材を採用するとともに、これらの者については、能力主義の下、年齢にとらわれず配置している。また、こうした高度な人材を遠隔地で雇用する為に、給与水準に一定の配慮が必要である。</p> <p>職員の水準：民間等出身者(国/独法出身者以外) 11人 修士以上 6名、 一般建築士 1名、 英語能力 ネイティブレベル1名、 ビジネスレベル 2名</p>			
<p>給与水準の適切性の検証</p> <p>【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 99.9% (国からの財政支出額 19,566百万円、支出予算の総額 19,592百万円：平成20年度予算)</p> <p>【検証結果】 給与水準は国家公務員の水準を上回っているが、業務拡大による人員増の中、給与水準の低下に努めている。</p> <p>【累積欠損額について】 累積欠損額 0円(平成20年度決算)</p> <p>【検証結果】</p>			
支給総額に占める給与、報酬等支給総額の割合		14.60%	
講ずる措置		<p>管理職の割合「8人 67%」 大卒者以上の高学歴者の割合「83.3%」 平成22年度に見込まれる対国家公務員指数は年齢勘案125.1、年齢・地域・学歴勘案133.5となっており目標値としている。業務の実施に当たっては、派遣職員や任期付職員等の活用等により組織のスリム化や業務運営の効率化に引き続き取り組むとともに、大学院大学の設置に向けた業務の拡大に伴い新規採用を行うなかで、給与水準の低下が進んでいるところである。</p> <p>さらに、今後の新規採用者の給与レベルを国家公務員相当とすることにより、一層の給与水準の引き上げに取り組みこととしている。</p>	

<添付資料#25-2>

平成20年度における独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構の
福利厚生費について

1. 法定福利費について

健康保険、厚生年金保険、介護保険、雇用保険、労災保険の給付等※に充てるため、138,838千円を支出した。

※ 児童手当法第20条第2項に基づき納付することが義務付けられている児童手当拠出金

2. 法定外福利費について

役職員のための借上住宅に24,012千円、法定外健康診断費（人間ドック）に2,742千円、労働安全衛生法に基づく健康診断費用※1に1,486千円及び産業医委託料※2に600千円を支出した。

※1 労働安全衛生法第66条第1項の規定により実施することが義務付けられている健康診断

※2 労働安全衛生法第13条第1項の規定により置くことが義務付けられている産業医

3. その他

・ 福利厚生費の受給対象者数は常勤職員172名、非常勤職員11名（平成20年4月1日現在）であった。

・ レクリエーション関連費用はない。

・ 福利厚生に係る互助組織はない。

・ 福利厚生代行サービス※1及びカフェテリアプラン※2は実施していない。

※1 食堂・診療所等の福利厚生サービスを受託企業との契約により、提供すること。

※2 カフェテリアプランとは、従業員に費用と運動したポイントを付与し（例：1人あたり300ポイント、1ポイント＝200円）その範囲内で福利厚生メニュー（例：在宅身体介護補助、託児施設利用補助等）の中から選択させる制度

<添付資料#25-3>

平成20年度における独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構の
諸手当について

1. 住居手当について

(定年制職員)

①対象者

借家・借間又は自宅に居住する職員及び単身赴任手当受給者であって配偶者等が
借家・借間に居住する職員に支給

②支給額

- 借家・借間居住職員(月額12,000円を超える家賃を支払っている職員)
最高27,000円
- 住宅居住職員: 2,500円(自宅の新築・購入から5年間に限る)
- 配偶者等が借家・借間に居住する単身赴任手当受給職員: 最高13,500円

※国と同様の支給基準である。

(任期制職員)

①対象者

貸家・貸間又は自宅に居住する任期制職員で世帯主である職員に支給

②支給額

- 任期制職員が負担する家賃(2台までの駐車料金及び居住維持費を含む)の
月額5分の4に相当する額。ただし、職種により上限を次表に掲げる額とする。

職 種	月 額
代表研究者	160,000円
グループリーダー(研究員)	100,000円
研究員	60,000円
技術員	40,000円
研究補助員・事務員	40,000円

- 住宅居住任期制職員 : 2,500円(自宅の新築・購入から5年間に限る)

○国の支給基準との違いについて

任期制職員については、国内外から優秀な研究者等を確保するため、国際的に競争率のある待遇を提供する観点から上記の支給基準を採用している。

○今後について

借上げ住宅制度の在り方を含め、全面的な見直しを検討中である。

2. 役職手当について

①対象者

部長、課長、課長代理及びこれらと同等と認められる定年制職員に支給

②支給割合

本給の額に、下記支給割合を乗じて得た額

部長、課長	20/100
課長代理	8/100

○国の支給基準(注)との違いについて

機構発足時における国の制度にならい、定率制による支給基準を採用してきたものである。

(注) 国においては、年功的な給与処遇を改め、管理職員の職責等を端的に反映できるよう、民間企業において役付手当が定額化している実態も踏まえ、定率制であった俸給の特別調整額(役職手当)を、平成19年4月1日から定額制に移行した。

○今後について

他の独法の例を踏まえ、扶養手当等他の手当での取扱いと合わせ、今後検討していきたい。

3. その他の手当について

- 通勤手当、管理職員特別勤務手当、超過勤務手当、休日給及び単身赴任手当については、国と同様の支給基準を採用している。
- いわゆるボーナスについては、国のように、期末手当(定率支給分)と勤勉手当(勤務成績勘案支給分)の合算により支給するのではなく、期末手当のみの支給規定になっているが、支給額の算定の際には勤務成績を勘案することとしており、国の支給基準と同様の支給基準を採用している。
- 扶養手当は支給されていない。

<添付資料 #26>

OIST 研究ユニットの評価手順:

1. 理事長から代表研究者(PI)へスケジュールの通知、及び下記の資料を提出するよう依頼:
可能な限り早急に:
A. 研究プロジェクトのリスト
B. PI の研究がカバーする研究分野について見識のある評価委員の候補者 8 名までのリスト
C. 研究の進捗を最も良く反映する発表論文を 6 つまで(PDF フォーマットにて)
D. 研究室の面積、設備、所属員及び役割の説明(予算情報は事業推進部が別途準備)

その約 2 ヶ月後に下記を含む書類一式を評価委員に送付。

- A. 研究概要
 - B. 研究の背景
 - C. 当期の研究成果(全ての発表論文及び他の業績のリストを含む)
 - D. 来期の計画
 - E. 引用文献
 - F. 研究の進捗状況を最も良く反映する発表論文を 6 つまで(PDF フォーマットにて)。
 - G. PI、グループリーダーの履歴書。ポスドク、生徒は 2 ページのバイオスケッチ(NIH スタイル)。
 - H. 研究室の面積、設備、所属員及び役割の説明(予算情報は事業推進部が別途準備)
2. 推薦された評価委員会議長へ理事長から通知:
A. 評価委員会議長就任への正式依頼
B. 評価プロセスの主要な日程、及び手順
 3. 議長は評価委員会の委員を選任する。議長は PI から提出された候補者のリストから選出することも、外部から選出することもできる。評価委員は PI の研究分野において国際的著名な研究者でなくてはならない。評価委員会は議長を含む最低 5 名のメンバーから構成されるが、評価委員の追加検討も可能である。
 4. 議長及び委員による研究室の視察も可能である。
 5. 研究室視察の手配に係る事務サポート、及び他に必要となる運営サポートについては議長からのリクエストにより事業推進部が提供する。
 6. 議長は評価委員会の評価結果を書面にて理事長に提出する。

7. 評価委員会からの提案を考慮し、理事長は PI 及びユニット所属員の次の 5 年任期を更新するか否か判断する。
8. 理事長の決定が本人より PI に通知される。理事長の決定は最終決定であり、交渉の余地は無い。
9. 最終決定は PI の現 5 年契約終了日の最低 12 ヶ月前に PI に通知されなければならない。契約を更新しない場合において、契約終了日の 12 ヶ月前を切って通知された場合には、通知日から 12 ヶ月間契約を有効にするべく調整を行う。

スケジュール:

1-2 ヶ月目 PI 及び推薦された議長へ理事長から通知

PI は下記を提出:

- A. PI 研究プロジェクトのリスト
- B. PI の研究がカバーする研究分野について見識のある評価委員の候補者 8 名までのリスト
- C. 研究の進捗を最も良く反映する発表論文を 6 つまで(PDF フォーマットにて)
- D. 研究室の面積、設備、所属員及び役割の説明(予算情報は事業推進部が別途準備)

議長が評価委員を選任し、評価スケジュール、旅程を決定する。

OIST の事務局から評価委員会に評価手順を伝える。

3 ヶ月目 PI が下記を含む進捗報告書一式を提出:

- A. 研究概要
- B. 研究の背景
- C. 当期の研究成果(全ての発表論文及び他の業績のリストを含む)
- D. 来期の計画
- E. 引用文献
- F. PI、グループリーダーの履歴書。ポスドク、生徒は 2 ページのバイオスケッチ(NIH スタイル)。

5-6 ヶ月目 評価委員会が議長への報告書を作成
研究室視察

6-7 ヶ月目 評価委員会の提案が理事長に提出され、理事長の決定が本人より PI に通知される。

<添付資料#28>

施設整備費補助金等の繰越額が多いものの業務進捗に支障はない理由について

1. 20年度予算現額のうち2次補正予算を除いた予算については、契約率97%である。自然災害等の外的要因により第1研究棟・センター棟等の建設作業の中止や延期（特に鉄骨建方工事）が余儀なくされ、不測の日数を要した。後に続く外装、内装、設備工事等の完成に伴い所要経費を支払うことから21年度へ繰越した（繰越率56%）。
当施設は当初より21年度中の供用開始を見込んでおり、21年度末には供用開始ができる目処がたったことから、全体の進捗に支障はない。
2. 20年度2次補正予算については、その交付決定が年度末以降であったため、入札契約等の手続きについては21年度に行うこととし、全額繰越を行った。なお、第2研究棟は22年度完成予定であり、今回の繰越による全体の進捗には影響はない。また、基幹・環境整備等については、1.の理由と同様である。

平成20年度施設整備費補助金・設備整備費補助金予算執行状況

予算措置年度	整備内容	前年度繰越 予算額 (百万円)①	当初予算額 (百万円) ②	補正予算額 (百万円) ③	予算現額 (百万円) ④=①+②+③	交付決定 総額 (百万円)⑤	契約済金額 (百万円) ⑥	契約率 (%) ⑥/⑤	支払金額 (百万円) ⑦	支払率 (%) ⑦/④	繰越額 (百万円) ⑧=④-⑦	繰越率 (%) ⑧/④	不用額 (百万円) ⑧=④-⑦	主な 繰越 理由
前事業 年度	・基幹環境整備 ・研究棟1・センター棟 ・ファカルティハウジング ・造成工事	3,409			3,409	4,138	4,104	99	3,309	97	66	2	34	
19-20	研究棟1・センター棟 (2年国債)	1,512	2,004		3,516	3,516	3,516	100	1,290	37	2,226	63	0	
'20	・造成工事 ・基幹環境整備等 (単年度)		1,523		1,523	1,380	1,380	100	479	31	1,043	69	0	※1
20- 20・1次補	研究棟1・センター棟等 (2年国債)		2,759	1,840	4,599	4,599	4,310	94	1,659	36	2,940	64	0	
20・1次補	研究棟1・センター棟 (内装工事・設備工事等) 及び外構等(単年度)			2,728	2,728	2,728	2,528	93	151	6	2,577	94	0	
小計(20年度2次補正予算以外)		4,921	6,286	4,568	15,775	16,361	15,837	97	6,888	44	8,852	56	34	
20・2次補	基幹環境整備及び スライド条項対応 研究設備整備(単年度)			1,420	1,420	1,420	0	0	0	0	1,420	100	0	※2
20・2次補 -21-22	研究棟2 (3年国債)			2,838	2,838	7,095	0	0	0	0	2,838	100	0	
総計		4,921	6,286	8,826	20,033	24,876	15,837	64	6,888	34	13,111	65	34	

<添付資料33-1>

平成20年度 事務職員の採用活動

職名(採用枠)	申し込み	選抜候補者	スケジュール					備考
			公示	面接	オ フ ア ー	結果	雇用開始	
新卒者	32	10	2008年4月	10	1	採用	2008年4月	定年制職員1名
経理	25		2008年6月	3	2	採用	2008年4月、2009年4月	定年制職員2名(経理は2009年4月、調達は2008年4月)
総務事務員	20		2008年6月	6	2	採用	2008年10月、12月	定年制職員1名
設備グループ	9		2008年10月	3	3	採用	2008年7月、10月、2009年4月	定年制職員2名(出向職員1名)
人事	16		2008年6月	3	1	採用	2009年4月	定年制職員1名(2009年4月の時点)
IT	n/a			2	2	採用	2008年10月、12月	定年制職員1名
ワークショップ	47		2008年2月	5	1	採用	2008年4月	定年制職員1名(2008年4月の時点)
理事長室	17			8	2	採用	2008年9月、11月	
動物実験コーディネーター	5	1	2008年7月11日～	1	1	採用	2009年4月1日	
RI スーパーバイザー(1)	5	3	2008年10月6日～	0	0	-	-	選考過程において、一部の候補者(任期制職員)は契約更新に伴い個人面接はしないものとした。中途採用に関しては、平成21年度も引き続き採用活動を進めている。
遺伝子組み換え実験スーパーバイザー(1)	2	1	2008年11月7日～	1	1	不採用	-	
研究助成金コーディネーター(2)	22	5	2009年2月6日～	5	2	採用	2009年7月7日、26日	定年制職員1名

<添付資料 #33-2>

平成20年度 定年制職員 月別人数

平成20年4月	20名
平成20年5月	20名
平成20年6月	19名
平成20年7月	20名
平成20年8月	20名
平成20年9月	20名
平成20年10月	22名
平成20年11月	21名
平成20年12月	22名
平成21年1月	22名
平成21年2月	21名
平成21年3月	21名

定年制職員 採用活動・公告掲載状況

平成20年5月	ホームページ掲載
6月	県内大学への通知
7月	人材紹介会社① 人材紹介会社②
10月	人材紹介会社③
平成21年1月	人材紹介会社①
3月	地域新聞主催就職フォーラム